

わかる、できる、役に立つ!! ⑤ 拡張!活用!バリュースター

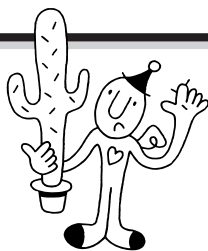
オプション周辺機器の接続を
詳しく解説!

パソコンの各部の名前や
仕様一覧も収録!

パソコンの故障を
もっと早く知ることができ、
トラブルを未然に防ぐ。



PC98-NX SERIES
VALUE STAR NX



周辺機器をつなぐには...

接続方法を読んでから

接続方法は周辺機器によって異なります。買っていきなり接続するのではなく、まずはこのマニュアル、周辺機器に添付のマニュアルをよく読んで、接続方法を理解してからにしましょう。

確実に

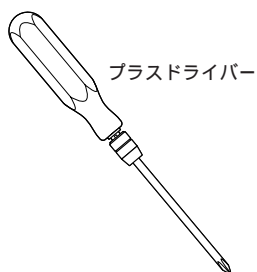
周辺機器の接続や操作、はずしたネジの取り付けなどは確実に行ってください。周辺機器やパソコンが動作しなくなる場合があります。また、ドライバーなどでパソコンや周辺機器を傷つけないようにしてください。

あわてない

周辺機器を接続すると、ドライバなどのインストール画面が出てきます。意味がわからなくてもあわててはいけません。落ちついて画面の説明をよく読んでみましょう。

用意するもの

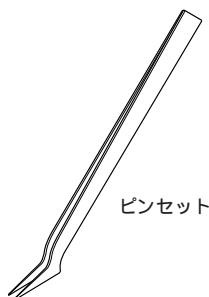
必要なもの



プラスドライバー

本体を開けるときに必要です。
本体のネジはすべてプラスですが、大きさが違うものがあるので、プラスドライバーは2、3種類の大きさを用意しましょう。

あると便利なもの



ピンセット

本体の中にネジなどを落としてしまったりしたときにあると便利です。

ドライバーは単品ではなく、セットになっているものを購入したほうがよいでしょう。



はじめに

この本は、構成が大きく二つに分けられています。

前編の「拡張ガイド」は、プリンタなどの機器をパソコンに接続したり、パソコン内部にメモリなどを取り付けたりするときの説明です。

後編の「活用ガイド」は、パソコンの設定を変更したりするとき役立つ情報です。

はじめてパソコンを使う方にとっては、他の本に比べると少し難しいかもしれませんが、この本はあなたがもっとパソコンに詳しくなるための道案内をしてくれます。説明をよく読んで、まちがいのないように操作してください。そして、思う存分にパソコンを使いこなしてください。

1999年10月 初版

『拡張!活用! バリュースター』の読み方

このマニュアルは、構成が大きく2つに分けられています。この「『拡張!活用! バリュースター』の読み方」を参考にして、前編または後編から、知りたい情報を探してください。

あなたがやりたいことはどっち?

パソコンをパワーアップしたい
周辺機器の増設などをしたい方は

前編

へ

パソコンをもっと知りたい、使いたい
パソコンの設定や、より詳しい使い方については

後編

へ

前編 拡張ガイド

このパソコンで使える周辺機器

- このパソコンに取り付けることができる周辺機器の説明です。

周辺機器を取り付けるときのポイント

- このパソコンに周辺機器を取り付けるときの、ポイントや注意です。

本体のコネクタに接続する周辺機器について

- プリンタなどの周辺機器、USB 対応機器の説明です。

PART 1

PART 2

PART 3

本体のカバーを開けて増設する周辺機器について

- 本体の開け方と閉め方、メモリ、PCI ボード、PC カード、SCSI 対応機器、ハードディスクなどの説明です。

PART 4

PART 5

PART 6

PART 7

PART 8

困ったときの対処方法など

- ドライブ、トラブルの対処法、リソースなどの説明です。

PART 9

後編 活用ガイド

ハードウェアの設定方法、機能の詳細などについて

PART 10

- マウス、キーボード、ディスプレイ、省電力機能など、ハードウェアの設定方法や機能について書かれています。また、フロッピーディスクやCD-ROM の取り扱いについても説明しています。



さらに詳しい使用環境の設定

PART 11

- BIOS セットアップメニューと電源管理モードについての説明です。

他のOS の利用、本体の各部の名称、機能仕様など

付 録

- このパソコンで、Windows NT 4.0 を利用したい場合はここをご覧ください。また、本体の各部の名称や機能仕様、FAX モデムボード機能仕様もここに記載しています。

このマニュアルの表記について

手順は左、補足説明は右に（前編の「拡張ガイド」のみ）

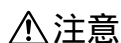
このマニュアルでは、操作手順は順番に画面を示しながら説明しています。実際のパソコンの画面を確かめながら操作を進めてください。パソコンの画面でむやみにマウスを操作すると、思わぬ画面が表示されることがあります。このマニュアルで、どこを操作すればよいのか必ず確認してください。また、ページの右側のグレーの部分には操作に関連する補足説明や用語解説などが記載されています。はじめてパソコンを扱う方は、右側の説明もよく読んでください。

このマニュアルでは、パソコンを安全にお使いいただくための注意事項を次のように記載しています



警告

注意事項を守っていただけない場合、人が死亡または重傷を負う可能性が想定されることを示します。



注意

注意事項を守っていただけない場合、人が傷害を負う可能性が想定されること、または物的損害のみ発生が想定されることを示します。



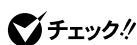
感電注意

注意事項を守っていただけない場合、発生が想定される障害または事故の内容を表しています。左のマークは感電の可能性が想定されることを示しています。このほかに、発火注意、けが注意、高温注意についても、それぞれ記載しています。



電源ケーブルのプラグを抜くように指示するものです。

このマニュアルで使用している記号や表記には、次のような意味があります



チェック!

してはいけないことや、注意していただきたいことを説明しています。よく読んで注意を守ってください。場合によっては、作ったデータの消失、使用しているアプリケーションの破壊、パソコンの破損の可能性があります。



用語

パソコンを使うときに知っておいていただきたい用語の意味を解説しています。



参照

マニュアルの中で関連する情報が書かれている所を示しています。

このマニュアルの表記では、次のようなルールを使っています

【 】

【 】で囲んである文字は、キーボードのキーを指します。

プリンタ、コネクタなど

「プリンター」や「コネクター」などの末尾に付く「ー」を省略して表記しています。これは、パソコンの画面に表示される用語や、パソコン関連書籍などでよく使われている表記に準拠しているためです。

CD-ROMドライブ

DVD-ROMモデルでは、DVD-ROMドライブのことを、CD-ROMモデルでは、CD-ROMドライブのことを指します。

このマニュアルでは、各モデル（機種）を次のような呼び方で区別しています

下記の表をご覧になり、購入された製品の型名とマニュアルで表記されるモデル名を確認してください。

このパソコン	表の各モデル(機種)を指します。
CRTディスプレイ セットモデル	CRTディスプレイがセットになっているモデルのことです。
液晶ディスプレイ セットモデル	液晶ディスプレイがセットになっているモデルのことです。
CD-ROMモデル	CD-ROMドライブを搭載しているモデルのことです。
DVD-ROMモデル	DVD-ROMドライブを搭載しているモデルのことです。
TVモデル	テレビ/地上波データ放送を見るための機能やDVD-ROMドライブを搭載したモデルのことです。
一太郎モデル	Voice一太郎10・花子10パックがあらかじめインストールされているモデルのことです。
Office 2000モデル	Office 2000 Personalがあらかじめインストールされているモデルのことです。

型 名	型 番	表記の区分			
		本体の形状	CD-ROM /DVD-ROM	ディスプレイ	添付アプリケーション
VC600J/1GC1	PC-VC600J1GC1	コンパクトタイプ	DVD-ROM モデル	液晶ディスプレイセットモデル (15 型液晶)	一太郎モデル
VC600J/1GD1	PC-VC600J1GD1				Office 2000モデル
VC550J/1FC1	PC-VC550J1FC1				一太郎モデル
VC550J/1FD1	PC-VC550J1FD1				Office 2000モデル
VC500J/1FC1	PC-VC500J1FC1				一太郎モデル
VC500J/1FD1	PC-VC500J1FD1				Office 2000モデル
VC46H/1FC1	PC-VC46H1FC1		CD-ROM モデル	液晶ディスプレイセットモデル (14 型液晶)	一太郎モデル
VC46H/1FD1	PC-VC46H1FD1				Office 2000モデル
VC46H/1FC2	PC-VC46H1FC2				一太郎モデル
VC46H/1FD2	PC-VC46H1FD2				Office 2000モデル
VC46H/1XC1	PC-VC46H1XC1				一太郎モデル
VC46H/1XD1	PC-VC46H1XD1				Office 2000モデル
VC46H/1XC2	PC-VC46H1XC2				一太郎モデル
VC46H/1XD2	PC-VC46H1XD2				Office 2000モデル

型 名	型 番	表記の区分				
		本体の形状	CD-ROM /DVD-ROM	ディスプレイ	添付アプリケーション	
VE500J/17C	PC-VE500J17C	コンパクトタイプ	DVD-ROM モデル	CRT ディスプレイセットモデル	一太郎モデル	
VE500J/17D	PC-VE500J17D			(17 型 CRT)	Office 2000モデル	
VE46H/17C	PC-VE46H17C		CD-ROM モデル	CRT ディスプレイセットモデル	一太郎モデル	
VE46H/17D	PC-VE46H17D				Office 2000モデル	
VE46H/15C	PC-VE46H15C				(15 型 CRT)	一太郎モデル
VE46H/15D	PC-VE46H15D					Office 2000モデル
VT500J/1FC	PC-VT500J1FC	TV モデル	DVD-ROM モデル	液晶ディスプレイセットモデル	一太郎モデル	
VT500J/1FD	PC-VT500J1FD			(15 型液晶)	Office 2000モデル	
VT500J/17C	PC-VT500J17C			CRT ディスプレイセットモデル	一太郎モデル	
VT500J/17D	PC-VT500J17D			(17 型 CRT)	Office 2000モデル	

購入された製品の型名、型番の末尾に「9」が付加されている場合は、末尾の「9」を除いて、モデル名を確認してください。

本文中の画面、イラスト

本文中の画面やイラストはモデルによって異なることがあります。また、実際の画面と異なることがあります。

このマニュアルで使用しているアプリケーション名などの正式名称

(本文中の表記)	(正式名称)
Windows、 Windows 98 Windows NT 4.0	Microsoft® Windows® 98 Second Edition Operating System 日本語版 Microsoft® Windows NT® Workstation operating system Version 4.0
一太郎	Voice一太郎10
一太郎10・花子10パック、 Voice一太郎10・花子10パック	Voice一太郎10・花子10パック(Voice一太郎10、花子10、三四郎9、 ATOK13、VoiceATOK3、Shuriken2.1V、Sasuke2.0)
Office 2000 Personal	Microsoft® Office 2000 Personal(Microsoft Word 2000、 Microsoft Excel 2000、Microsoft Outlook® 2000、Microsoft / Shogakukan Bookshelf® Basic)
MS-IME 98	Microsoft® IME 98
MS-IME 2000	Microsoft® IME 2000

■ 技術基準等適合認定について

このパーソナルコンピュータは、電気通信事業法第72条の2第1項の規定に基づく端末機器の設計についての認証を受けています。申請回線と認証番号は次のとおりです。なお、専用回線等との接続は、一般のお客様には行えませんので、必ずご購入元にご相談ください。

認証機器名：SF-DJP-ST

認証番号

電話回線：A99-0794JP

導入にあたっては、「MDMNDJP.INF」または「MDMDJPNT.INF」のファイルを含む専用ドライバを必ず使用してください。

使用されない場合は、この技術基準を遵守できない場合がありますので、十分にご注意ください。

■ 高調波電流規制について

この装置の本体および17型CRTディスプレイは、高調波ガイドライン適合品です。

■ 電波障害自主規制について

この装置は、情報処理装置等電波障害自主規制協議会（VCCI）の基準に基づくクラスB情報技術装置です。この装置は、家庭環境で使用することを目的としていますが、この装置がラジオやテレビジョン受信機に近接して使用されると、受信障害を引き起こすことがあります。取扱説明書に従って正しい取り扱いをしてください。

■ 漏洩電流自主規制について

この装置の本体およびディスプレイは、社団法人日本電子工業振興協会のパソコン基準（PC-11-1988）に適合しております。

■ 瞬時電圧低下について

本装置は、落雷等による電源の瞬時電圧低下に対し不都合が生じることがあります。

電源の瞬時電圧低下対策としては、交流無停電電源装置等を使用されることをおすすめします。（社団法人日本電子工業振興協会のパーソナルコンピュータの瞬時電圧低下対策ガイドラインに基づく表示）

■ レーザ安全基準について

この装置には、レーザに関する安全基準（JIS・C-6802、IEC825）クラス1適合のCD-ROMドライブまたはDVD-ROMドライブが搭載されています。

ご注意

- (1) 本書の内容の一部または全部を無断転載することは禁じられています。
- (2) 本書の内容に関しては将来予告なしに変更することがあります。
- (3) 本書の内容については万全を期して作成いたしました。万が一不審な点や誤り、記載もれなどお気づきのことがありましたら、ご購入元、最寄りのBit-INN、またはNECパソコンインフォメーションセンターへご連絡ください。落丁、乱丁本は、お取り替えいたします。ご購入元までご連絡ください。
- (4) 当社では、本装置の運用を理由とする損失、逸失利益等の請求につきましては、(3)項にかかわらずいかなる責任も負いかねますので、予めご了承ください。
- (5) 本装置は、医療機器、原子力設備や機器、航空宇宙機器、輸送設備や機器など、人命に関わる設備や機器、および高度な信頼性を必要とする設備や機器などへの組み込みや制御等の使用は意図されておりません。これら設備や機器、制御システムなどに本装置を使用され、人身事故、財産損害などが生じても、当社はいかなる責任も負いかねます。
- (6) 海外 NEC では、本製品の保守・修理対応をしておりませんので、ご承知ください。
- (7) 本機の内蔵ハードディスクにインストールされているMicrosoft® Windows® 98および本機に添付のCD-ROM、DVD-ROM、フロッピーディスクは、本機のみでご使用ください。
- (8) ソフトウェアの全部または一部を著作権の許可なく複製したり、複製物を頒布したりすると、著作権の侵害となります。
- (9) ハードウェアの保守情報をセーブしています。

Microsoft、MS、MS-DOS、Windows、Windows NT、Outlook、Bookshelf、およびWindowsのロゴは、米国 Microsoft Corporationの米国およびその他の国における商標または登録商標です。

「一太郎」「花子」「ATOK」「Voice 一太郎 10・花子 10 パック」「VoiceATOK」「Sasuke」「Shuriken」は、株式会社ジャストシステムの登録商標または商標です。

「Voice 一太郎 10・花子 10 パック」は、株式会社ジャストシステムの著作物であり、「Voice 一太郎 10・花子 10 パック」にかかる著作権、その他の権利は、株式会社ジャストシステムおよび各権利者に帰属します。商標「三四郎」は、株式会社エス・エス・ピーの登録商標であり、株式会社ジャストシステムは商標使用許諾を受けています。

SmartVoice、BIGLOBE、BIGLOBE 電話で入会ナビ、PC ポータルは、日本電気株式会社の商標です。

Intel、Pentiumは、Intel Corporationの登録商標です。

Celeronは、Intel Corporationの商標です。

Hayesは、米国 Hayes Microcomputer Productsの登録商標です。

MNPは、Microcom, Inc.の登録商標です。

YAMAHAは、ヤマハ株式会社の登録商標です。

K56flexは、Lucent TechnologiesとCONEXANT SYSTEMSの商標です。

その他、本マニュアルに記載されている会社名、商品名は、各社の商標または登録商標です。

© NEC Corporation 1999

日本電気株式会社の許可なく複製・改変などを行うことはできません。

■ 輸出する際の注意事項

本製品（ソフトウェアを含む）は日本国内仕様であり、外国の規格等には準拠していません。

本製品は日本国外で使用された場合、当社は一切責任を負いかねます。

また、当社は本製品に関し海外での保守サービスおよび技術サポート等を行っていません。

本製品の輸出については、外国為替及び外国貿易法に基づいて通商産業省の許可が必要となる場合があります。

必要な許可を取得せずに輸出すると同法により罰せられます。

輸出に際しての許可の要否については、ご購入頂いた販売店または当社営業拠点にお問い合わせ下さい。

目次 CONTENTS

はじめに	i
『拡張！活用！バリュースター』の読み方	ii
このマニュアルの表記について	iv

前編 - 拡張ガイド -

このパソコンで使える周辺機器	2
本体前面に取り付けることができる周辺機器	2
本体背面に取り付けることができる周辺機器	3
本体内部に取り付けることができる周辺機器	4
周辺機器を取り付けるときのポイント	5
購入する前に、このパソコンで使えることを確認しよう	5
パソコンの電源を切ってから取り付けよう	5
USB 対応機器なら、電源を入れたまま取り付けられる	5
メモリや PCI ボードなどは、本体のカバーを開けて中に取り付ける ...	6
取り付けただけですぐに使えない周辺機器	6

PART

1

このパソコンで使える周辺機器	7
周辺機器選びで失敗しないために	8
事前に情報を集めよう	8
接続の規格を見極めよう	8
プリンタ	9
プリンタを使う	10
AV 機器を接続する	11
マイクロホン端子	11
LINE IN 端子	12
LINE OUT 端子	12
ヘッドホン端子	12
ターミナルアダプタ	13
ターミナルアダプタを使う	14
デジタルカメラ	15
用意するもの	15
画像データを取り込む	15

PART

2

その他の機器のご紹介	16
CD-RW ドライブ	16
USB リンクケーブル	17
PCI ボード	18
赤外線通信インタフェースユニット	19
プレイスティック、プレイパッド、ドライビングホイール	19

パワーアップのための基礎知識..... 21

接続から準備完了までの流れ	22
ドライバなどをインストールする	23
周辺機器の取り外しと再接続	24
機器を取り付けるときのご注意	25
本体の開け方と閉め方	26
用意するもの	26
ルーフカバーの外し方	26
ルーフカバーの取り付け方	30

PART

3

USB 対応機器を使う..... 33

USB とは	34
USB なら簡単接続	34
USB コネクタについて	35
USB 対応機器を接続する	36
接続する前に	36
USB コネクタにプラグを差し込む	37
正しく接続できたかどうか確認する	40
ハイパワーデバイスについて	41
USB ハブを使う	41

PART

4

PC カードを使う..... 43

PC カードスロットについて	44
PC カードの入れ方と出し方	45

PART

5

PART

6

PART

7

PC カードをセットする	45
PC カードを取り出す	47

PCI ボードを使う 51

PCI ボードについて	52
いろいろな PCI ボード	52
PCI スロット	52
PCI ボードを取り付ける	53

メモリを増やす 57

メモリを増やすには	58
このパソコンで使える増設 RAM サブボード	59
メモリの増やし方の例	59
増設 RAM サブボードの取り付けと取り外し	61
ボードを取り扱うときに気をつけること	61
増設 RAM サブボードの取り付け方	61
RAM サブボードの取り外し方	63
増やしたメモリを確認する	64
確認のしかた	64
メモリが増えていなかったら	65

SCSI インターフェイス対応機器を使う 67

SCSI 機器を使うには	68
SCSI インターフェイスについて	69
接続できる SCSI 機器	69
SCSI に関する基礎知識	69
SCSI インターフェイスの種類	70
用意するもの	71
SCSI インターフェイスボードを取り付ける	72
SCSI 機器を接続する	73

PART

8

SCSI 機器がうまく動かないときは 74

ハードディスクを増設する 75

ハードディスクを増設するには 76

用意するもの 77

本体にハードディスクを接続する 78

ハードディスクをフォーマットする 80

増設したドライブのドライブ名について 81

領域作成の準備をする 82

領域を作成する 84

増設したハードディスクを確認する 86

ドライブをフォーマットする 87

PART

9

うまく動かないときは 89

困ったときのチェックポイント 90

リソースに関する問題 91

リソースって何? 91

リソースの競合とは 91

リソースが競合していたら 92

デバイスのリソース設定の変更 92

このパソコンが使用しているリソース 95



後 編 - 活用ガイド -

PART

10

ハードウェア 99

マウス 100

スクロールボタンを使う 100

「マウス プロパティ」ウィンドウでの設定 101

キーボード 103

キーの役割 103

キーの名称	103
「キーボード プロパティ」ウィンドウでの設定	105
PC-9800 シリーズのキーボードとのキーの違い	107
ワンタッチスタートボタン	108
各ボタンの名前と役割	108
ハードディスク	110
概要	110
取り扱いの注意	110
ドライブコンバータ (FAT32)	110
フロッピーディスク	112
使用できるフロッピーディスクの種類	112
フロッピーディスクのバックアップ	112
Windows 98 起動ディスク	113
ディスプレイ	116
概要	116
別売のディスプレイを使う場合	117
解像度と表示色の変更	118
ディスプレイの省電力機能について	119
ディスプレイに合わせて設定する	120
省電力機能 (スタンバイ)	123
概要	123
スタンバイ状態にする	123
スタンバイ状態から電源が入っている状態に復帰する	125
電源の管理のプロパティで設定する	126
スタンバイ状態にするときの注意	127
サウンド機能	129
概要	129
スピーカ	129
マイクロホン	130
ボリュームコントロール	130
ヤマハ DS-XG 設定	133
サウンド全般についての注意	133
FAX モデムボード	134
概要	134

PART

1 1

FAX モデムボードを使用するときの注意	135
----------------------------	-----

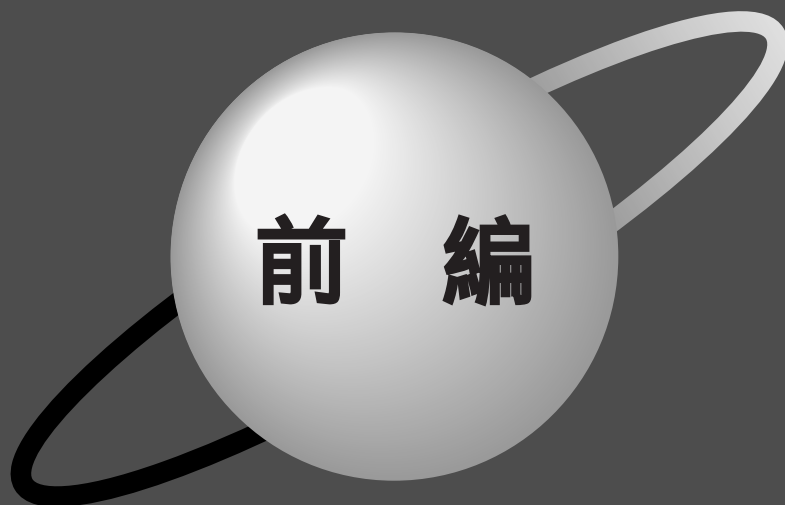
本機の設定を変更する 137

BIOS セットアップメニュー	138
BIOS セットアップメニューを使ってできること	138
BIOS セットアップメニューを使う	138
パスワードの設定と入力	143
パスワードの解除	145
電源管理モードについて	147
ACPI モードと APM モード	147
モードの切り替え	148
APM モードでタイマー機能を利用する場合の注意	150
その他の注意	150

付 録 153

Windows NT 4.0 の利用	154
Windows NT 4.0 をセットアップする前に	154
Windows NT 4.0 のセットアップとアップグレード	155
本機で Windows NT 4.0 を利用するときの注意	161
本体の各部の名称	162
機能仕様	166
FAX モデムボード機能仕様	170

索 引 173



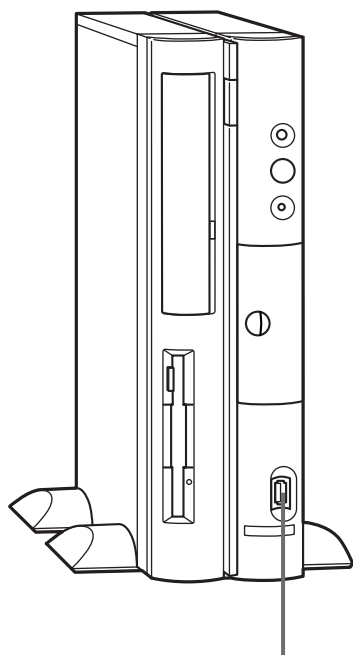
拡張ガイド

前編「拡張ガイド」は、パソコンに別売の機器を接続したり、内部に増設したりして機能を拡張する方法の説明です。機器を接続したり、増設したりするときは、該当するPARTを探し出して、間違いのないように作業してください。

このパソコンで使える周辺機器

本体前面に取り付けることができる周辺機器

周辺機器の取り付けの際は、その周辺機器がこのパソコンで使えるかどうか十分確認してください。また、取り付け手順については、周辺機器のマニュアルやこのマニュアルを参考にしてください。

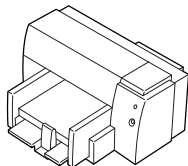


USB コネクタについて

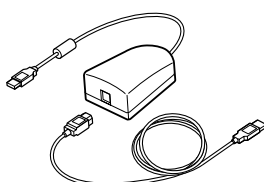
- ・液晶ディスプレイセットモデルの場合
USB コネクタは本体前面、キーボードの裏側、液晶ディスプレイにあります。
- ・CRT ディスプレイセットモデルの場合
USB コネクタは本体前面、本体背面、キーボードの裏側にあります。

USB コネクタ

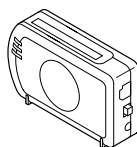
USB 対応プリンタ
→ PART1



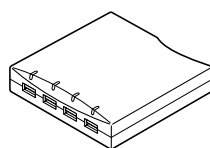
USB リンクケーブル
→ PART1



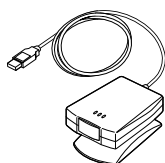
USB 対応メモリーカード
リーダー/ライター



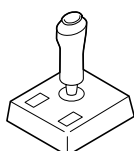
USB ハブ
→ PART3



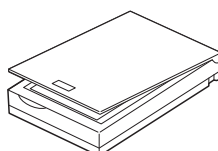
USB 対応赤外線通信
インターフェースユニット → PART1



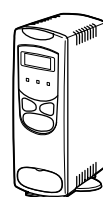
USB 対応プレイスティック
→ PART1



USB 対応スキャナ



USB 対応ISDNターミナルアダプタ
→ PART1



USB 対応デジタルビデオカメラ

USB 対応プレイパッド → PART1

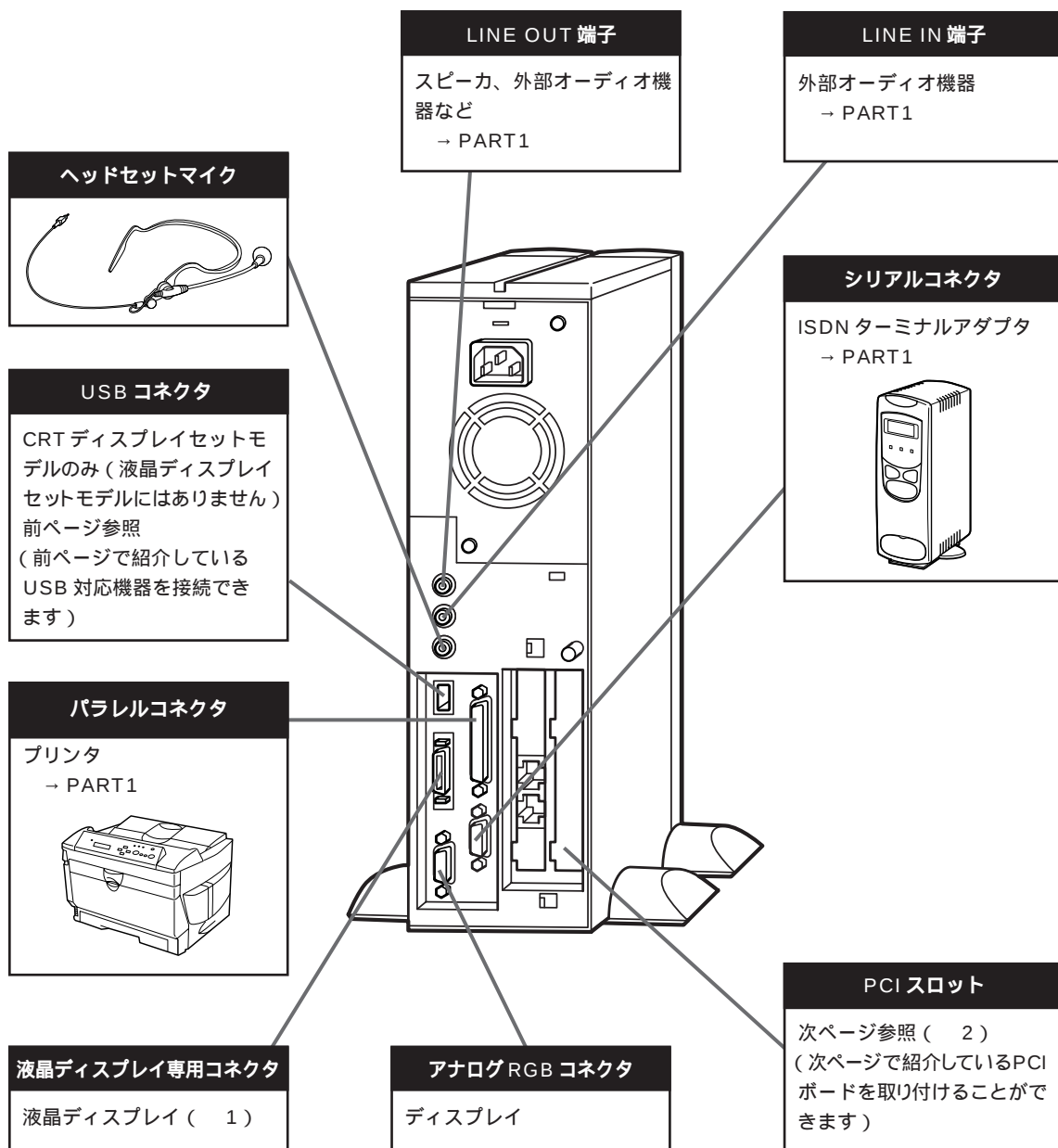
USB 対応ドライビングホイール → PART1

その他の USB 対応機器（標準添付のキーボード、マウスを含む）

USB コネクタが不足するときは、別売の USB ハブを使ってコネクタを増やすことができます。

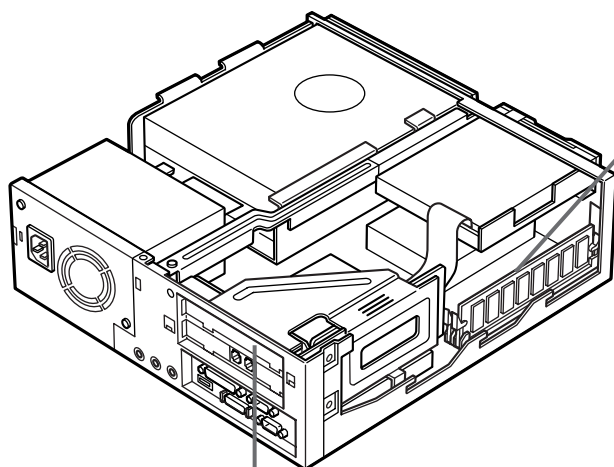
本体背面に取り付けることができる周辺機器

下の図はCRTディスプレイセットモデルです。



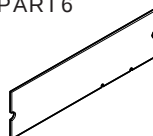
- 1・液晶ディスプレイセットモデルにセットの液晶ディスプレイを接続する専用コネクタです。セットの液晶ディスプレイ以外は接続できません。
- 2・TVモデルは地上波TV&データ放送ボードで占有済みです。

本体内部に取り付けることができる周辺機器



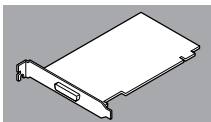
増設 RAM サブボード用コネクタ

増設 RAM サブボード
→ PART6

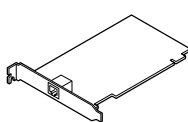


PCI スロット

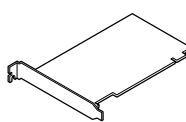
SCSI インターフェイスボード
→ PART7



LAN (ネットワーク) ボード
→ PART1

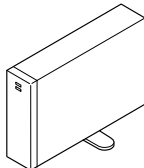


その他の PCI 対応ボード
→ PART5

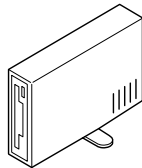


SCSI 対応機器 (SCSI インターフェイスボードに接続します)

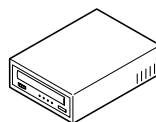
ハードディスクドライブ



MO ディスクドライブ



その他の SCSI 対応機器
(CD-RW ドライブなど)



周辺機器を取り付けるときのポイント

購入する前に、このパソコンで使えることを確認しよう

たとえば同じプリンタでも、接続方法や対応パソコンの種類などが、機種によって異なります。機器によっては、このパソコンでは使えない場合があります。

せっかく買ってきたのに使えなかった、ということにならないように、周辺機器を購入する前に、その周辺機器がこのパソコンで使えるかどうかを確認しましょう。

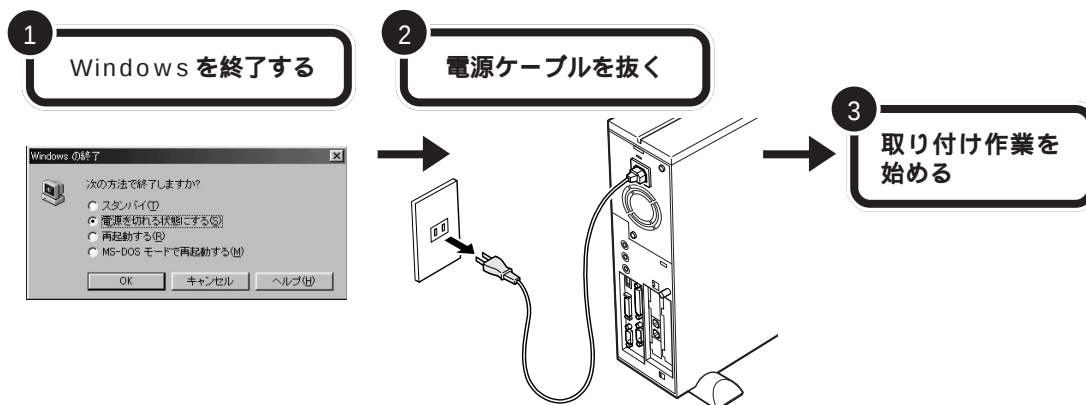
なお、NECのインターネットホームページ「98Information」や「PICROBO」などで周辺機器や増設方法を紹介しているので、インターネットに接続できる方は、参考にしてください。

「98Information」のアドレス(URL) <http://www.nec.co.jp/98/>

「PICROBO」のアドレス(URL) <http://www.nec.co.jp/picrobo/>

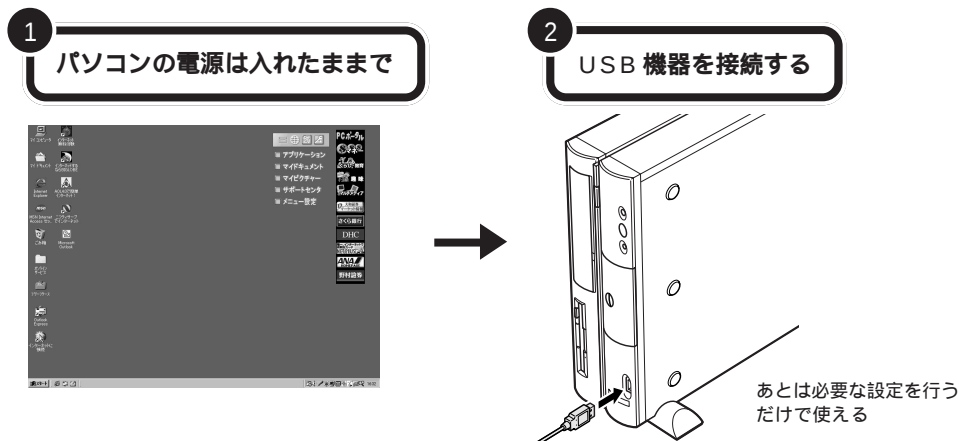
パソコンの電源を切ってから取り付けよう

周辺機器を取り付けるときは、原則として、パソコン本体の電源を切り、コンセントから電源ケーブルを抜きます。そうしないと、感電したり、パソコンや周辺機器が故障してしまうかもしれないからです。



USB 対応機器なら、電源を入れたまま取り付けられる

USB 対応機器は、一般の周辺機器とは異なり、パソコンの電源を入れた状態のまま、接続したり取り外したりできるようになっています。ふだんは取り外しておいて、必要になったときに接続し、使い終わったら取り外す、というような使い方ができるのです。

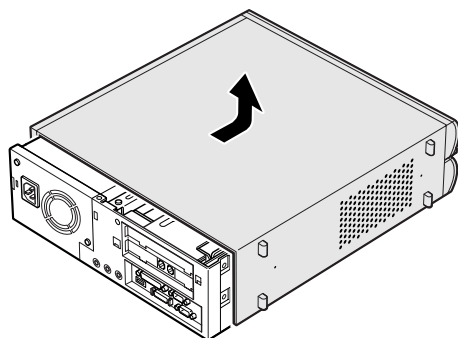


メモリやPCIボードなどは、本体のカバーを開けて中に取り付ける

メモリを増やすために必要な「増設RAMサブボード」や、SCSI対応機器などを使うために必要な「PCIボード」などは、パソコン本体の中に取り付ける場所があります。これらの機器を取り付けるときは、パソコン本体のカバーを開けることになります。PART2の「本体の開け方と閉め方」をよく読んで、慎重に行ってください。

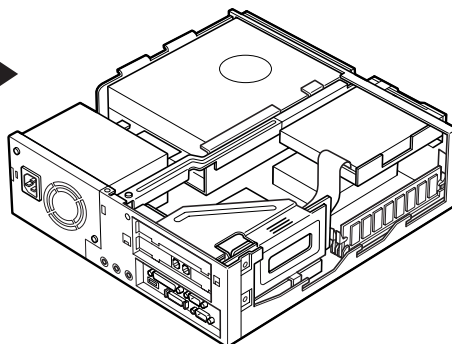
1

パソコン本体のカバーを
外してから



2

取り付け作業を始める



参照 カバーの開け方→PART2の「本体の開け方と閉め方」(p.26)

取り付けただけではすぐに使えない周辺機器

ヘッドホンやオーディオ機器のように、パソコンにケーブルを接続しただけでそのまま使い始められるものもあります。ほとんどの周辺機器は、取り付けただけでは使えず、取り付け後にパソコン上で設定を行う必要があります。たとえば、

- ・ハードディスクを増設したら、そのハードディスクをフォーマットする必要がある(詳しくはPART8を参照)
- ・プリンタやSCSIインターフェイスボードなどを取り付けたら、「ドライバ」という専用のソフトウェアを設定する必要がある(詳しくはPART2を参照)
- ・ターミナルアダプタやスキャナ、プレイパッドなどを取り付けたら、それらを便利に使うためのアプリケーションやユーティリティが必要になる

詳しくは、このマニュアルの各PARTの説明や、お使いの周辺機器に添付のマニュアルをご覧ください。

P A R T

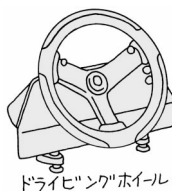
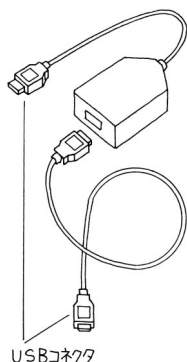
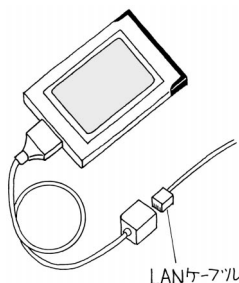
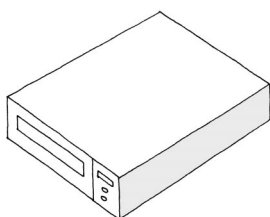
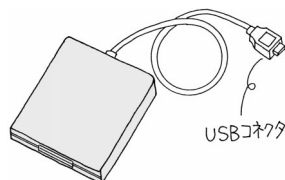
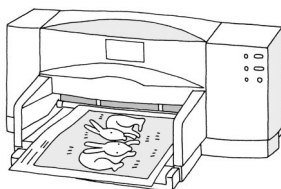
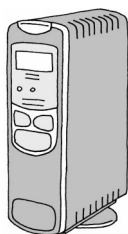
1

このパソコンで使える周辺機器

プリンタやデジタルカメラ、スキャナなどの周辺機器をつなげば、あなたのパソコンライフがますます豊かなものになります。ここでは、このパソコンで使える周辺機器について紹介します。

周辺機器選びで失敗しないために

プリンタなどの周辺機器にはさまざまな種類があり、接続の規格にもいろいろあります。機器によっては、このパソコンでは使えないものがあるので注意が必要です。



■ 事前に情報を集めよう

パソコン雑誌などでは、プリンタやデジタルカメラなど、ジャンル別に周辺機器の新製品を紹介する特集記事が載ることがよくあります。自分の欲しい製品がないか、チェックするときに役立ちます。また、インターネットでは、次のホームページでこのパソコンで使える周辺機器を紹介していますので、参考にしてください。

「98 Information」のアドレス(URL)

<http://www.nec.co.jp/98/>

「PICROBO」のアドレス(URL)

<http://www.nec.co.jp/picrobo/>

■ 接続の規格を見極めよう

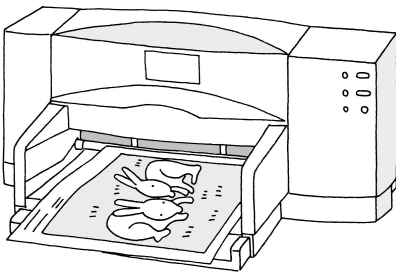
このパソコンにはシリアルコネクタ(RS-232C)、パラレルコネクタ(セントロニクスなどと記載)、USBコネクタ、PCI スロット、PC カードスロットがあります。周辺機器の中には、同じ種類でも複数の規格に対応しているものがあります。規格には、それぞれ適しているもの、適していないものがありますので、購入するときは、パソコンに詳しい友人やパソコンショップの店員さんなどに相談しましょう。

プリンタ

プリンタは、パソコンで作った文書はもちろん、写真なども印刷することができます。プリンタの種類もいろいろあります。ここでは、プリンタの種類と接続の流れを簡単に説明します。

プリンタには次のような種類があります。自分の用途に合ったプリンタを選びましょう。

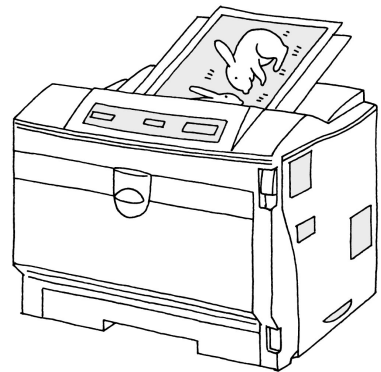
●インクジェットプリンタ



価格が手ごろなものからあり、個人用としては、もっともポピュラーなタイプです。細かい粒子状にした液体のインクを紙に吹き付けて印刷します。写真などを美しくカラー印刷で印刷できますが、印刷に多少時間のかかるものもあります。

●レーザープリンタ(ページプリンタ)

コピー機と同じようにトナーを紙に焼きつけて印刷するプリンタです。音が静かで、高速に印刷ができます。しかし、カラー印刷ができるものは高価なため、モノクロ印刷のものが主流になっています。



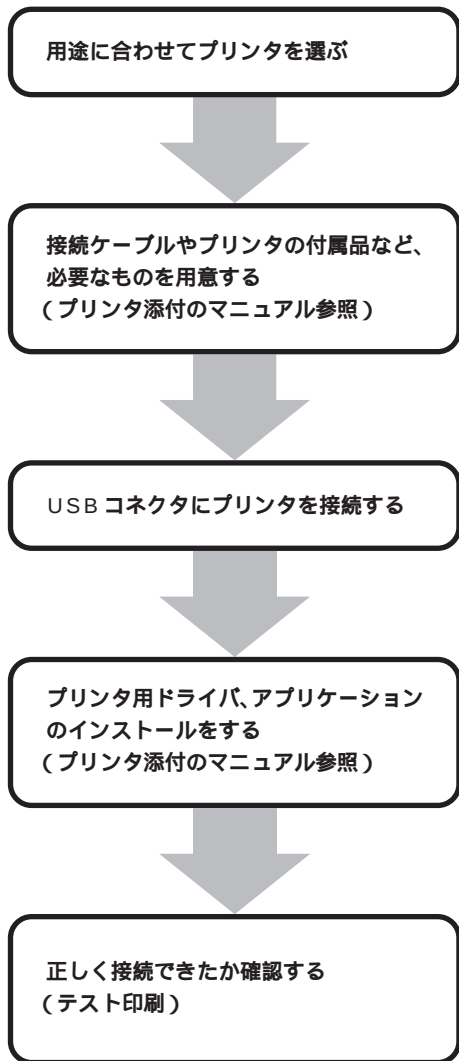
●ドットインパクトプリンタ

紙にインクリボンをあてて、その上からピンを打ち付けて印字する方式です。印字文字が粗く、大きな音をたてますが、カーボン紙などを使った複写式の伝票などを印刷するときはこのタイプを使います。

■ プリンタを使う

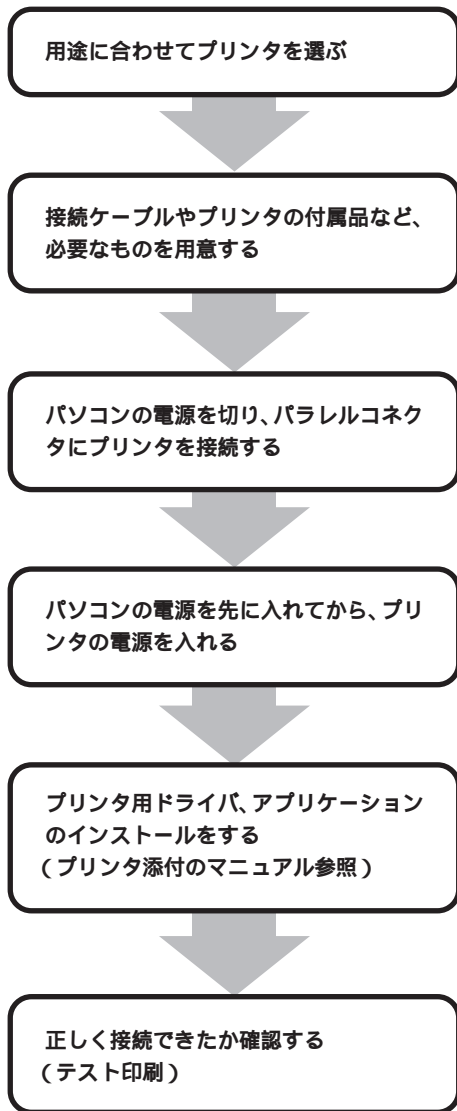
ここではプリンタが使えるようになるまでの手順を説明します。
プリンタは、本体の USB コネクタまたはパラレルコネクタに接続します。

・USB コネクタに接続する場合



ほとんどの場合、専用のドライバやアプリケーション(プリンタに添付してあるもの)のインストールが必要になります(機種によっては、接続するだけですぐに使えるプリンタもあります)。詳しくはプリンタに添付のマニュアルをご覧ください。

・パラレルコネクタに接続する場合



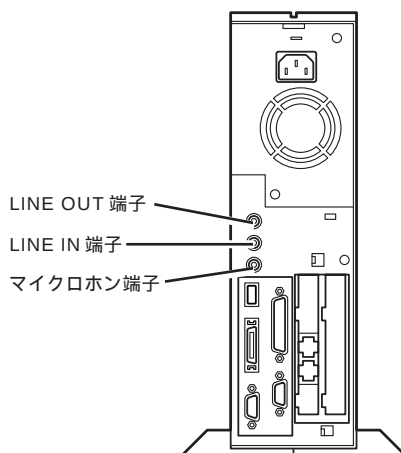
用語

ドライバ

情報をパソコンから周辺機器へ適切に伝えるためのソフトウェアです。周辺機器を接続したとき、最初に一度だけ組み込み(インストール)ます。

AV 機器を接続する

このパソコンにはマイクロホン、AV 機器などを接続する端子(LINE IN、LINE OUT、ヘッドホン)があります。パソコンの音を外部のスピーカで鳴らしたり、マイクロホンでパソコンに音を取り込んだりすることができます。



■ マイクロホン端子

この端子に外部オーディオ機器を接続し

この端子にマイクロホンを接続して、パソコンに音を取り込むことができます。

● 音量の調節

マイクロホンからの入力音量は Windows 98 の「ボリュームコントロール」の機能で調節します。

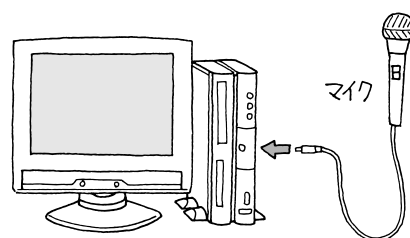
● ハウリングについて

マイクロホンを本体のスピーカに近づけると、スピーカから「キーン」という大きな音が出ることがあります。これをハウリング現象といいます。故障ではありません。この場合は、次の対策を行ってください。

- ・マイクロホンをスピーカから遠ざける
- ・「ボリュームコントロール」で入力音量(ボリューム)を小さくする

● 取り込んだ音声の利用

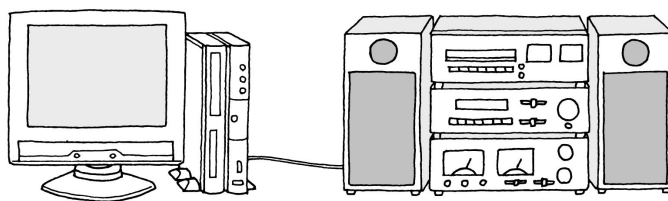
マイクロホンから取り込んだ音声は、「サウンドレコーダー」というアプリケーションを使って録音し、ファイルに保存することができます。詳しくは、サウンドレコーダーのヘルプをご覧ください。「サウンドレコーダー」はランチ-NX の「マルチメディア」に入っています。



マイクロホン端子は本体背面にあります。

■ LINE IN 端子

この端子に外部オーディオ機器を接続して、パソコンで音を聞いたり録音したりできます。この端子に接続できるのは、ステレオミニプラグ付きのオーディオケーブルです。



■ LINE OUT 端子

この端子に外付けスピーカや外部オーディオ機器を接続して、パソコンの音を聞いたり、テープレコーダ等に録音したりできます。

この端子に接続できるのは、ステレオミニプラグ付きのオーディオケーブルです。ミニプラグ付きのオーディオケーブルは、パソコン本体とは別売なので、電器店などで購入してください。

ケーブルを外部オーディオ機器側に接続するときは、「LINE IN」、「AUX IN」などの入力端子に接続してください。また、外部オーディオ機器に「MIC IN」しかない場合は、「抵抗入り」のオーディオケーブルを購入してください。

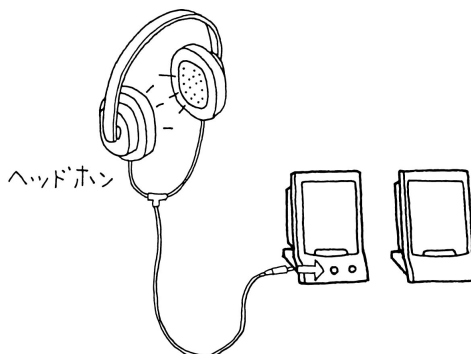
■ ヘッドホン端子

この端子にイヤホンやヘッドホンに接続して、パソコンの音を聞くことができます。この端子に接続できるのは、ステレオミニプラグ付きのヘッドホンです。お持ちのヘッドホンのプラグが大きくて入らないときは、電器店などで「ステレオ標準プラグ→ステレオミニプラグ」変換プラグを購入してください。

- ・液晶ディスプレイセットモデルの場合
ヘッドホンは液晶ディスプレイのヘッドホン端子に接続します。



- ・CRT ディスプレイセットモデルの場合
外付けスピーカのヘッドホン端子に接続します。



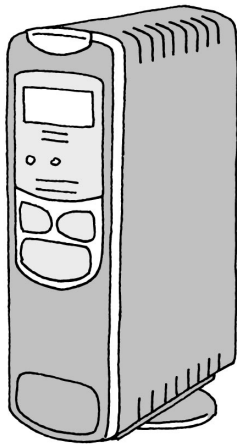
ターミナルアダプタ

ここでは、より高速にインターネットを楽しむことができる ISDN 回線と、このパソコンにつなげられるターミナルアダプタ (ISDN ターミナルアダプタ) について簡単に説明します。

ISDN回線を利用すると、モデムと比べてより高速なデータ通信速度でインターネットを楽しむことができます。さらに、次のようなメリットがあります。

- ・ノイズの混入や信号の減衰がない
- ・一本の回線で二本分利用できるため、インターネットに接続しながら電話をかけられる

ISDN 回線を利用するときには、ターミナルアダプタのほかに DSU という装置が必要です。DSU を内蔵するタイプのターミナルアダプタもあります。



✓チェック!!

ISDN 回線を使って高速でインターネットに接続するには、プロバイダが ISDN 回線に対応していないと接続できません。

ISDN ターミナルアダプタを使う前に次のことを確認してください。

- ・ISDN回線の契約をしていること
- ・DSU が内蔵されていること (ターミナルアダプタに DSU が内蔵されていない場合、別途用意してください)
- ・ISDN回線用のコンセントがモジュラー式になっていること

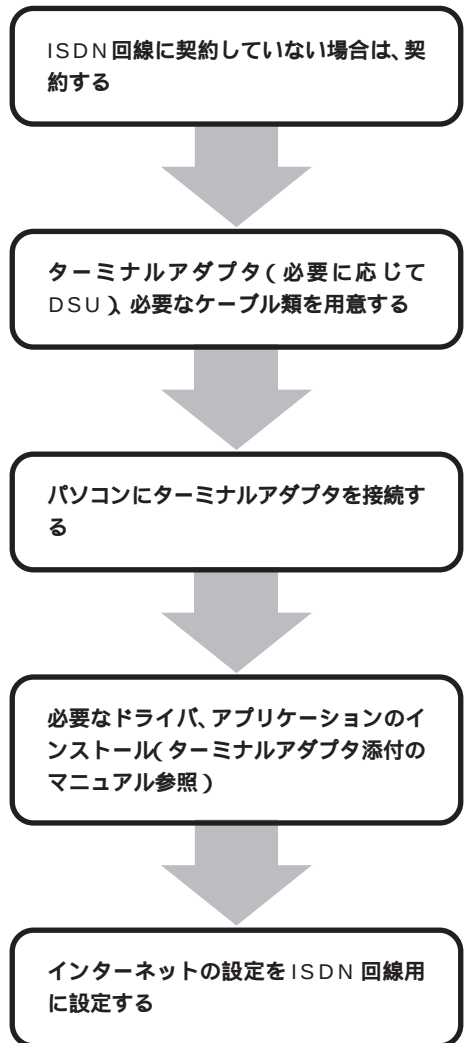
このパソコンにターミナルアダプタを接続するときは、USB コネクタか、シリアルコネクタに接続します。

■ ターミナルアダプタを使う

接続後、ドライバやターミナルアダプタを使うためのアプリケーションのインストールが必要になります。
詳しくはターミナルアダプタに添付のマニュアルをご覧ください。



ターミナルアダプタを接続したら、インターネットの設定をISDN回線用に変更してください。



デジタルカメラ

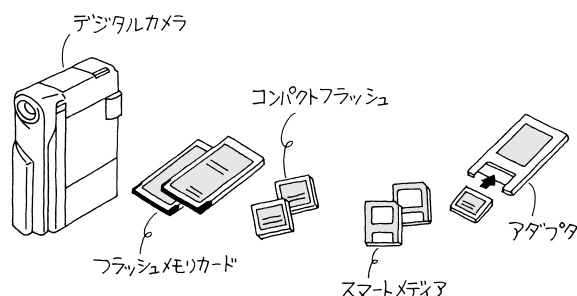
デジタルカメラで撮影した写真(画像)をこのパソコンに取り込んで、画像データとして保存すると、いろいろなアプリケーションで活用できます。

■用意するもの

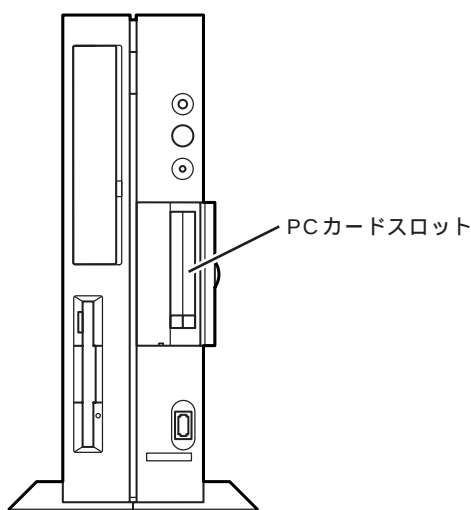
- ・デジタルカメラ
- ・フラッシュメモリカードまたはPCカードスロット用のアダプタ

フラッシュメモリカードに写真を記録するタイプのデジタルカメラの場合、カメラからフラッシュメモリカードを取り出して、そのままこのパソコンのPCカードスロットに取り付けることができます。

コンパクトフラッシュやスマートメディアなど、小型のメモリカードに写真を記録するデジタルカメラの場合、小型のメモリをPCカードスロットにセットできるようにするための専用のアダプタが必要になります。



■画像データを取り込む



デジタルカメラで写真を撮る

PCカードスロットにメモリーカードをセットする(必要に応じてPCカードスロット用のアダプタを使う)

画像を取り込む(デジタルカメラのマニュアル参照)



参照

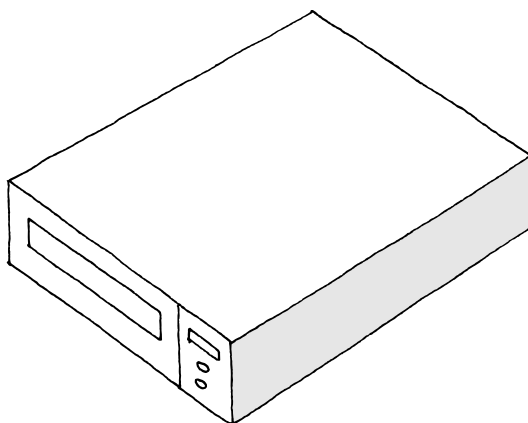
PCカードの取り扱い方→「PART4 PCカードを使う」
(p.43)

その他の機器のご紹介

その他の周辺機器の紹介です。ここでは比較的良好に使われる周辺機器を簡単に説明します。周辺機器選びの参考にしてください。

■ CD-RW ドライブ

通常の CD-ROM は、データを保存できない読み取り専用のメディアです。CD にデータを保存するには、CD-R (1 回だけ書き込み可能で書き換え不可) や CD-RW (何度も書き込み / 書き換え可能) など専用のメディアと、CD-RW ドライブという装置が必要です。CD-R や CD-RW には最大 650M バイトと大量のデータが保存できるため、ハードディスクドライブのバックアップなど、大量のデータを保存したいときに、CD-RW ドライブがあると便利です。



CD-RW ドライブでデータを保存した CD-R や CD-RW は、このパソコンに内蔵の CD-ROM ドライブ (または DVD-ROM ドライブ) で利用できます。

CD-RW ドライブを購入するときは、接続の規格に注意してください。SCSI インターフェイス対応のものは、別途 SCSI ボード (PCI スロットに取り付けます) または、SCSI カード (PC カードスロットに取り付けます) が必要です。

その他の大容量記憶装置には、以下のようなものがあります。これらも SCSI インターフェイス対応機器です。

・ 外付け用ハードディスクドライブ

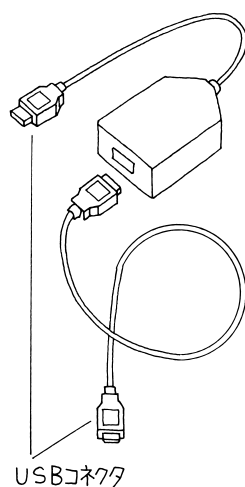
データをたくさん保存したり、多くのアプリケーションをインストールしていくとハードディスクが足りなくなってきました。そんなときは外付け用ハードディスクを増設して容量を増やすことができます。

・ MO ディスクドライブ

3.5 インチ MO ディスク (光磁気ディスク) を扱うことができるドライブです。3.5 インチ MO ディスクの記憶容量は 128M バイト、230M バイト、540M バイト、640M バイト、1.3G バイトがあり、扱えるディスクがドライブの種類によって異なります。日本国内でもっとも普及している大容量メディアです。

そのほかに PD、Zip、Jaz などの大容量メディアがあります。

■USBリンクケーブル



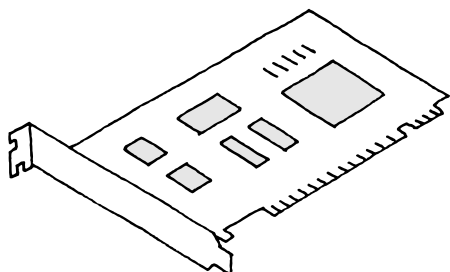
USB インターフェイスを使って、複数のパソコン同士 (4 ~ 5 台までを推奨) を USB リンクケーブル (PK-UP010) で接続すると、LAN ボードや LAN カードで接続したときと同じようにデータの移動、ファイルやプリンタの共有などができるようになります。

USB インターフェイスを搭載したパソコン同士なら LAN ボードや LAN カードを使うよりも手軽で簡単に接続できます。

参照

USB 対応機器の使い方 → 「PART3 USB 対応機器を使う」(p.33)

■ PCIボード



PCIボードには次のようなものがあります。

・SCSI インターフェイスボード

このパソコンにハードディスクドライブや、MO ディスクドライブなどのSCSIインターフェイス対応機器を接続するためのボードです。

参照

SCSIインターフェイスボードを使う→「PART7 SCSI インターフェイス対応機器を使う」(p.67)

・3D グラフィックアクセラレータボード

3Dグラフィック、2Dグラフィックを高速描画することができるボードです。CADや3Dグラフィックス、3Dゲームなどに対応しています。また、動画の再生もなめらかに表示することができます。2Dアクセラレーション機能もありますので、アプリケーションでも高速画面描画することができます。

・衛星インターネットボード

衛星を利用したインターネット高速接続サービスを利用するためのボードです。ホームページの閲覧やダウンロードサービスなどのスピードが最大1Mbps(受信側のみ)と高速なので、何十メガバイトもあるデータや情報を短時間でダウンロードすることができます。また、電話回線を利用したときのようにインターネットの混雑などで通信速度が遅くなったりすることはありません。

・LAN ボード

LANボードはこのパソコンをLANに接続するためのPCIボードです。

LAN(Local Area Network)は同じ建物の中など比較的近距离で、複数のコンピュータを接続したネットワークのことです。LANでコンピュータ同士を接続すれば、データの移動、ファイルやプリンタの共有などが簡単にできるようになります。

LANに接続するためのコネクタには、いくつかの異なる規格があります。現在市販されているLANボードの多くは10BASE-Tまたは100BASE-TXという規格のコネクタに対応するものです。それ以外のコネクタに接続する場合、パソコンの販売店などにご相談ください。

LANボードと同じ機能を持つものにLANカードがあります。LANカードはPCカードスロットに取り付けます。

PCIボードは、ここで紹介しているものの他にもいろいろなメーカーから、多種多様な機能を持つものが発売されています。

これらのPCIボード購入時には、必ずこのパソコンで動くかどうかメーカー、ご購入元で確認してください。

参照

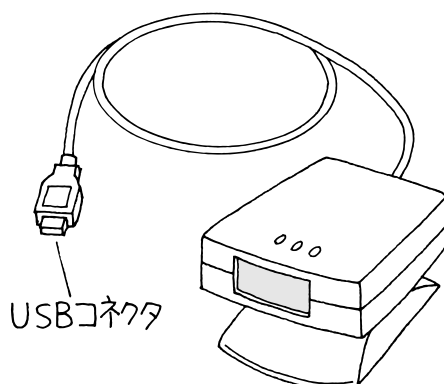
PCIボードの使い方→「PART5 PCIボードを使う」(p.51)

■ 赤外線通信インタフェースユニット

赤外線通信インタフェースユニット(PK-UP007)を使えば、赤外線通信に対応したノートパソコンなどとケーブルで接続せずにデータをやりとりできます。

赤外線通信は、無線でデータのやりとりができますが、通信できる距離や角度などに制限があります。詳しくは赤外線通信インタフェースユニットのマニュアルを参照してください。

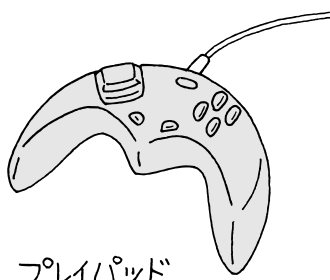
このパソコンで赤外線通信インタフェースユニットを使うときは、USBコネクタに接続します。USBコネクタに接続できるものを選んでください。



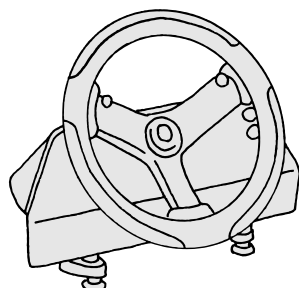
参照

USB対応機器の使い方→「PART3 USB対応機器を使う」(p.33)

■ ブレイスティック、プレイパッド、ドライビングホイール



プレイパッド



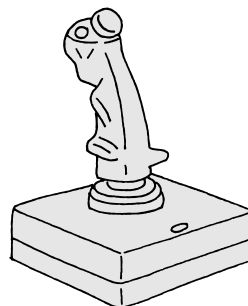
ドライビングホイール

ゲーム専用のコントローラで、パソコンでゲームを楽しむときに接続して使います。このパソコンには、ブレイスティック(PK-GP201)、プレイパッド(PK-GP101E)、ドライビングホイール(PK-GP301)などが接続できます。

このパソコンでブレイスティック、プレイパッド、ドライビングホイールなどを使うときは、USBコネクタに接続します。USBコネクタに接続できるものを選んでください。

参照

USB対応機器の使い方→「PART3 USB対応機器を使う」(p.33)



ブレイスティック

P A R T

2

パワーアップのための基礎知識

メモリを増設したり、いろいろなボードや周辺機器を取り付けることで、より快適な使用環境を整えることができます。しかし、周辺機器の中には、接続してからさまざまな設定や準備が必要になるものがあります。

ここでは、これらの機器を取り付けるときに必要な準備と作業の方法について説明します。

接続から準備完了までの流れ

周辺機器を接続すると、パソコンの画面に見慣れない表示が出てきて、そのまま止まってしまったように思えることがあります。「故障かな？」とあわてる必要はありません。はじめて新しい機器を接続したあとの流れは、次の3通りのパターンに分かれます。あらかじめ頭に入れておきましょう。

新しい周辺機器を接続すると

プリンタなど、電源スイッチのある周辺機器を利用する場合、あらかじめ周辺機器の電源を入れてから接続してください。

何も表示されない

何か表示されたが自動的に閉じた

何かウィンドウが表示されて、しばらくすると下のようなウィンドウが出て止まった



接続した周辺機器が正常に使えるかどうか確認する

接続した機器は正常に使えますか？

No

Yes

周辺機器に添付のドライバなどをインストールする
(p.23 参照)

周辺機器のケーブルや、PCI ボード、PC カードスロットがしっかりと差し込まれているか確認して、もう一度取り付け直してください。それでも使えない場合は、プラグ＆プレイに対応していないか、このパソコンに対応していないか、壊れている可能性があります。ご購入元または周辺機器のメーカーにお問い合わせください。

これで接続した周辺機器は使えます。

ドライバなどをインストールする

接続した周辺機器を使うためにはほとんどの場合、ドライバや専用のアプリケーションのインストールが必要になります。

ドライバは、周辺機器によって異なります。あらかじめパソコンに用意されているドライバが使える場合と、周辺機器に添付されているドライバが必要な場合があります。

● プラグ & プレイに対応していない周辺機器の場合

プラグ & プレイに対応していない周辺機器の場合、ドライバや、専用のアプリケーションのインストールは手動で行います。

詳しくは周辺機器に添付のマニュアルをご覧ください。

● プラグ & プレイに対応している周辺機器の場合

下のような画面が表示されたら、まずは画面の指示にしたがって作業を進めます( をクリックしてってください)。



● パソコンに用意されていたドライバが使える場合

下のような画面が表示された場合は、このパソコンにあらかじめ用意されていたドライバがインストールされました。そのまま  をクリックしてください。



これでドライバのインストールは終了です。



プラグ & プレイ

パソコン本体に周辺機器をつなぐと自動的に種類を認識して必要な設定を行う機構。

つなぐ(プラグ)だけですぐに使える(プレイ)ことから付いた呼び名です。

Windows を再起動する必要がある場合があります。そのときは画面の指示にしたがって、再起動してください。

・周辺機器に添付のドライバが必要な場合

下のような画面が表示された場合は、周辺機器に添付のドライバが必要な場合です。この場合は周辺機器に添付のマニュアルにしたがってドライバをインストールしてください。



周辺機器によっては専用のアプリケーションをインストールする必要がある場合があります。詳しくは、周辺機器に添付のマニュアルをご覧ください。

Windows を再起動する必要がある場合があります。そのときは画面の指示にしたがって、再起動してください。

周辺機器の取り外しと再接続

プリンタなどのUSB対応機器、メモリカードなどのPCカードは、パソコンの電源を入れたまま、いつでも取り付け、取り外しができます。同じ周辺機器を再接続したときは、ドライバなどをインストールする必要はありません。ただし、画面が少しのあいだ止まったり、何かウィンドウが表示されたりすることがあります。これは装置の故障ではありません。しばらく待てば使えるようになります。

機器を取り付けるときのご注意

本体を開けて、機器を取り付けるときには、次の点にご注意ください。

⚠ 警告



感電注意

雷が鳴り出したら、パソコンやアンテナ線、電源ケーブル、ディスプレイケーブル、ACアダプタ、モジュラーケーブル(電話線)、USBケーブルに触れたり、周辺機器の取り付け、取り外しをしないでください。落雷による感電のおそれがあります。

⚠ 注意



けが注意

本体内部に手を入れるときは、指をはさんだり、ぶついたり、切ったりしないように注意してください。



感電注意

濡れた手で触らないでください。

電源ケーブル、ACアダプタがコンセントに接続されているとき、濡れた手で本体に触れると感電の原因となります。



感電注意

電源ケーブル、ACアダプタがコンセントに接続されているときは、本体のカバー類を外さないでください。感電の原因となります。



感電注意

周辺機器の取り付けや取り外しをするときは、必ず電源ケーブル、ACアダプタのプラグを、コンセントから抜いてください。

パソコンや周辺機器の故障や感電の原因となります。



高温注意

このパソコンの使用直後は、CPU やCPU の周辺に触れないでください。

CPU が高温になっていますので、手を触れるとやけどをするおそれがあります。電源を切ったあと、30分以上たってから行うことをおすすめします。



発火注意

電源ケーブルを抜くときは、必ずプラグ部分を持って抜いてください。

ケーブルを引っ張って抜くと、断線して火災の原因となります。



感電注意



発火注意

本体を解体した状態で使用しないでください。感電や火災の原因となります。

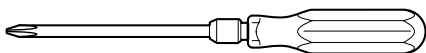
本体の開け方と閉め方

メモリを増設したり、いろいろなボードをパソコンに組み込むときには、本体のルーフカバー（本体上面をおおっているカバー）を外す作業が必要となります。ここでは、その作業について説明します。

用意するもの

- プラス（+）ドライバー

ネジ山に合った先端のものを使ってください



ネジの取り外し、取り付けの際に、本体内部にネジを落とす可能性があるため、なるべくドライバーの先端が磁石になったものをおすすめします。

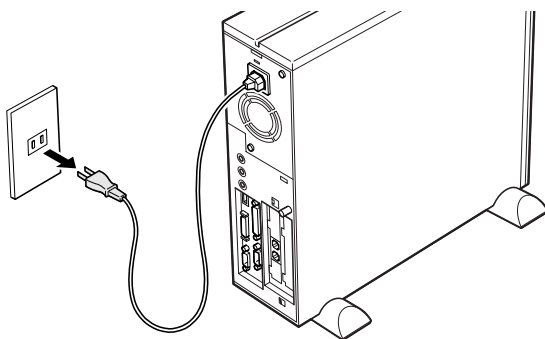
ルーフカバーの外し方

1

本体と、スピーカなど周辺機器の電源を切る

2

本体の電源ケーブルをコンセントから抜く



3

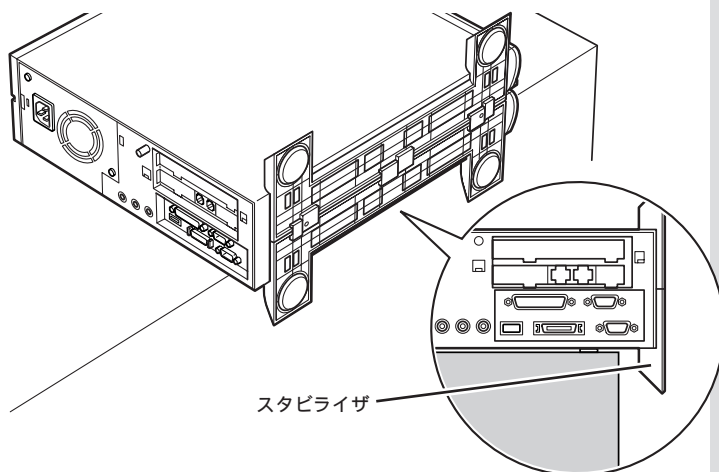
本体に接続されているケーブルをすべて取り外す

✓チェック!!

ここで取り外したケーブルは、メモリやボードなどの増設が終わり、ルーフカバーを取り付けたあとで、もとおりに接続することになります。外す前に、どのコネクタにどのケーブルが接続されているのかを確認しておきましょう。

4

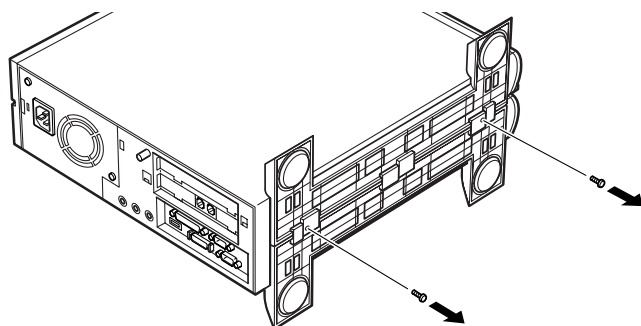
本体の左面(正面から見て左側)を上に向けて静かに横に倒し、底面のスタビライザがはみ出るように机の端などに置く



スタビライザ

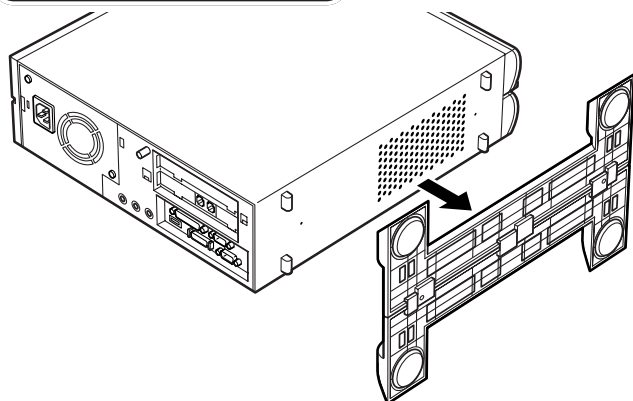
5

本体底面のネジを 2 本外す



6

スタビライザを取り外す



本体を横に倒すときは、机やテーブルなどを傷つけないように、下に厚手の紙や布などを敷いておくことをおすすめします。

✓チェック!!

スタビライザを外したときに本体が衝撃を受けないように、ちょうどスタビライザの高さの分だけ、本体が机の端などからはみ出るように置いて安定させます。

✓チェック!!

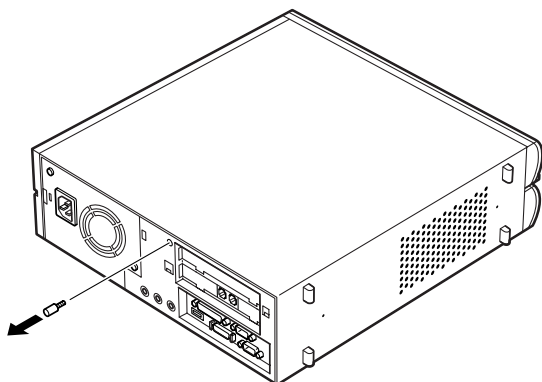
外したネジをなくさないように、気をつけてください。

✓チェック!!

スタビライザを落下させないように、スタビライザを手にとって取り外してください。

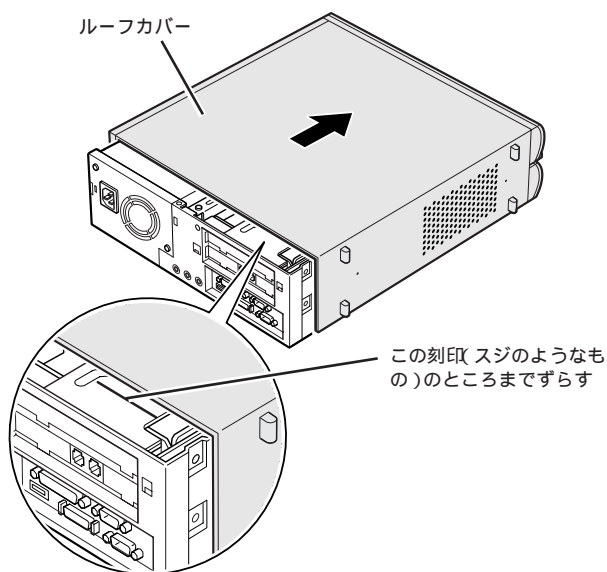
7

本体背面の 1 本のネジを外す



8

ルーフカバーを下図のように少し前にずらして



このネジは、手で回して外せます。

✓チェック!!

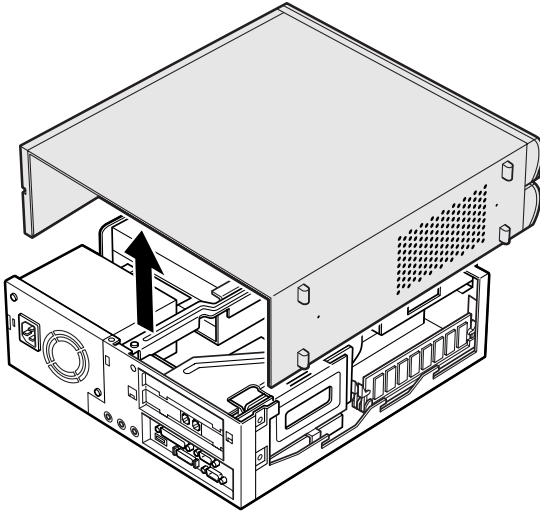
外したネジをなくさないように、気をつけてください。

✓チェック!!

- ・ルーフカバーを取り外す際、PC カードスロットのイジェクトボタンが押し込まれていることを確認してください。
- ・ルーフカバーを取り外す際は、CD-ROMドライブのカバーをひっぱったりしないでください。カバーが破損する場合があります。

9

そのままゆっくり上方向に持ち上げて取り外す

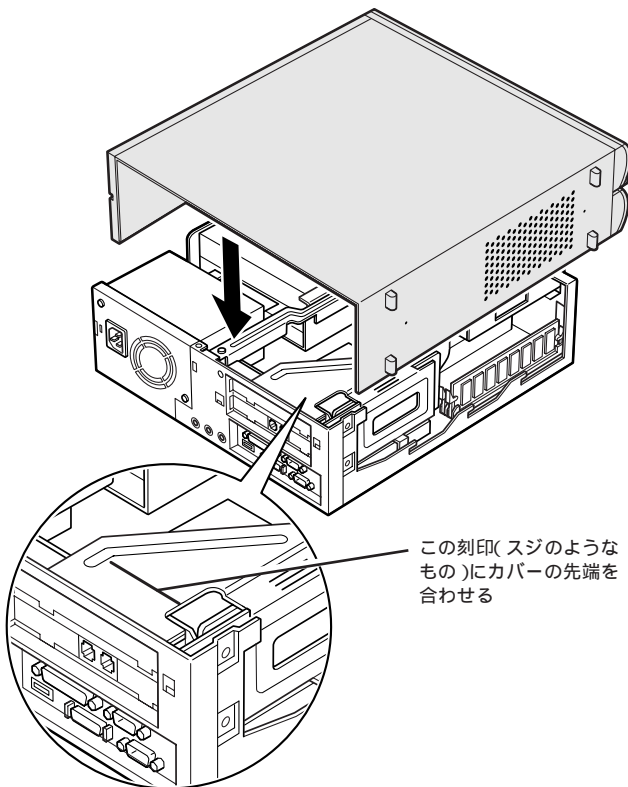


ルーフカバーの取り付け方

機器の取り付けが終わって、カバーをもとどおりに取り付けるときは、外すときと逆の順番で作業を進めてください。

1

ルーフカバーの先端を本体背面の刻印に合わせるようにして下におろす

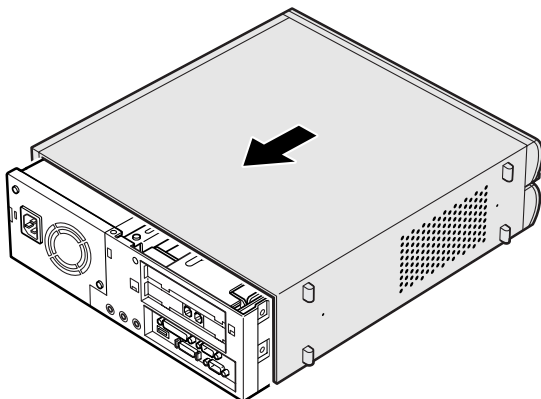


✓チェック!!

- ・このとき、内部のケーブルや部品を引っ掛けたり、はさんだりしないように気をつけてください。
- ・ルーフカバーを取り付ける際、PCカードスロットのイジェクトボタンが押し込まれていることを確認してください。
- ・ルーフカバーを取り付ける際は、CD-ROMドライブのカバーを押し込まないでください。カバーが破損する場合があります。

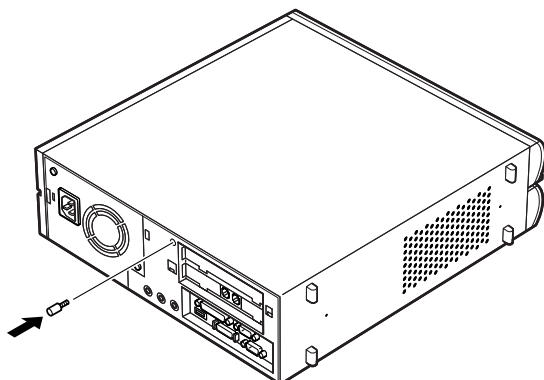
2

ルーフカバーを本体背面側にスライドする



3

本体背面にネジ 1 本で固定する



4

スタビライザをもとどおりに取り付ける

5 「ルーフカバーの外し方」の手順3 (p.26) で取り外したケーブルをもとどおりに取り付ける

参照

スタビライザの取り付けについて→
『まずこれ! 接続と準備』PART2 の
「パソコン本体にスタビライザを取り
付ける」

参照

ケーブルの接続→『まずこれ! 接続と
準備』の「PART2 パソコンの接続を
する」

P A R T

3

USB 対応機器を使う

USB コネクタには、すでに接続されているキーボードやマウス以外にも、いろいろな周辺機器を接続して利用することができます。ここでは、USB 対応機器の使い方について説明します。

ユーエスビー

USB とは

USB(ユーエスビー)は、パソコン用インターフェイスの新しい規格です。まずは、このパソコンでUSB対応機器を使うための基礎知識を知っておきましょう。

USBは、Universal Serial Bus(ユニバーサル シリアル バス)の頭文字をとったものです。



インターフェイス

パソコンと周辺機器を接続するコネクタなど、機器を接続するときに必要な共有される部分のことです。

USB なら簡単接続

USB対応機器は、電源を入れた状態のままで接続します。

本体とディスプレイの電源を入れて
Windows を起動する(→ p.36)



必要に応じて USB 対応機器側の
設定を行う

USB 対応機器のマニュアルで確認してください。



USB コネクタにプラグを差し込む(→ p.37)

パソコンのUSBコネクタにプラグを差し込むと、自動的に設定が始まります。



正しく接続できたか確認する(→ p.40)

確認のしかたは、機器によって異なります。



設定が終わったら準備完了。
すぐに使い始めることができます。

USB対応機器は、一般の周辺機器とは異なり、パソコンの電源を入れた状態のまま、接続したり取り外したりできるようになっています。ふだんは取り外しておいて、必要になったときだけ接続し、使い終わったら取り外す、というような使い方ができるのです。

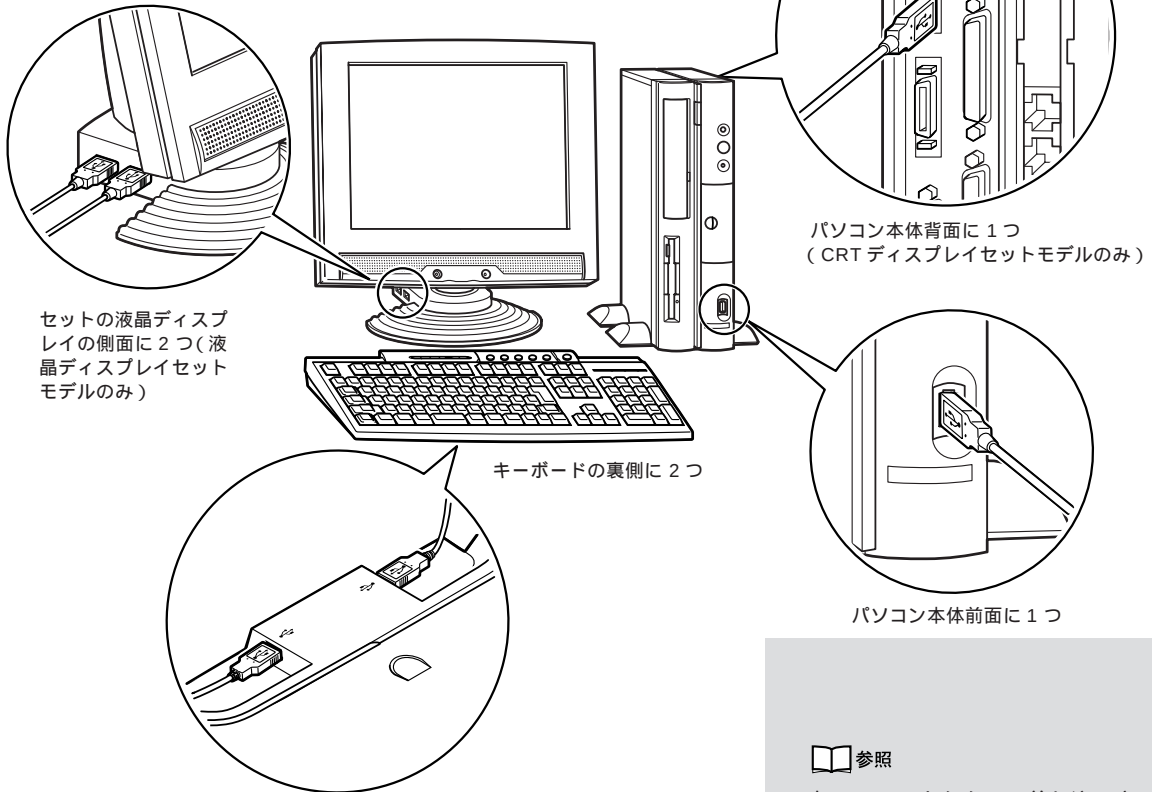
プリンタなど、電源スイッチのある周辺機器を利用する場合、あらかじめ周辺機器の電源を入れてから接続してください。

機器によっては、ドライバの設定作業が必要になることがあります。また、プラグを差し込む前にドライバをインストールする必要がある機器もあります。

機器によっては、この後、ソフトウェアのインストールなどの作業が必要になります。詳しくは、機器に添付のマニュアルをご覧ください。

USB コネクタについて

このパソコンには、本体の前面に1つ、背面に1つ（CRTディスプレイセットモデルのみ）、USB コネクタがあります。また、液晶ディスプレイセットモデルの場合は、セットの液晶ディスプレイの側面に2つのUSB コネクタが用意されています。接続する機器に応じて、どのコネクタを使用しても構いません。もちろん、すべてのコネクタに別々のUSB対応機器を接続して、たくさんの機器を同時に使用することもできます。



キーボードの裏側にも、2つのUSBコネクタが用意されています。ここにもUSB対応機器を接続することができますが、機器によっては接続できない場合があるので、注意が必要です。

標準で用意されているUSBコネクタの数

	USB コネクタの数	実際に使える数（ ）
液晶ディスプレイ セットモデル	5 個	3 個
CRT ディスプレイ セットモデル	4 個	2 個

通常、USB コネクタには添付のキーボードやマウスが接続されているので、空いているコネクタの数は少なくなります。

なお、標準で用意されているUSBコネクタだけで足りないときは、別売の「USB ハブ」を接続して、コネクタの数を増やすことができます。

参照

各 USB コネクタへの差し込み方→このPARTの「USBコネクタにプラグを差し込む」(p.37)

チェック!!

キーボードの裏側の USB コネクタには、「ハイパワーデバイス」は接続できません。

参照

ハイパワーデバイス→このPARTの「ハイパワーデバイスについて」(p.41)

参照

USB ハブについて→このPARTの「USB ハブを使う」(p.41)

USB 対応機器を接続する

パソコンの電源を入れたままの状態ですべてのUSB対応機器を接続すると、自動的に設定が始まります。設定が終わったら、すぐに使い始めることができます。

警告



感電注意

雷が鳴り出したら、パソコンやアンテナ線、電源ケーブル、ディスプレイケーブル、ACアダプタ、モジュラーケーブル(電話線)、USBケーブルに触れたり、周辺機器の取り付け、取り外しをしないでください。落雷による感電のおそれがあります。

接続する前に

USB対応機器を接続する前に、次の準備が必要です。

● 接続する USB 対応機器のマニュアルを読む

あらかじめ、機器に添付のマニュアルをよく読んでおきます。機器によっては、接続する前にドライバのインストールや、各種設定スイッチ等の設定が必要な場合があるので、マニュアルにしたがって設定します。接続後に設定が必要になることがあるので、CD-ROMやフロッピーディスクが添付されていれば、用意しておきます。

● パソコンとディスプレイの電源を入れておく

USB対応機器は、パソコンの電源を入れたままの状態ですべて接続できます。あらかじめパソコンの電源を入れて、Windowsが使えるようにしておきましょう。

チェック!!

USB対応機器に、Windows 95 対応のドライバしか添付されていないこともあります。その場合、USB対応機器を Windows 98 で使うために専用のドライバが別に必要となることがあります。詳しくは、機器に添付のマニュアルや、機器のメーカーまたはご購入元などにお問い合わせください。

チェック!!

キーボード裏側の USB コネクタに接続するときには、USB 機器のマニュアルを読んで、その機器が「ハイパワーデバイス」なのかどうか調べておいてください。「ハイパワーデバイス」は、キーボードの USB コネクタには接続できません。

参照

ハイパワーデバイス→この PART の「ハイパワーデバイスについて」(p.41)

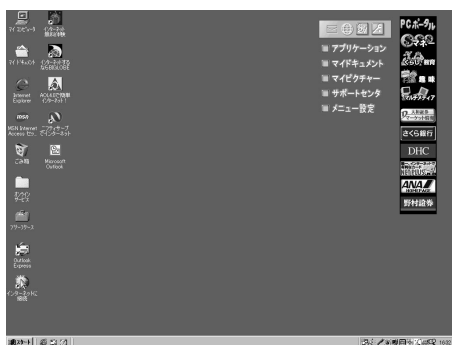
USB コネクタにプラグを差し込む

1

パソコン本体前面、背面等の USB コネクタに、プラグを差し込む

プラグを差し込むときの向きは、どこのUSBコネクタを使うかによって異なります。このページの下の説明を参照して、正しく差し込んでください。

プラグを差し込んでそのまま待っていると、自動的に画面の表示が切り替わり、



Windows デスクトップの画面に戻る

✓チェック!!

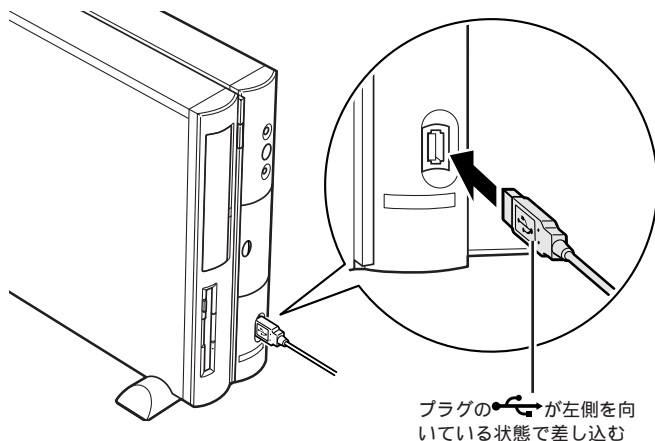
USBキーボードをパソコン本体から外した状態で USB 対応機器を接続しないでください。

Windows デスクトップの画面に戻らずに次のような画面が表示された場合は、「PART2 パワーアップのための基礎知識」(p.21)をご覧ください。



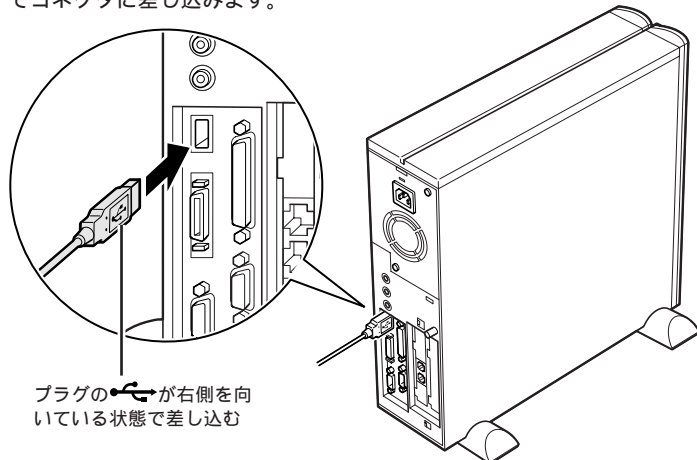
● 本体前面の USB コネクタを使う

本体前面のUSBコネクタを使う場合は、プラグの  マークを左に向けてコネクタに差し込みます。



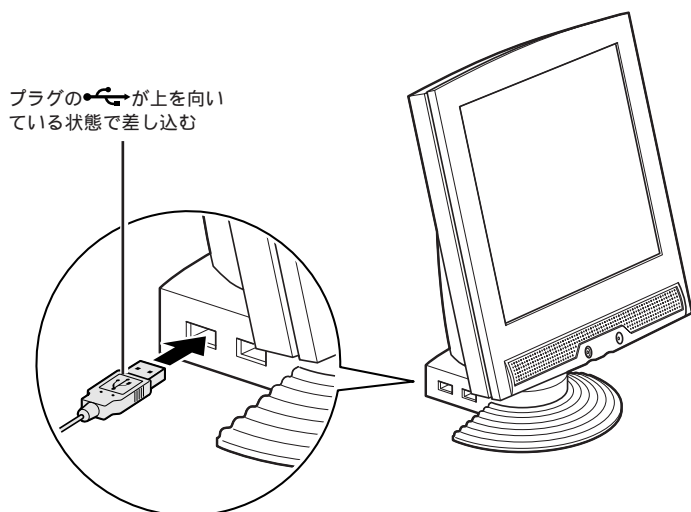
- 本体背面のUSBコネクタを使う
(CRTディスプレイセットモデルの場合)

本体背面のUSBコネクタを使う場合は、プラグのマークを右に向けてコネクタに差し込みます。



- セットの液晶ディスプレイ側面のUSBコネクタを使う
(液晶ディスプレイセットモデルの場合)

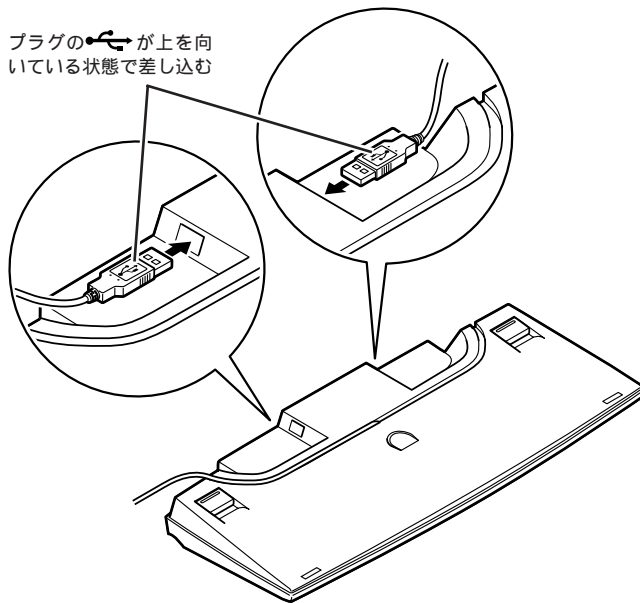
液晶ディスプレイセットモデルにセットの液晶ディスプレイのUSBコネクタを使う場合は、プラグのマークを上に向けてコネクタに差し込みます。



液晶ディスプレイの側面には、図のように2つのUSBコネクタが並んでいます。通常、一方のコネクタには添付のキーボードが接続されています。周辺機器を接続する場合は、空いている方のコネクタに接続してください。

● キーボード裏側の USB コネクタを使う

キーボード裏側の USB コネクタを使う場合は、下図のように、プラグの  マークが見えるように上向きにして差し込みます。



キーボードの裏側には、図のように 2 つの USB コネクタが用意されていますが、通常、一方のコネクタには、添付の USB マウスが接続されています。周辺機器を接続する場合は、空いている方のコネクタに接続してください。

✔ チェック!!

キーボード裏側の USB コネクタには、「ハイパワーデバイス」を接続できません。ハイパワーデバイスの USB 対応機器は、別の USB コネクタに接続してください。

📖 参照

ハイパワーデバイス→この PART の「ハイパワーデバイスについて」(p.41)

正しく接続できたかどうか確認する

接続したUSB対応機器が正しくパソコンに認識されるかどうかを確認します。確認する方法は、機器の種類によって異なります。また、機器によって下記の方法では確認できない場合もあります。詳しくは、各USB対応機器に添付のマニュアルなどをご覧ください。

● USB 対応ブレイパッド、プレイスティック、ドライビングホイールなど

「コントロールパネル」の「ゲームコントローラ」をダブルクリックして表示される画面から、操作テストを行えます。

● USB 対応プリンタ

「コントロールパネル」の「プリンタ」をダブルクリックし、接続したプリンタ名が表示されることを確認します。

● その他の USB 対応機器

接続を確認する方法は、機器のマニュアルをご覧ください。

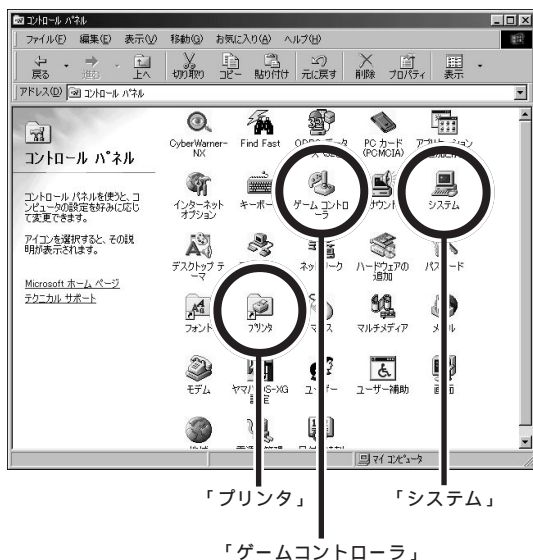
一般に、「コントロールパネル」の「システム」をダブルクリックし、「デバイスマネージャ」を表示して、接続した USB 対応機器が登録されていれば、正しく接続されています。なお、この操作を行うためには、CyberTrio-NX のモードを「アドバンスモード」にする必要があります。

機器によっては、この後さらに別の設定作業が必要になります。USB 対応機器に添付のマニュアルなどで確認してください。

📖 参照

デバイスマネージャについて
PART9 の「デバイスのリソース設定の変更」(p.92)

コントロールパネル



ハイパワーデバイスについて

USB 対応機器は、その機器が動作するために必要な電流の取り方によって、次の 3 つのタイプに分かれます。

・セルフパワーデバイス

独自に電源を持っている機器です。USB コネクタからは 100mA 以下の電流を消費します。

・ローパワーデバイス

添付の USB マウスのように、自分では電源を持たない機器です。必要な電流を USB コネクタから消費して動作しますが、消費するのは 100mA 以下と比較的少量です。

・ハイパワーデバイス

ローパワーデバイスと同様、自分では電源を持たない機器です。必要な電流を USB コネクタから消費して動作しますが、比較的大きな電流 (最大 500mA) を消費します。

このパソコンに添付のキーボード (USB バスパスワードハブ付きキーボード) の裏側にある USB コネクタに接続できるのは、このうち「セルフパワーデバイス」と「ローパワーデバイス」のみです。「ハイパワーデバイス」はパソコン本体か、USB セルフパワーバスに接続してください。

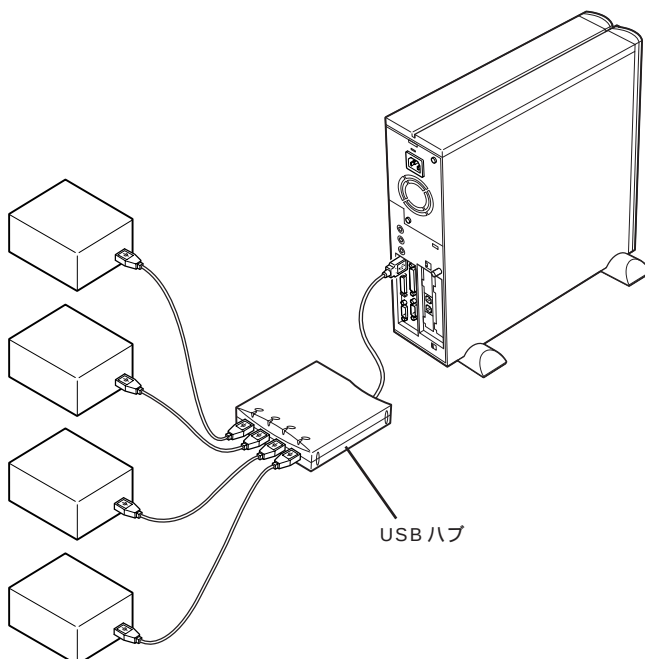
ハイパワーデバイスの例

(NEC 製 : 1999 年 10 月現在)

- ・ PK-IN800U
(フルカラーモバイルスキャナ)
- ・ PK-UP001
(フルカラーイメージスキャナ)
- ・ PK-MC201、PK-MC201E
(デジタルビデオカメラ)
- ・ PK-MC201S、PK-MC201SE
(デジタルビデオカメラ)
- ・ PK-MC202、PK-MC202E
(デジタルビデオカメラ)
- ・ PK-UP007
(赤外線通信インタフェースユニット)

USB ハブを使う

別売の USB ハブ (PK-UP002 など) を使えば、1 つの USB コネクタを 4 つの USB コネクタに分岐して増やすことができます。この USB ハブを何台も使えば、規格上 127 台 (パソコン 1 台あたり : USB ハブの数も入れて) までの周辺機器を接続することができます。



✓チェック!!

USB ハブにキーボードや USB 対応機器を接続する場合、本体に先に USB ハブを接続してから接続してください。USB キーボードを別売の USB ハブに接続するときは、次の手順で接続してください。

1. 本体の USB コネクタにキーボードを接続する
2. 本体の空いている USB コネクタに USB ハブを接続して認識させる
3. USB ハブにキーボードを接続する

PK-UP002 の場合、4 つの USB 対応機器を接続することができます。

USB ハブの詳しい使い方については、USB ハブのマニュアルをご覧ください。

USB ハブには、CRT ディスプレイの下に置くことのできるタイプ (PK-UP003) もあります。

P A R T

4

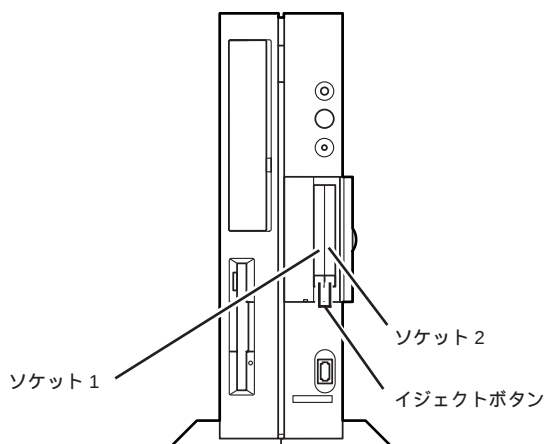
PC カードを使う

PCカードは、クレジットカードを厚くしたような形をしている周辺機器です。PCカードは種類が豊富な上に、取り扱いやすく、パソコン側の設定も簡単にできるので、このパソコンの機能を手軽に拡張することができます。

PC カードスロットについて

このパソコンにはPCカードスロットがあり、PC Card Standardに準拠したPCカードを使うことができます。

PCカードスロットは、PCカードをセットするためのスロットです。このパソコンには、図のように左右2つのPCカードスロットがあり、それぞれのスロットにTYPE またはTYPE のPCカードを1枚ずつ、または左右のスロットを合わせてTYPE のPCカードを1枚、セットして使用できます。



● CardBus 対応 PC カードについて

CardBus(カードバス)はPCカードの拡張仕様で、高速にデータ転送ができます。

このパソコンでは、CardBus対応のPCカードを、左右のスロットに1枚ずつ、計2枚同時に使用することができます。

PC Card Standard 準拠のPCカードは、カードの厚さによってTYPE 、TYPE 、TYPE の3種類に分けられます。

- ・TYPE のPCカード
厚さ約 3.3mm
- ・TYPE のPCカード
厚さ約 5.0mm
- ・TYPE のPCカード
厚さ約 10.5mm

✓チェック!!

このパソコンではZVポート対応のPCカードは使用できません。PCカードを購入する際は注意してください。

PC カードの入れ方と出し方

PC カードは、パソコン本体の電源を入れたままの状態でも、PCカードスロットにセットすることができます。セットすると自動的に設定が始まり、設定が終わったら、すぐに使えます。

⚠ 注意



けが注意

PCカードを取り出すときは、ゆっくりイジェクトボタンを押してください。

イジェクトボタンを強く押しすぎると、PCカードの取り出し口に指をぶつけてけがをする恐れがあります。

✓ チェック!!

PC カードは大変精密にできています。PCカードやPCカードスロットの故障を防ぐため、次の点に注意してください。

- ・ 高温、多湿、低温の場所に放置しない
- ・ 濡らさない
- ・ 重いものを載せない
- ・ ぶつけたり、落としたりして、衝撃を与えない
- ・ 曲げない
- ・ PCカードの端子部分に金属などを入れない
- ・ PC Card Standardに準拠していないカードを無理に押し込まない

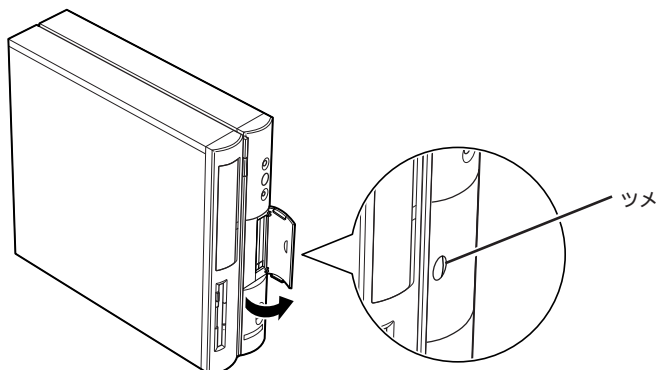
PC カードをセットする

1

パソコンの電源が入っている場合は、すべてのアプリケーションが終了していることを確認する

2

本体前面の PC カードスロットカバーを開ける
ツメに指を引っかけて、矢印の方向に開きます。



PC カードはパソコンの電源を入れたまま、抜き差しができます。

✓ チェック!!

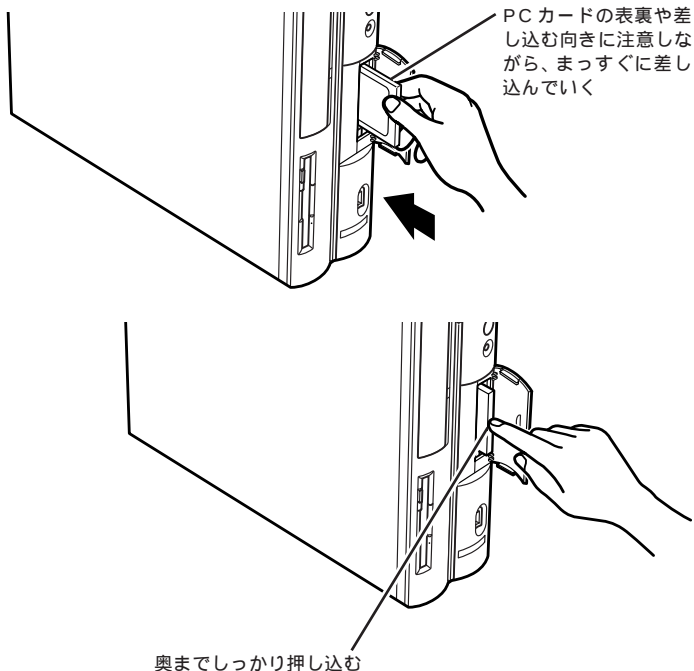
PCカードをセットする前に、このパソコンで使える PC カードかどうかもう一度確認してください。

✓ チェック!!

輸送時の破損防止のため、ご購入時には、PC カードスロットカバーがテープで固定されています。テープを外してからカバーを開けてください。

3

PCカードを垂直に持ち、PCカードスロットに静かに差し込み、奥までしっかり押し込んでセットする



● PCカードの設定

PCカードをPCカードスロットにセットすると、パソコンが自動的に設定を行い、すぐに使用可能な状態になります。

ただし、一度も使ったことのないPCカードをセットしたときは、設定が自動的には行われず、ドライバの設定を行うための画面が表示されることがあります。この場合は、画面の指示にしたがって操作してください。なお、この操作を一回行えば、次回以降そのPCカードを使うときは、セットしたらすぐに使えるようになります。

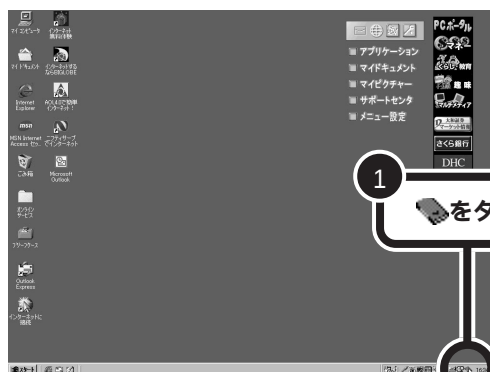
✓チェック!!

- ・ PCカードをセットする前にイジェクトボタンが収納されているか確認してください。ボタンが飛び出したままの状態ではPCカードをセットすると、イジェクトボタンが収納できなくなり、PCカードスロットカバーが閉まりません。
- ・ PCカードには表面と裏面があり、スロットへ差し込む方向も決まっています。間違った向きでむりやり差し込むと、コネクタやスロットを破損する恐れがあります。
- ・ アプリケーションソフトを使用中は、PCカードを差し込んだり、取り出したりしないでください。
- ・ スタンバイ状態で、PCカードの抜き差しを行わないでください。スタンバイ時のデータが消えてしまい、復元できなくなってしまうことがあります。

✓チェック!!

コネクタを破損する恐れがありますので、PCカードを押し込むときに無理な力をかけないように注意してください。

PC カードを取り出す



1
PCカードをダブルクリックする

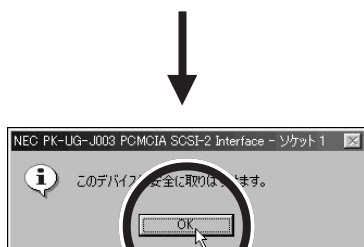
✓チェック!!

PCカードによっては、左の手順で取り出さないと、このパソコンが正常に動かなくなる可能性があります。必ず手順を守って取り外してください。



2
取り出すPCカードをクリックする

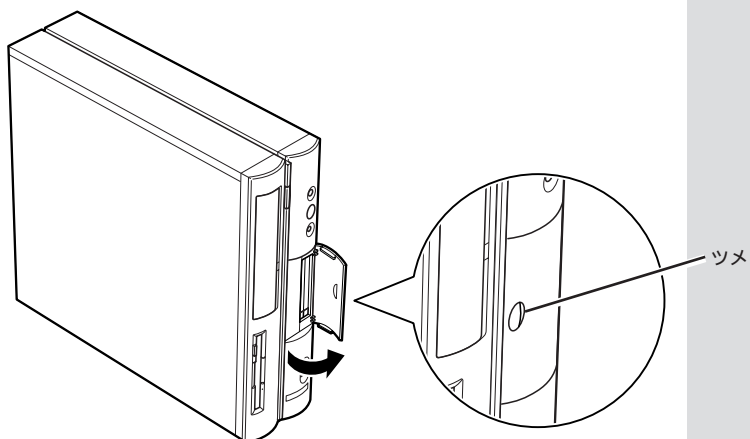
3
「停止」をクリックする



4
「OK」をクリックする

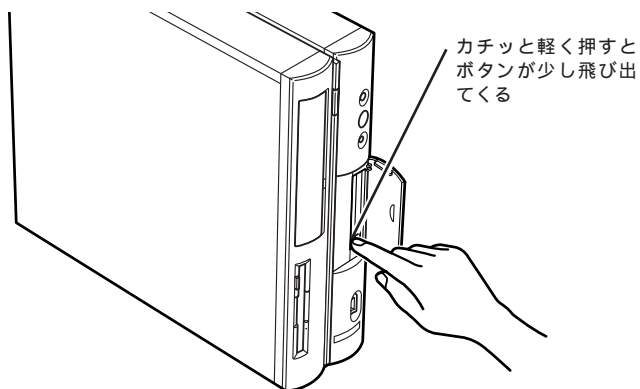
5

本体前面の PC カードスロットカバーを開ける
ツメに指を引っかけて、矢印の方向に開きます。



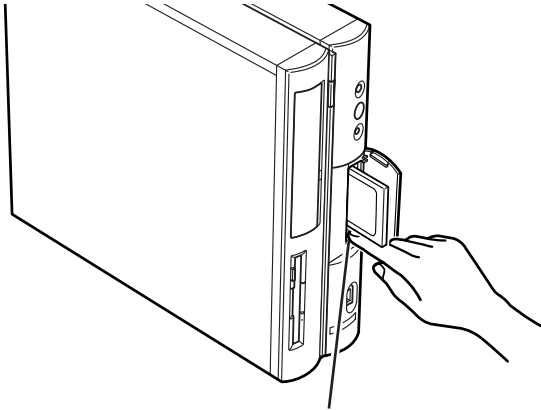
6

イジェクトボタンを軽く押す



7

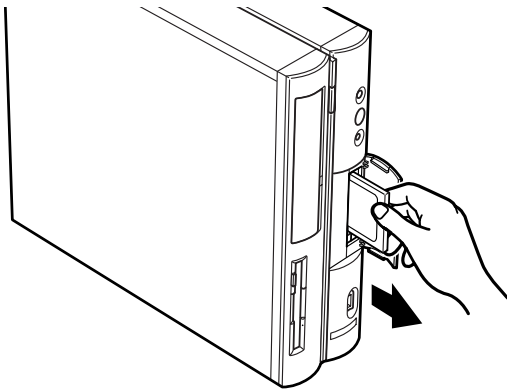
もう一度イジェクトボタンを押す



カチッと音がするまでイジェクトボタンを
しっかり押し込むとセットされていた PC
カードが少し飛び出す

8

出てきた PC カードを、まっすぐに静かに引き抜く



9

PC カードスロットカバーを閉める
「カチッ」と音がするまで押してください。

ボタンが飛び出した状態でイジェクトボタンを押し込むと、PC カードスロットにセットされていた PC カードが、少しだけ飛び出します。

✓チェック!!

イジェクトボタンは、カチッと音がするまでしっかり押し込んでください。

✓チェック!!

PC カードを取り出したときに「予期せぬ PC カードの取り外しが行なわれました」という画面が表示された場合は、「OK」をクリックしてください。

✓チェック!!

イジェクトボタンが出ている状態ではカバーを閉めることができません。

P A R T

5

PCI ボードを使う

このパソコンには、ハードディスクの増設に必要な SCSI インターフェイスボードをはじめ、いろいろな種類の PCI ボードを取り付けることができます。

PCIボードについて

ここでは、このパソコンに取り付けることのできるPCIボードについて簡単に説明します。

いろいろなPCIボード

PCIボードには、主に次のようなものがあります。

● SCSI インターフェイスボード

このパソコンにハードディスクなどのSCSIインターフェイス対応機器を接続するためのボードです。

● LAN(ネットワーク)ボード

このパソコンをLANに接続するためのボードです。

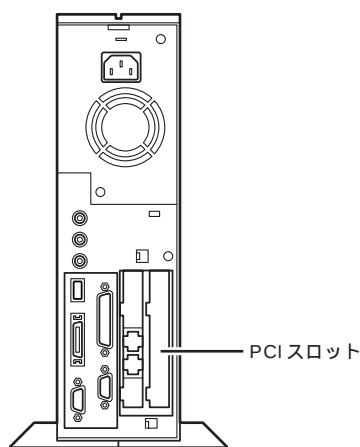
● 3D アクセラレータボード

3DCG(立体的なコンピュータグラフィックス)の表示を高速にするボードです。

PCIボードは、ここで紹介しているものの他にもいろいろなメーカーから、多種多様な機能を持つものが発売されています。これらのPCIボード購入時には、必ずこのパソコンで動くかどうかメーカー、ご購入元で確認してください。

PCI スロット

このパソコンでは、下の図のように、1つのPCIスロットを使用できます。スロットにはハーフサイズのPCIボードを取り付けることができます。



📖 参照

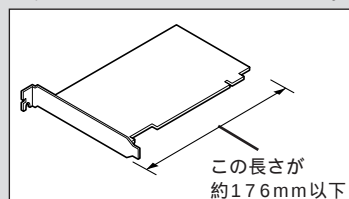
SCSI インターフェイス対応機器 → 「PART7 SCSIインターフェイス対応機器を使う」(p.67)

✔ チェック!!

- ・液晶ディスプレイセットモデルにセットの液晶ディスプレイは、本機の液晶ディスプレイ専用コネクタしか取り付けられません。アクセラレータボードにディスプレイを接続する場合は、別途ディスプレイが必要です。
- ・1Mバイト空間のメモリリソースを使用するPCIボードは、正常に動作しない場合があります。

✔ チェック!!

- ・このパソコンには、フルサイズのPCIボードは取り付けられません。
- ・ハーフサイズのPCIボードであっても特殊な形状のボードは取り付けられない場合があります。ハーフサイズのPCIボードとは、次のような大きさのボードのことです。



✔ チェック!!

TV モデルでは、スロットに地上波TV&データ放送ボードが、標準で取り付けられています。新たにPCIボードを取り付けることはできません。

PCI ボードを取り付ける

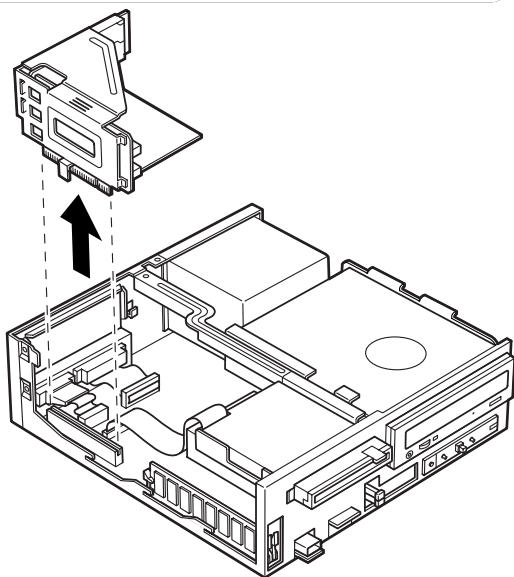
ここでは、このパソコンにPCIボードを取り付ける方法を説明します。

1

正しい手順で本体のルーフカバーを外す

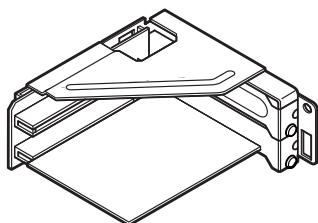
2

PCIユニットを上へ引き抜くようにして取り外す



3

PCIユニットを下の図のような向きにする



✓チェック!!

以降の手順では、本体のカバーを開けて作業します。

PCIボードを取り付けるときには、必ずPCIボードに付属のマニュアルもご覧ください。

📖参照

ルーフカバーの外し方→PART2の「本体の開け方と閉め方」(p.26)

✓チェック!!

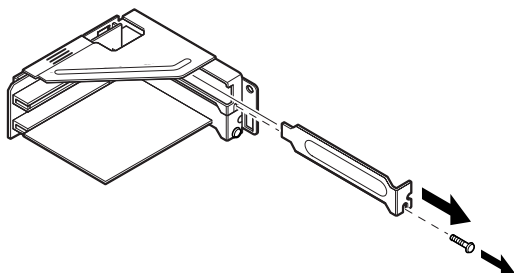
- ・ディスプレイケーブルなど、本体に接続されているケーブルは本体からすべて取り外してください。
- ・机やテーブルを傷つけたりしないように、下に厚手の紙や布などを敷いておくことをおすすめします。
- ・PCIユニットの取り付け、取り外しをするときは、PCIユニットやパソコン本体内部の部品、ケーブルなどを破損しないよう、慎重に行ってください。

✓チェック!!

TVモデルでは、地上波TV&データ放送ボードが、標準で取り付けられています(空きスロットはありません)。

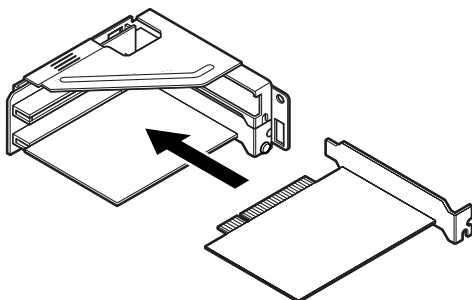
4

スロットカバーをとめているネジ1本を外し、
スロットカバーを取り外す



5

PCIボードを、両手で支えながらスロットに
慎重に差し込む

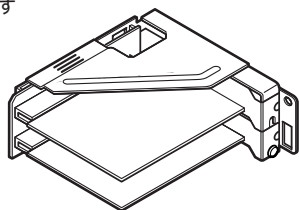


PCIボードのツメを本体
のスロットにひっかけて

スロットカバーの
部分にそろえて

ボード全体に均等に
力を加えて強く押し
込むようにすると

うまく差し込めます



✓チェック!!

- ・ スロットカバーは、ここで取り付け
たボードを取り外さないかぎり、不
要となりますが、なくさないように
大切に保管してください。
- ・ PCI ボードを持つときは、ボード上
の部品やツメ(端子)部分に触れない
ように注意してください。
- ・ 外したネジは、PCI ボードを固定す
るときに使います。なくさないよう
に気をつけてください。

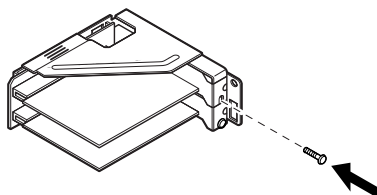
PCIボードをしっかり差し込むには、
強い力が必要です。ボードのツメの
先端がPCIユニットのスロットにき
ちんと合っていれば壊れることはあ
りませんので、強く押し込むように
してください。

✓チェック!!

しっかり差し込んでおかないと、故
障の原因になります。

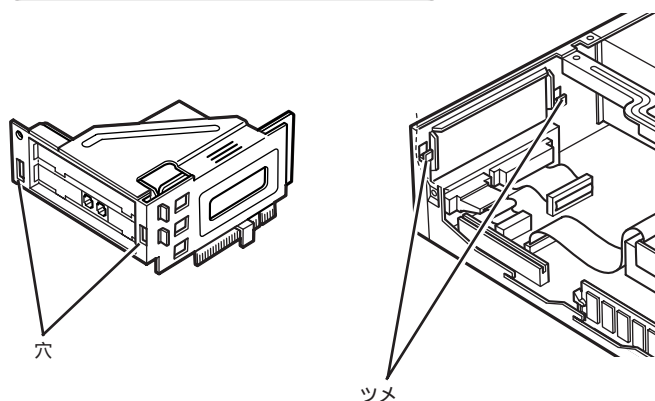
6

手順 4 で外したネジ 1 本を使って、PCI ボードを固定する

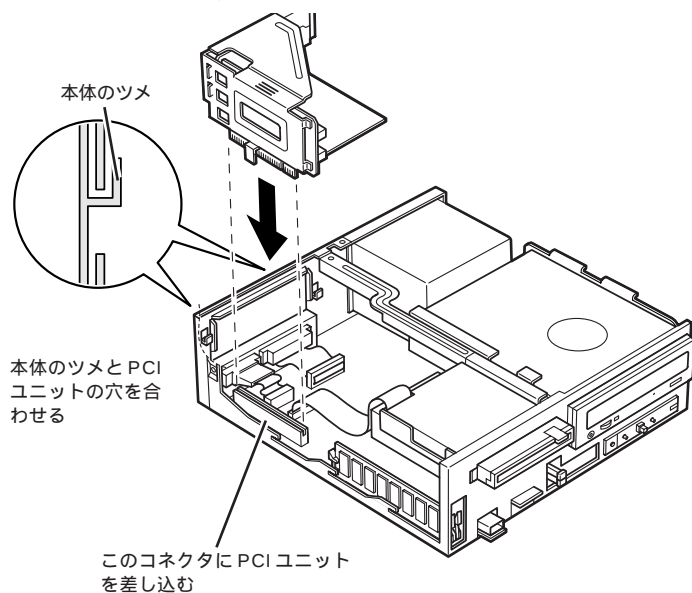


7

PCI ユニットを本体に取り付ける



PCIユニットの穴を本体背面内側にあるツメに合わせてから本体のコネクタに差し込みます。



PCIユニットをしっかりと差し込むには、強い力が必要です。PCIユニットのツメの先端が本体のコネクタにきちんと、合っていれば壊れることはありませんので、強く押し込むようにしてください。

8

正しい手順で本体のルーフカバーを取り付ける

PCIボードによっては、ボードの取り付け後、パソコン側で設定作業が必要なものもあります。詳しくは、PCIボードに付属のマニュアルをご覧ください。

また、PCIボードの使い方についても、PCIボードに付属のマニュアルをご覧ください。



参照

ルーフカバーの取り付け方→PART2
の「本体の開け方と閉め方」(p.26)

P A R T

6

メモリを増やす

メモリは、パソコンで作業をするときの「作業机」のようなものです。机の上が広いと作業がしやすいのと同じように、メモリの量が多いとパソコンの「作業机」も広くなり処理がしやすくなります。一度に複数のアプリケーションを使っているときなどに、パソコンの処理速度が遅いと感じるようであれば、メモリを増やしてみましょう。

メモリを増やすには

このパソコンでメモリを増やすときは、別売の「増設 RAM サブボード」というボードを、専用のコネクタに取り付けます。最大で 256M バイトまで増やすことができます。

どのくらいメモリを増やすかを決める(→ p.59)

最大 256M バイトまで増やせます。



必要なものを準備する

必要な増設 RAM サブボード等を準備します。



増設 RAM サブボードを
取り付ける(→ p.61)

本体のルーフカバーを取り外し、用意した増設 RAM サブボードを専用のコネクタに取り付けます。取り付けたらルーフカバーを元に戻します。



メモリが増えたかどうか確認する(→ p.64)

本体の電源を入れて、増やしたメモリがこのパソコンで使えるようになっているかどうか確認します。

✓チェック!!

モデルによって、使用できる増設 RAM サブボードの種類が違うので、間違って購入しないように注意してください。

このパソコンで使える増設 RAM サブボード

パソコンのメモリを増やすときには、「増設RAMサブボード」というボードを使います。

このパソコンでは、「DIMM」と呼ばれるタイプの次のような増設RAMサブボードを使うことができます。

型 名	メモリ容量
PK-UG-M015	32M バイト
PK-UG-M016	64M バイト
PK-UG-M017	128M バイト

DIMM (ディム) は、Dual Inline Memory Moduleの頭文字をとったものです。

✓チェック!!

このパソコンでは、「SIMM(シム)」と呼ばれるタイプの増設 RAM サブボードは使用できません。間違って購入しないように注意してください。

メモリの増やし方の例

このパソコンには、増設RAMサブボード(DIMM)を差し込むコネクタ(スロット)が、2つ用意されています。標準では、この内の1つのコネクタに128Mバイトまたは64MバイトのRAMサブボードが付いています。

標準で付いているRAMサブボードは機種によって異なります。

下の表で確認してください。

型 名	標 準	最 大
VC600J/1 VC550J/1 VT500J/1	128M バイト × 1	256M バイト (128M バイト × 2)
VC500J/1 VE500J/1 VC46H/1 VE46H/1	64M バイト × 1	

ここでは、標準で64MバイトのRAMサブボードが付いている場合を例に、メモリの増やし方を説明します。

64M バイト (標準で付いているもの)	}	合計 64M バイト
空		

空いている残りの1スロットに、増設RAMサブボードを追加することで、メモリを増やします。また、標準で付いているRAMサブボードを取り外して、より大きな容量の増設RAMサブボードに取り替えることも可能です。

メモリは、最大で256Mバイト(128Mバイトの増設RAMサブボード × 2枚)まで増やすことができます。

・例 1 : 96M バイトにする場合

空いているコネクタの1つに32Mバイトの増設RAMサブボードを追加すれば、標準で付いている64Mバイトのメモリと合わせて96Mバイトにすることができます。

64M バイト (標準で付いているもの)	}	合計 96M バイト
32M バイト (別途購入したもの)		

増設RAMサブボードに対して、パソコンに最初から取り付けられているメモリのことを「RAMサブボード」といいます。

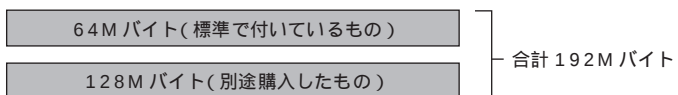
標準で付いているRAMサブボードが128Mバイトの場合、128Mバイトの増設RAMサブボードを追加することで、最大(256Mバイト)にすることができます。

標準で付いているRAMサブボードが64Mバイトの場合は次のページの例3をご覧ください。

実際に利用できるメモリ容量は、取り付けたメモリの総容量より0.4Mバイト少ない値になります。

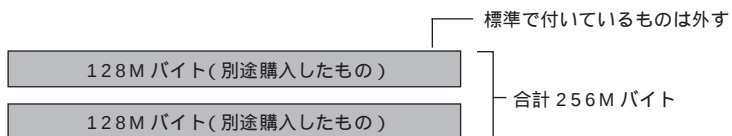
・例 2 : 192 M バイトにする場合

128 M バイトの増設 RAM サブボードを 1 枚追加します。



・例 3 : 256 M バイト (最大) にする場合

標準で付いている RAM サブボードを外し、128 M バイトの増設 RAM サブボードを 2 枚追加します。



✓ チェック!!

メモリは、大変壊れやすい部品です。
取り外した標準の RAM サブボード
は大切に保管してください。

増設 RAM サブボード の取り付けと取り外し

ここでは、増設 RAM サブボード (RAM サブボード) の
取り付け方と、取り外し方を説明します。

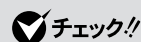
⚠ 注意



発火注意

増設 RAM サブボードは以下の手順に従って正しく取
り付けてください。

正しく取り付けられていないと、発煙、火災の原因と
なります。



以降の手順では、本体のカバーを開
けて作業します。

ボードを取り扱うときに気をつけること

増設 RAM サブボードおよび標準で付いている RAM サブボードは、静電
気に大変弱い部品です。身体に静電気を帯びた状態でこれらのボードに触
れると、ボードが破損する原因となります。ボードに触れる前に、身近な金
属 (アルミサッシやドアのノブなど) に手を触れて、身体の静電気を取り除
くようにしてください。

増設 RAM サブボードの取り付け方

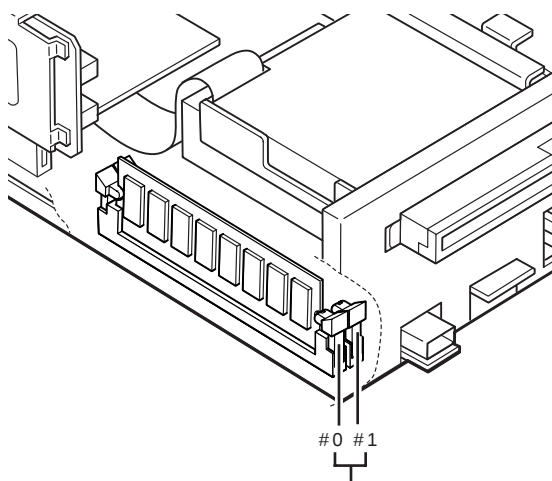
1

正しい手順で本体のルーフカバーを外す



ルーフカバーの外し方 → PART 2 の
「本体の開け方と閉め方」 (p.26)

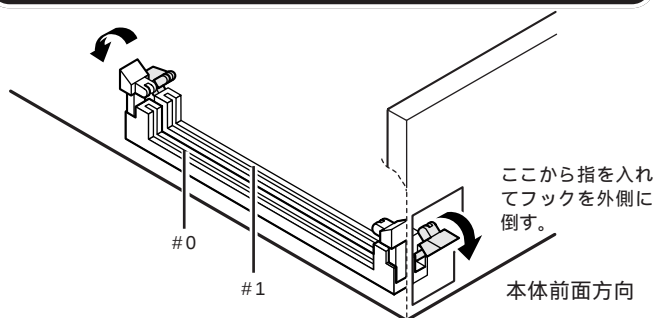
ここで、増設RAMサブボード用のコネクタの位置を確認しておいてください。



ここに増設 RAM サブボード用コネクタがあります。
本体外側に近い方から、#0、#1 と呼びます。

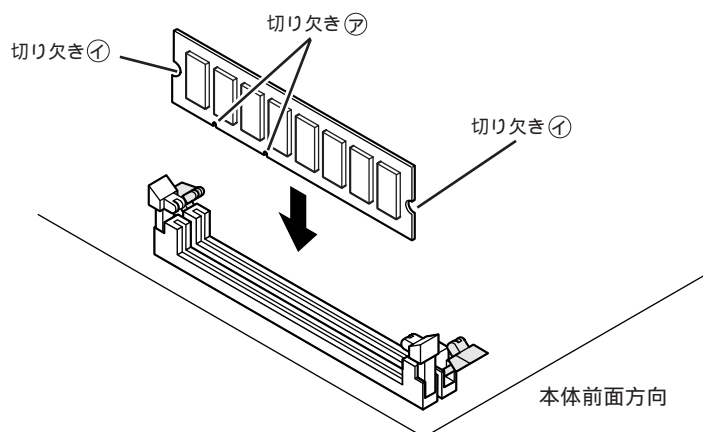
2

ボードを差し込むコネクタの両側のフックを外側に開く



3

切り欠き㊦の方向に注意して、空いているコネクタに
ボードを垂直に差し込む

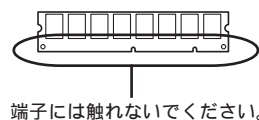


✓チェック!!

お使いの機種によって、本体内部の
形状が異なります。

左の図にはありませんが、実際には
2つあるコネクタのうち、#0(本体
外面に近い方)のコネクタには、標
準でRAMサブボードが差し込まれ
ています。

増設RAMサブボードは、両手で持つ
てください。



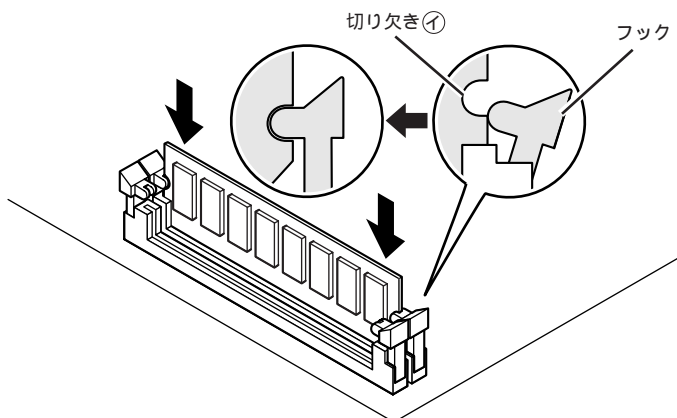
✓チェック!!

- ・増設RAMサブボードの端子部分に
は手を触れないでください。接触不
良など、故障の原因となります。
- ・ボード上の部品やハンダ付け面に
は触れないよう注意してください。

コネクタの溝とボードの切り欠き㊦
の位置を確認してから差し込んでく
ださい。

4

そのまま垂直方向に力を加え、コネクタ両側のフックが切り欠き①に引っかかるまで、強く押し込む



5

正しい手順で本体のルーフカバーを取り付ける

増設 RAM サブボードを奥までしっかり差し込むには、強い力が必要です。手順 3 で差し込んだときに切り欠き⑦をコネクタの溝に正しく合わせてあれば、壊れることはありませんので、強く押し込むようにしてください。

✓チェック!!

しっかり差し込んでおかないと、故障の原因になります。

📖 参照

ルーフカバーの取り付け方 → PART 2 の「本体の開け方と閉め方」(p.26)

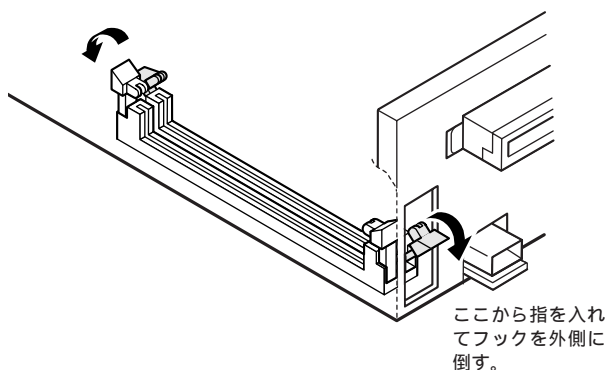
RAM サブボードの取り外し方

1

正しい手順で本体のルーフカバーを外す

2

取り外したいボードの両側のフックを外側に開き、ゆっくりと、ボードを垂直に引き抜く



3

正しい手順で本体のルーフカバーを取り付ける

左の図にはありませんが、実際には 2 つあるコネクタのうち、#0(本体外面に近い方)のコネクタには、標準で RAM サブボードが差し込まれています。#0 の RAM サブボードも同じ方法で取り外せます。

📖 参照

ルーフカバーの外し方 → PART 2 の「本体の開け方と閉め方」(p.26)

✓チェック!!

フックを開きすぎて破損してしまわないように気をつけてください。

✓チェック!!

メモリは、大変壊れやすい部品です。取り外した増設 RAM サブボードおよび標準で付いている RAM サブボードは、大切に保管してください。

📖 参照

ルーフカバーの取り付け方 → PART 2 の「本体の開け方と閉め方」(p.26)

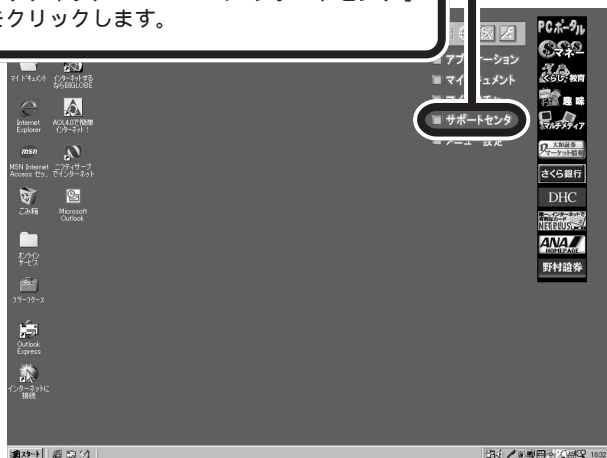
増やしたメモリを確認する

パソコンの電源を入れてみて、増やしたメモリが本当に使えるようになったかどうかを確認します。

確認のしかた

1

サポートセンタを起動する
アクティブメニューNXの「サポートセンタ」をクリックします。



「サポートセンタ」の画面が表示されます

2

「パソコンの情報」をクリック



メモリはWindows 98の「システム情報」からも確認することができます。
(「スタート」-「プログラム」-「アクセサリ」-「システムツール」-「システム情報」)

3

メモリ容量を確認する



ここに表示されたメモリ容量を確認する
(ここには、増やした後の全メモリ容量(標準で入っている容量 + 増設した容量)が表示されます)

メモリが増えていなかったら

表示されたメモリの大きさが増えていなかった場合には、次のことを確認してください。

- メモリが正しく取り付けられているか？
- このパソコンで使える増設 RAM サブボードを取り付けているか？

左の画面は、64 M バイトの増設 RAM サブボードを取り付けて合計 128 M バイトにしたときの例です。

✓ チェック！

ここでは、実際に増設したメモリ容量より約 1 M バイト少なく表示される場合がありますが故障ではありません。

P A R T

7

SCSI インターフェイス対応機器を使う

このパソコンで SCSI (スカジー) インターフェイスに対応した周辺機器を使うには、SCSI インターフェイスボードが必要です。ここでは、SCSI の基礎知識、SCSI インターフェイスボードの取り付け方、SCSI インターフェイス対応機器を接続する方法を説明します。

SCSI 機器を使うには

このパソコンで SCSI 機器を使うには、PCI スロット対応の SCSI インターフェイスボードを使います。

SCSI 機器の接続は、次のような手順で行います。

必要なものを用意する(→ p.71)

SCSI 機器のほかに、PCI スロット用の SCSI インターフェイスボードや SCSI ケーブル、ターミネータなどが必要です。



本体に SCSI インターフェイスボードを取り付ける(→ p.72)

本体のカバーを開けて、PCI スロットに SCSI インターフェイスボードを取り付けます。



SCSI 機器をボードの SCSI コネクタに接続する(→ p.73)

各機器の SCSI ID を設定したら、ボードの SCSI コネクタに、SCSI ケーブルを使って接続します。



SCSI 機器の電源を入れる



パソコン本体の電源を入れる



SCSI ID → この PART の「SCSI ID について」(p.70)

SCSI インターフェイスについて

ここでは、SCSI インターフェイスを使って周辺機器を接続するとき、覚えておいて欲しいことを説明します。

接続できる SCSI 機器

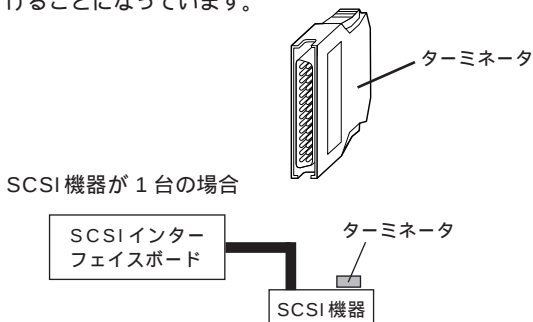
SCSI インターフェイスを使って接続できる機器には、次のようなものがあります。

- ・ハードディスク
- ・CD-ROM ユニット
- ・CD-RW ドライブ
- ・MO ディスク(光磁気ディスク)ドライブ
- ・PD ユニット
- ・Zip ドライブ
- ・ミニカートリッジテープユニット
- ・カセット磁気テープユニット
- ・イメージスキャナ など

SCSI に関する基礎知識

● SCSI 機器の接続方法について

SCSI 機器は、「デジチェーン」と呼ばれる「数珠つなぎ」のような形式で、複数(最大 7 台)の機器をつなぐことができます。また、その終端となる SCSI 機器には「ターミネータ」と呼ばれる装置を付けることになっています。



ターミネータは、「終端 BOX」とも呼ばれます。

SCSI 機器によっては、ターミネータ機能を内蔵しているものもあります。使用する SCSI 機器のマニュアルをよくご覧になり、正しく設定してください。

• SCSI ID について

SCSI機器は、SCSI ID という0 ~ 7 の認識番号で区別します。このSCSI ID が重複すると、SCSI機器が正常に動作しなくなりますのでご注意ください。

通常、SCSI インターフェイスボード自身が7 番を使用します。一般的に、外付けの SCSI 機器の SCSI ID は0 ~ 6 番を使います。また、通常、0 番はSCSIハードディスクで使います(その他の機器でも0番を使えないわけではありません)。

• SCSI 機器接続ケーブルの長さについて

複数のSCSI機器を接続するとき、ケーブルの総延長が3m 以内になるようにしてください。

✓ チェック!!

Ultraに設定したUltra SCSIインターフェイス対応機器を4台以上接続する場合は、ケーブルの総延長が1.5m 以内になるようにしてください。

ケーブルの総延長は取り付ける機器などによって異なります。ボードや機器のマニュアルで確認してください。

SCSI インターフェイスの種類

現在一般に使われているSCSIインターフェイスの規格には、次の4種類があります。

- SCSI インターフェイス
- SCSI-2 インターフェイス
- Ultra SCSI インターフェイス
- Ultra Wide SCSI インターフェイス

SCSI-2 インターフェイスは、SCSIインターフェイスのデータ転送速度を2 倍にしたものです。また、Ultra SCSIインターフェイスは、SCSIインターフェイスのデータ転送速度を4 倍に、Ultra Wide SCSI インターフェイスは、SCSIインターフェイスのデータ転送速度を8 倍にしたものです。

それぞれ、対応したインターフェイスボード、SCSI機器、ケーブルがあります。SCSIインターフェイスで、SCSI-2インターフェイスに対応した機器を使うことはできませんが、SCSI-2 インターフェイスで、SCSI インターフェイスに対応した機器を使うことはできます。

用意するもの

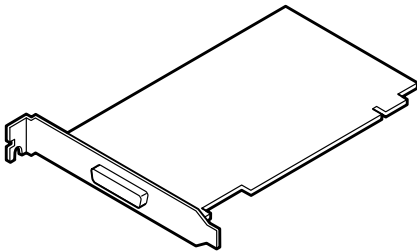
市販の SCSI インターフェイスボードや SCSI 機器接続ケーブルなどが必要になります。あらかじめ用意しておきましょう。

● 接続する SCSI 機器とそのマニュアル

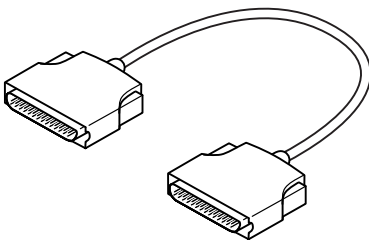
● SCSI インターフェイスボード

PCI スロットに対応した SCSI インターフェイスボードが 1 つ必要です。このパソコンで使用できる SCSI インターフェイスボードには、次のようなものがあります。

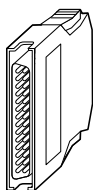
- ・Ultra SCSI インターフェイスボード (Wide 対応) (PK-UG-X007)
- ・Ultra SCSI インターフェイスボード (PK-UG-X014)



● SCSI 機器接続ケーブル



● ターミネータ (終端 BOX)

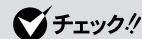


このパソコンで使用できるのは、「ハーフサイズ」の SCSI インターフェイスボード (長さが約 176mm 以下のもの) です。

また、SCSI カードを使うこともできます。SCSI カードは PC カードスロットに差し込みます。



ハーフサイズ → PART5 の「PCI スロット」(p.52)



SCSI 機器接続ケーブルは、プラグ部分の形状やケーブルの長さ、対応している SCSI インターフェイス規格の違いによって、いくつかの種類があります。ボードや機器に添付のマニュアルを参照して、適切なケーブルを用意してください。



SCSI インターフェイスの種類 → 前ページの「SCSI インターフェイスの種類」

ターミネータ (終端) 機能を内蔵しているタイプの SCSI 機器を接続するときは、不要です。詳しくは、SCSI 機器に添付のマニュアルをご覧ください。

SCSI インターフェイスボードを取り付ける

SCSI インターフェイスボードは、パソコン本体の PCI スロットに取り付けます。取り付け方は、一般の PCI ボードと同様です。

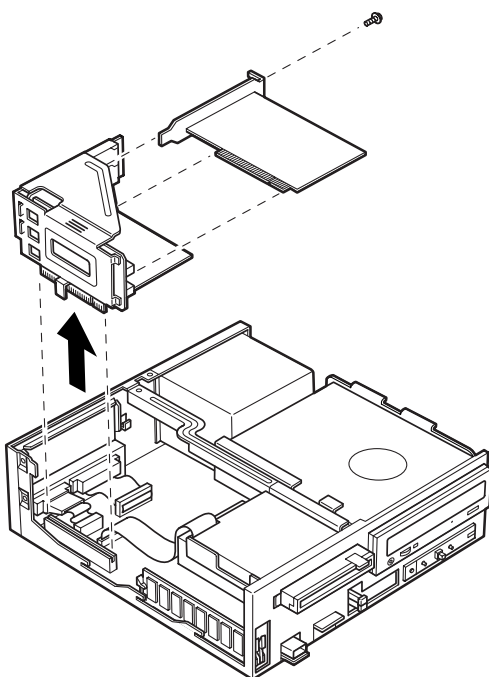
1

正しい手順で本体のルーフカバーと PCI ユニットを外す

2

正しい手順で、SCSI インターフェイスボードを PCI スロットに取り付ける

PCI スロットのスロットカバーを取り外してから、SCSI インターフェイスボードをスロットに慎重に差し込み、ネジで固定します。



3

正しい手順で PCI ユニットを取り付け、本体のルーフカバーを取り付ける

✓チェック!!

SCSI インターフェイスボードを取り付ける際は、本体のカバーを開けて作業します。

✓チェック!!

ディスプレイケーブルなど本体背面に接続されているケーブルは、本体からすべて取り外してください。

📖 参照

ルーフカバーの外し方 → PART2 の「本体の開け方と閉め方」(p.26)

机やテーブルを傷つけないように、下に厚手の紙や布などを敷いておくことをおすすめします。

📖 参照

ボードの取り付け方について詳しくは → 「PART5 PCI ボードを使う」(p.51)

✓チェック!!

SCSI インターフェイスボードは、しっかり差し込んでください。故障の原因になります。

SCSI インターフェイスボードを取り付けるときには、必ず SCSI インターフェイスボードに添付のマニュアルをご覧ください。

📖 参照

ルーフカバーの取り付け方 → PART 2 の「本体の開け方と閉め方」(p.26)

SCSI 機器を接続する

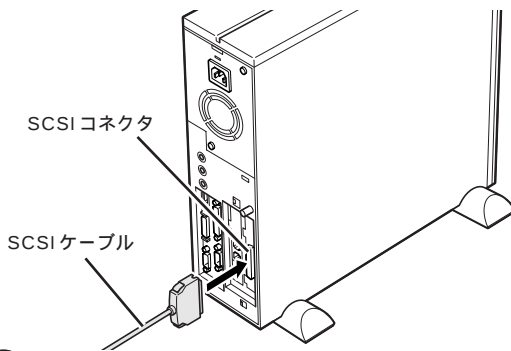
SCSI 機器は次のように接続します。

1

SCSI 機器の SCSI ID を設定する

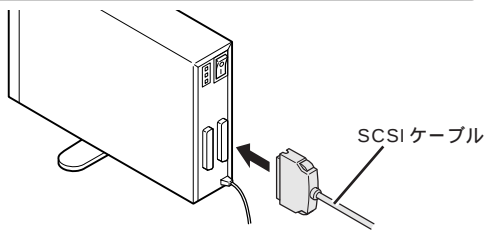
2

本体に取り付けた SCSI インターフェイスボードの SCSI コネクタに SCSI ケーブルのプラグを差し込む



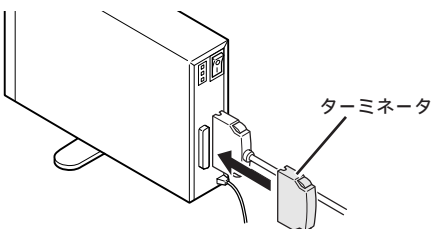
3

SCSI 機器の SCSI コネクタに、SCSI ケーブルのもう片方のプラグを差し込む



4

SCSI 機器の残りの SCSI コネクタに、ターミネータを差し込む



SCSI ID の設定方法については、各 SCSI 機器に添付のマニュアルをご覧ください。

✓チェック!

- ・ 接続はパソコン本体と SCSI 機器の電源を切ってから行ってください。
- ・ SCSI ケーブルのコネクタは、逆向きに差し込めないようになっています。向きをよく確認して、無理に押し込まないようにしてください。

コネクタによっては、左右のフックでコネクタが外れないように固定することができます。このようなフックがある場合には、必ず固定するようにしてください。

SCSI 機器の SCSI コネクタは通常 2 つ用意されています。どちらのコネクタを使っても構いません。

複数の SCSI 機器を接続する場合には、ターミネータのかわりにもう 1 本の SCSI ケーブルを差し込み、数珠つなぎの方法で SCSI 機器を接続していきます。そして終端となる機器にターミネータを差し込みます。

SCSI 機器がうまく動かないときは

取り付けた SCSI 機器が認識されないときには、次の点をチェックしてみてください。

● ケーブルがきちんと接続されていますか？

見落としがちなことですが、パソコンを移動したときなど、ケーブルが外れかかっていたりすることがよくあります。SCSI インターフェイスボードと各機器、または各機器どうしを接続しているケーブルやターミネータが、きちんと接続されているかどうか、確認してください。

● ケーブルが長すぎませんか？

また、SCSI インターフェイスや機器に対応したケーブルを使っていますか？

SCSI-2 のデジチェーンには、ケーブルの総延長が 3m 以内という制限があります。短いケーブルなどを使って、制限を超えない総延長にしてください。また、SCSI ケーブルは取り付ける SCSI 機器のインターフェイスによって使用できるケーブルが異なります。機器のコネクタの形をよく確認して適したものを使用してください。機器によっては変換アダプタが必要な場合もあります。

● SCSI インターフェイスボードは認識されていますか？

SCSI インターフェイスボードのリソースの設定、ドライバの組み込みが正しくできていない場合、SCSI インターフェイスボードが認識されません。「コントロールパネル」の「システム」の「デバイスマネージャ」で確認してください。正しく認識されていない場合には、SCSI インターフェイスボードのところに、赤い「×」や黄色い「！」のマークが表示されます。

● SCSI ID の設定は正しくできていますか？

複数の機器で同じ番号を設定していたりすると、各機器を認識できません。各機器の SCSI ID の設定を確認してください。

● 電源を入れる順序は正しいですか？

SCSI インターフェイス対応機器を取り付けたときは、本体の電源を入れる前に SCSI 機器の電源を入れておかないと、本体の起動時に認識されません。電源を入れる順序をまちがっていた場合は、一度、本体の電源を切ってから SCSI 機器の電源を入れ、その後もう一度本体の電源を入れ直してください。

参照

使用できるケーブルについて → SCSI インターフェイスボードのマニュアル、SCSI インターフェイス対応機器のマニュアル

参照

正しく認識されない場合の対処 → PART 9 の「リソースに関する問題」(p.91)

CyberTrio-NX のモードが「ベーシックモード」の場合は、デバイスマネージャでの設定はできません。「アドバンスモード」に変更してください。

P A R T

8

ハードディスクを増設する

データをたくさん保存したり、多くのアプリケーションをインストールしていくと、だんだんハードディスクがいっぱいになってきます。もっとたくさんの容量が必要な場合はハードディスクを増設します。このパソコンでは、ハードディスクは外部機器として接続します。

ハードディスクを増設するには

このパソコンでハードディスクを増設するには、SCSI インターフェイスボードを使って、本体の外側に設置するタイプのハードディスクを接続します。

ハードディスクの増設は、次のような手順で行います。

必要なものを用意する(→ p.77)

ハードディスクに添付のマニュアルを読み、スイッチなどの設定が必要ならば設定しておきます。パソコン本体の電源は切っておきます。また、SCSI インターフェイスボードや SCSI 機器接続ケーブルなどが必要です。



本体に SCSI インターフェイスボードを取り付ける(→ p.78)

本体の PCI スロットに、SCSI インターフェイスボードを取り付け、使用可能な状態にします。



増設ハードディスクをボードの SCSI コネクタに接続する(→ p.78)

取り付けた SCSI インターフェイスボードのコネクタに、SCSI 機器接続ケーブルを使ってハードディスクを接続します。



増設ハードディスクの電源を入れる



パソコン本体の電源を入れる



ハードディスクをフォーマットする(→ p.80)

パソコンの電源を入れて、増設したハードディスクをフォーマットします。

✓チェック!!

このパソコンでは、本体に内蔵するタイプのハードディスクは増設できません。

📖参照

SCSI インターフェイスボードの取り付け→「PART7 SCSI インターフェイス対応機器を使う」(p.67)

📖参照

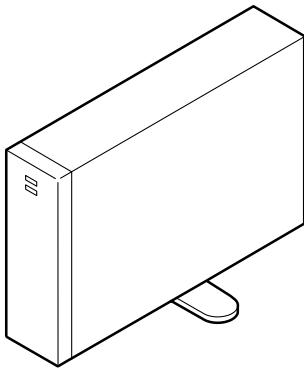
フォーマット→この PART の「ハードディスクをフォーマットする」(p.80)

用意するもの

作業を始める前に、あらかじめ、市販の外付け用ハードディスクやSCSIインターフェイスボードなどを購入して、用意しておきます。

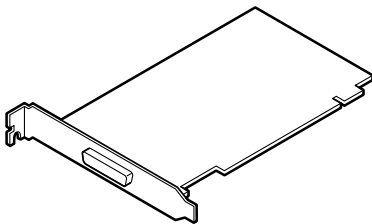
●ハードディスク

市販の「SCSIインターフェイス対応」の外付け用ハードディスクを用意します。容量や性能、大きさ、形などの違いにより、さまざまな種類のハードディスクがありますので、用途に合わせて、適切なものを選びましょう。



●SCSIインターフェイスボードなど

ハードディスクをパソコン本体に接続するために、市販のSCSIインターフェイスボードやSCSI機器接続ケーブル、ターミネータ(終端BOX)などが必要です。PART7の説明や機器に添付のマニュアルをご覧ください。あらかじめ必要なものを用意してください。



●ハードディスクやボードのマニュアル

ハードディスクとSCSIインターフェイスボードの組み合わせによっては、うまく接続できなかったり、専用の変換コネクタが必要になったりするので、購入する前にお店で確認してください。

参照

SCSIインターフェイスボード→
「PART7 SCSIインターフェイス対応機器を使う」(p.67)

本体にハードディスクを接続する

先にパソコン本体に SCSI インターフェイスボードを取り付け、ボードの SCSI コネクタにハードディスクを接続します。

1

本体とハードディスクの電源が切れていることを確認する

2

正しい手順で、本体に SCSI インターフェイスボードを取り付け、必要な設定を行う

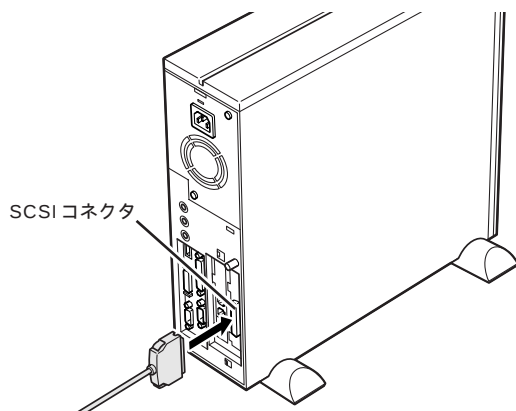
3

接続しようとするハードディスクの SCSI ID を確認し、必要ならば設定を変更する

0 ~ 6 のいずれかの番号に設定します。他の SCSI 機器も接続している場合には、それらの機器の番号と重複しないように気をつけてください。

4

本体に取り付けた SCSI インターフェイスボードの SCSI コネクタに SCSI 機器接続ケーブルのプラグを差し込む



外付け用のハードディスクを増設するときには、必ずハードディスクに付属のマニュアル、SCSI インターフェイスボードに付属のマニュアルもご覧ください。

✓チェック!!

SCSI インターフェイスボードを取り付ける際は、本体のカバーを開けて作業します。

📖 参照

SCSI インターフェイスボードの取り付けと設定 → 「PART7 SCSI インターフェイス対応機器を使う」 (p.67)

SCSI 機器は、SCSI ID という 0 ~ 7 の番号で装置を識別します。ハードディスクにはこの番号を設定するボタンが付いているので、それを使って設定してください。

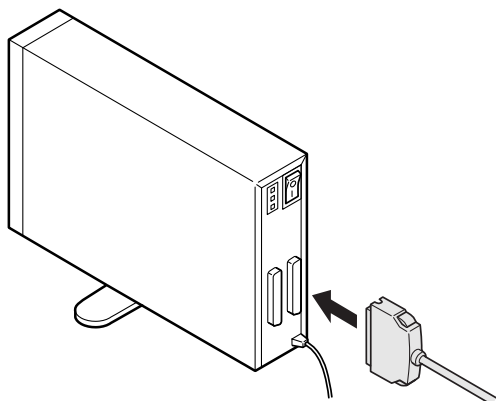
✓チェック!!

SCSI 機器接続ケーブルのプラグは、逆向きに差し込めないようになっていました。コネクタの向きをよく確認し、無理に押し込まないようにしてください。

コネクタによっては、左右のフックでプラグが外れないように固定することができます。このようなフックがある場合には、必ず固定するようにしてください。

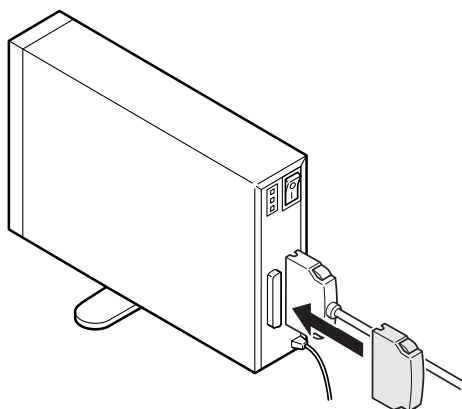
5

増設ハードディスクのSCSIコネクタに、SCSI機器接続ケーブルのもう片方のプラグを差し込む



6

増設ハードディスクの残りのSCSIコネクタに、ターミネータを差し込む



7

必要に応じて、フォーマットの作業に進む

ハードディスクのSCSIコネクタは通常2つ用意されています。どちらのコネクタを使ってもかまいません。

✓チェック!!

ハードディスクを接続するときは、ハードディスクに衝撃を加えないように十分取り扱いに気をつけてください。

📖 参照

ターミネータについては→PART7の「SCSIに関する基礎知識」(p.69)

✓チェック!!

ターミネータを取り付けないと、ハードディスクが正しく認識されない場合があります。

SCSIハードディスクのフォーマットについては、ハードディスクに付属のマニュアルもご覧ください。

ハードディスクをフォーマットする

一般的に、ハードディスクは取り付けただけでは使えません。情報を保存するためにハードディスクの区画整理をして、番地をつける「フォーマット作業」が必要です。

ハードディスクのフォーマットは次の手順で行います。

領域作成の準備をする(→ p.82)

以前使っていたことのあるハードディスクを接続した場合は、あらかじめ、そのハードディスク内のすべての領域をいったん削除します。



領域を作成する(→ p.84)

パソコンで使用するハードディスクの領域を設定します。ひとつのハードディスクをいくつかの領域(パーティション)に分けて別のドライブのように扱うことができます。



増設したハードディスクを確認する(→ p.86)



ドライブをフォーマットする(→ p.87)

データをハードディスクに保存できるように区画ごとに番地をつけ、またどのデータをどこにしまったかを記録しておく、一覧表のようなものを作成します。



スキャンディスク(→ p.88)

ハードディスクに壊れている部分がないかどうか、問題なく使えるかどうかをチェックします。破損している部分が見つかった場合には、自動的にその部分を使わないように設定します。

フォーマットには時間がかかります。そのため、フォーマット済みの状態で販売しているハードディスクもあります。この場合にはフォーマットの作業は必要ありません。ハードディスクのマニュアルで確認してください。

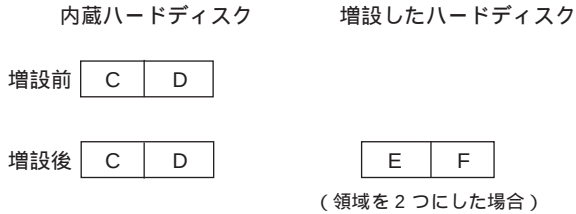
✓チェック!

- ・すでに使用されているハードディスクをフォーマットすると、その中に保存されていたすべてのデータが消えてしまいます。必要なデータは、フロッピーディスク、MOディスクなどにバックアップしておいてください。
- ・すでにPC-9800シリーズ用にフォーマットされているときでも、もう一度領域を作成しフォーマットする必要があります。
- ・ハードディスクのボリュームラベルが全角文字または半角カタカナで入力されているときは、領域の削除ができません。「マイコンピュータ」でハードディスクドライブのアイコンを右クリックして、「プロパティ」で半角英数字に入力し直すかボリュームラベルを削除してください。
- ・本体内蔵ハードディスク内に論理MS-DOSドライブを持たない拡張MS-DOS領域があるときは、ハードディスクを増設する前に削除してください。

増設したドライブのドライブ名について

ハードディスクを増設したときに、通常(基本 MS-DOS 領域を作成しない場合)は、あらかじめ取り付けられている内蔵ハードディスクの最後のドライブ名に続けてドライブ名が割り当てられます。

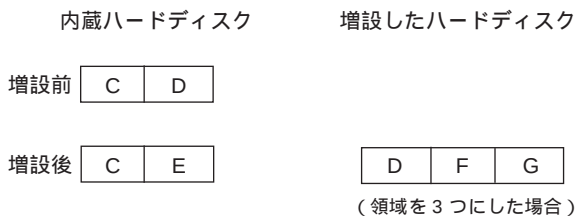
基本 MS-DOS 領域を作成しない場合



ハードディスクの領域を確保するときに基本 MS-DOS 領域を作成した場合は、複数の領域を作成したドライブのドライブ名が変更されます。以下の順序でドライブ名が割り当てられますので、ハードディスクを増設した後は、ハードディスクのドライブ名を一度確認してください。

- 内蔵ハードディスクの先頭ドライブ
- 増設したハードディスクの先頭ドライブ
- 内蔵ハードディスクの残りのドライブ
- 増設したハードディスクの残りのドライブ

基本 MS-DOS 領域を作成する場合



領域作成の準備をする

1

ハードディスクの電源を入れる

2

パソコンの電源を入れる

3

「スタート」をクリックし、「プログラム」にポインタを合わせ、「MS-DOS プロンプト」をクリックする

MS-DOSプロンプトの画面が表示される



4

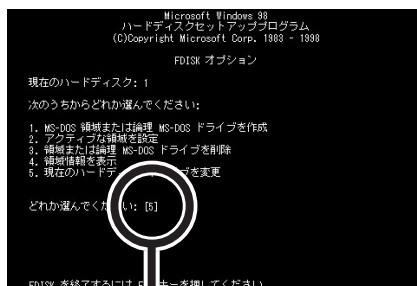
(8.4G バイト以下のハードディスクの場合)
キーボードから FDISK /x と入力し、【Enter】を押す
(8.4G バイトを超えるハードディスクの場合)
キーボードから FDISK と入力し、【Enter】を押す

「大容量ディスクのサポートを可能にしますか(Y/N)」と表示される。

5

キーボードから Y を入力し、【Enter】を押す

「FDISK オプション」の画面が表示される



6

キーボードから 5 を入力し、【Enter】を押す

✓チェック!!

手順 4 でのハードディスクの容量は
1G バイト=1,000,000,000 バイト換算です。

Y を選択すると、FAT32 でフォーマットされます(ただし、512M バイトより小さい領域を作成すると、ここで Y を選択していても FAT16 でフォーマットされます)。
N を選択すると、FAT16 でフォーマットされます(ただし、2,047M バイト以下の領域しか作成できません)。
なお、2,048M バイト以上の領域は、FAT32 でないと作成できません。

「現在のハードディスクドライブを変更」の画面が表示される。



7
増設したハードディスクの番号(通常は「2」)を入力し、【Enter】を押す

画面には接続されているハードディスクが一覧表示されます。この中から増設したハードディスクを探して、その番号を入力します。通常は「2」と入力します。

FDISK オプションの画面に戻る



いま入力した番号が「現在のハードディスク」の右に表示される

買ってきたばかりのハードディスクを接続して使うときは、以下の手順は不要です。このまま、次ページの「領域を作成する」に進んでください。以前使っていたハードディスクを接続した場合で、ハードディスクに領域が設定されているときは、手順8からの記述にしたがって領域を削除してください。

8

キーボードから 3 を入力し、【Enter】を押す

領域削除の画面が表示される。

9

キーボードから 2 を入力し、【Enter】を押す

「削除した拡張 MS-DOS 領域のデータはなくなります。続けますか (Y/N)」と表示される。

10

キーボードから Y を入力し、【Enter】を押す

「拡張 MS-DOS 領域を削除しました。」と表示される。

11

キーボードの【Esc】を押す

FDISK オプション画面が表示される。

✓チェック!!

「1」は、あらかじめ取り付けられている内蔵ハードディスクです。ドライブをまちがえないように、十分注意してください。

✓チェック!!

すでに使用しているハードディスクの領域を削除すると、その中に保存されていたすべてのデータが消えてしまいます。十分気をつけてください。

論理ドライブが設定されているときは、手順9の前に3を入力し、拡張MS-DOS領域内の論理MS-DOSドライブをすべて削除してください。また、基本MS-DOS領域が設定されていれば、手順11のあとにそれも削除してください。

✓チェック!!

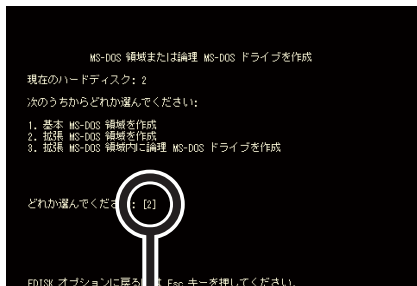
FDISKを終了しないで次の手順に進んでください。

領域を作成する

1

キーボードから 1 を入力し、【Enter】を押す

右のような画面が表示される



2

キーボードから 2 を入力し、【Enter】を押す

「領域のサイズをMバイトが全体に対する割合(%)で入力してください。拡張 MS-DOS 領域を作ります」と表示される。

3

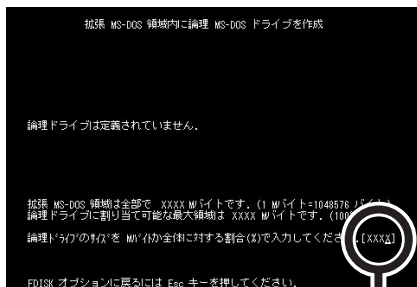
キーボードの【Enter】を押す

「拡張 MS-DOS 領域を作成しました。」と表示される。

4

キーボードの【Esc】を押す

作成するドライブのサイズを入力する画面が表示される



5

サイズを入力して、【Enter】を押す

「論理 MS-DOS ドライブを作成しました。ドライブ名は変更または追加されました」と表示される。

✓チェック!!

領域作成の途中で電源を切ったりすると、ハードディスクが使えなくなってしまうこともありますので、気をつけてください。

「領域作成の準備をする」の手順5で N を入力したとき、ひとつの領域の大きさは 2,047 M バイトまでです。それより大きなハードディスクを使う場合には、領域を分けて作成します。

6

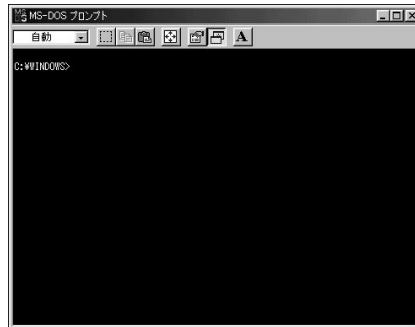
拡張 MS-DOS 領域がなくなるまで手順 5 を繰り返
し、すべての拡張 MS-DOS 領域を論理ドライブに割
り当てる

「拡張 MS-DOS 領域の使用可能な領域はすべて論理ドライブに
割り当てられています」と表示される。

7

キーボードの【Esc】を 3 回押す

MS-DOS プロンプト
の画面に戻る



8

キーボードから EXIT と入力し、【Enter】を押す

Windows 98 の画面に戻る。

9

「スタート」をクリックし、「Windows の終了」をク
リックする

「Windows の終了」画面が表示される。

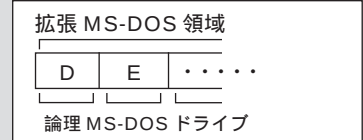
10

「再起動する」をクリックし、「OK」をクリックする

Windows 98 が再起動する。

ここで、新しく作成した論理ドライ
ブ名をメモにひかえておいてくださ
い。フォーマットするときに必要で
す。

ハードディスクの領域



参照

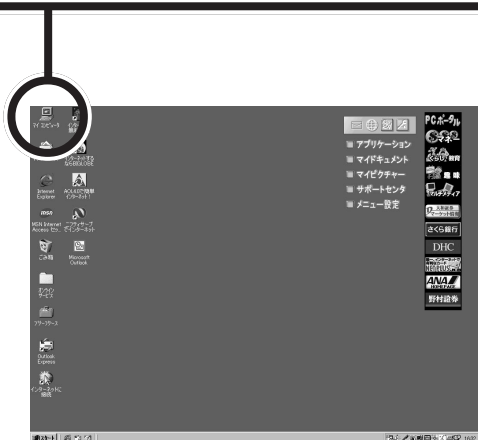
ハードディスクの増設によるドライ
ブ名の変更について→この PART の
「増設したドライブのドライブ名につ
いて」(p.81)

増設したハードディスクを確認する

ハードディスクを増設したあとでWindows 98のマイコンピュータを見ると、増設した分だけ、ハードディスクアイコンが増えて表示されます。

1

「マイ コンピュータ」をダブルクリックする



2

増設した分だけハードディスクアイコンが増えていることを確認する

「領域を作成する」(p.84)の手順で、増設したハードディスクを複数の領域に分割した場合は、その分だけハードディスクアイコンも多く表示されているはずです。

もしも表示されていない場合は、増設に失敗しています。

もう一度、「領域作成の準備をする」(p.82)の手順からやり直してみてください。

または、ケーブルが正しく接続できているか、確認してください。

ドライブをフォーマットする

続いてWindows 98で、増設したハードディスクをフォーマットします。

データをハードディスクに保存できるように、Windows 98で区画ごとに番地をつけ、またどのデータをどこにしまったかを記録しておく、一覧表のようなものを作成します。



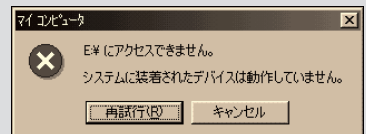
フォーマットの画面が表示される。



✓チェック!!

すでに使用されているドライブをフォーマットすると、その中に保存されていたすべてのデータが消えてしまいます。十分気をつけてください。

増設したドライブが、どれかわからない場合には、マイコンピュータのハードディスクのアイコンを次々とダブルクリックしてみてください。増設したハードディスクの場合には、未フォーマットであることを示すウィンドウが表示されます。



このウィンドウが表示されたら、「キャンセル」をクリックし、ウィンドウを閉じてください。

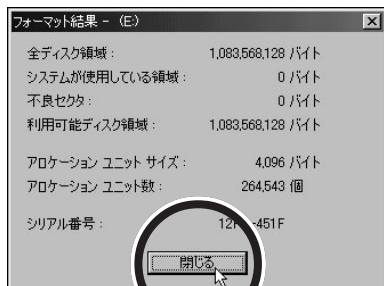
確認の画面が表示される。



5

「OK」をクリックする

しばらくするとフォーマットが終了し、フォーマットの結果が表示される。



6

「閉じる」をクリックする

スキャンディスクの実行をうながす画面とヘルプが表示される。



7

「OK」をクリックする

8

「フォーマット」の画面をクリックする

9

「閉じる」をクリックする

10

表示されたヘルプの内容にしたがってスキャンディスク
を実行する

スキャンディスクが正常に終了したら、フォーマット作業は終わりです。

スキャンディスクは、ハードディスクに壊れている部分がないか、問題なく使えるかをチェックするものです。破損している部分が見つかった場合には、自動的にその部分を使わないように設定します。

P A R T

9

うまく動かないときは

手順通りに作業したのに増設した周辺機器が使えない、周辺機器を増設したらパソコンが起動しなくなったといったときには、このPARTを読んでみてください。トラブルを解決するヒントを説明しています。

困ったときのチェックポイント

増設した周辺機器やパソコンがうまく動かないときは、次の点をチェックしてみてください。

● 電源は入っていますか？

外付けの周辺機器の場合には、取り付けた周辺機器の電源が入っていることを確認してください。

● 取り付けた周辺機器は、このパソコンで使えるものですか？

取り付けた周辺機器がこのパソコンで使えるものかどうか、周辺機器のマニュアルを読んだりメーカーへ問い合わせ、確認してください。

● ケーブルは正しく接続されていますか？

見落としがちなことですが、パソコンや周辺機器を動かしたときなどに、ケーブルが外れたり、ずれたりしていることがよくあります。ケーブルがきちんと接続されているか、確認してください。

● 本体内部のケーブル類はきちんと接続されていますか？

本体内部に機器を取り付けたときに、気づかないうちに内部の信号ケーブルなどを引っばって、接続がゆるんでしまうことがあります。本体内部のケーブル類がきちんと接続されているかどうか、確認してください。

● ドライバは組み込みましたか？

周辺機器によっては、機器を取り付けた後、パソコン側にドライバ（やソフト）を組み込む必要のあるものもあります。周辺機器のマニュアルをご覧ください。正しくドライバを組み込んでください。

ドライバの情報は、このパソコンや周辺機器のReadme ファイルに書いてあることがあります。

また、周辺機器のドライバは、知らないうちに改善されて新しくなることもあります。「ドライバの組み込み方は正しいのに、うまく動かない」といった場合は、ドライバを最新のものにするとうまく動くようになることもあります。周辺機器のメーカーに問い合わせ、最新のドライバを入手してください。

● 周辺機器を、一度に複数取り付けませんでしたか？

周辺機器を一度に複数取り付けると、不具合があったとき、原因究明が困難になります。このような場合は、取り付けた機器をいったん全部外し、1つずつ取り付けてパソコンの動作を確認してください。

● 設定はしましたか？

ブレイスティック、ブレイパッドやドライビングホイールのように、接続したあとで設定の必要な機器があります。

● 他の機器とリソースが競合していませんか？

システムのリソースが足りない場合、他の使用していないリソースを一時的に外し、そのリソースを割り当てる必要があります。



参照

リソースの問題について→このPARTの「リソースに関する問題」(p.91)

リソースに関する問題

パソコンには、周辺機器が使用するための「リソース」という概念があります。ここでは、少しだけこのリソースについて説明します。

リソースって何？

リソースは、パソコンの中心となる「CPU」と周辺機器が、円滑に情報をやりとりするために必要な設定項目です。大きく「割り込みレベル (IRQ)」と「DMA チャンネル」に分けられます。

これらのリソースは、それぞれの機器ごとに違う設定を割り当てなければいけませんが、リソースの数は限られており、このパソコンをご購入時には、すでにいくつかのリソースが使用されています。周辺機器を増設したら、それらの機器に空いているリソースを割り当てることになるのです。

リソースの競合とは

周辺機器を増設した際、通常は、パソコン (Windows 98) が自動的にこれらのリソースの設定を管理するので、自分で設定を変更したり、確認する必要はほとんどありません。

ところが、機器によっては、パソコンまかせだとうまく設定できないことがあります。設定がうまくできずに、同じリソースが複数の機器に重複して割り当てられている状態を「リソースの競合」といいます。リソースが競合していると、機器が正常に使用できなかったり、システム全体の動作が不安定になってしまいます。

Windows 98 などでは、ひとつの割り込みレベルを複数の機器で使うことがあります。このようにリソースを共有することを「リソースをシェアする」と表現します。この場合は、そのまま機器を利用できます。

リソースについて詳しく知りたい方は、市販の Windows 98 の解説本やパソコン専門誌などをご覧ください。

 参照

ご購入時のリソースの割り当て → 「このパソコンが使用しているリソース」(p.95)

増設したPCIボードや周辺機器にリソースの競合が起こっているかどうかは、「コントロールパネル」→「システム」→「デバイスマネージャ」で調べることができます。

アイコンに「！」が
付いて表示されて
いる



デバイスマネージャを表示したときに、その機器のアイコンに「！」マークや「×」マークが付いていたら、その機器の「プロパティ」を表示してみます。「デバイスの状態」の欄に「競合」を示すメッセージが表示されていたら、リソースが競合しています。

リソースが競合していたら

増設した周辺機器のリソースが競合していて使えないときは、リソースの割り当てを変更する必要があります。

たとえば、当面使わない機器を一時的に「使用しない」設定に変えることで、その機器が使用していたリソースを解放して、増設した周辺機器に割り当て直すことができます。また、競合している相手の機器のリソースの割り当てを変更することで使用できるようになる場合もあります。

リソースの割り当ての変更やリソースの解放は、デバイスマネージャで行います。

デバイスのリソース設定の変更

通常、プラグ＆プレイ対応のデバイスは、デバイスマネージャによって、自動的に設定されています。リソース設定が変更できないデバイスはそのままにして、変更できるデバイスを設定変更します。

ここではプリンタポートのリソースを変更してみます。

1

「スタート」→「プログラム」→「CyberTrio-NX」の順に
ポイントして「Go to アドバンスモード」をクリック

2

「スタート」→「設定」→「コントロールパネル」の順に
クリックして「コントロールパネル」を開く

✓チェック!!

CyberTrio-NX のモードが「ベーシックモード」のとき（購入時の状態）は、デバイスマネージャの設定が行えません。「アドバンスモード」に変更してください。

✓チェック!!

- ・リソースの競合などを避けるため、ある機器のリソースを解放すると、その機器は使えなくなります。再びその機器を使う場合には、リソースを設定し直してください。
- ・機器によっては、リソースの割り当て方に制限がある場合があります。詳しくは、機器に添付のマニュアルをご覧ください。

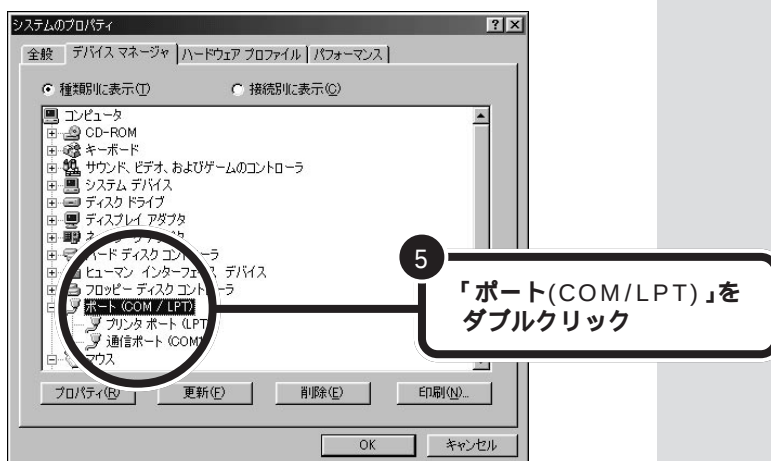
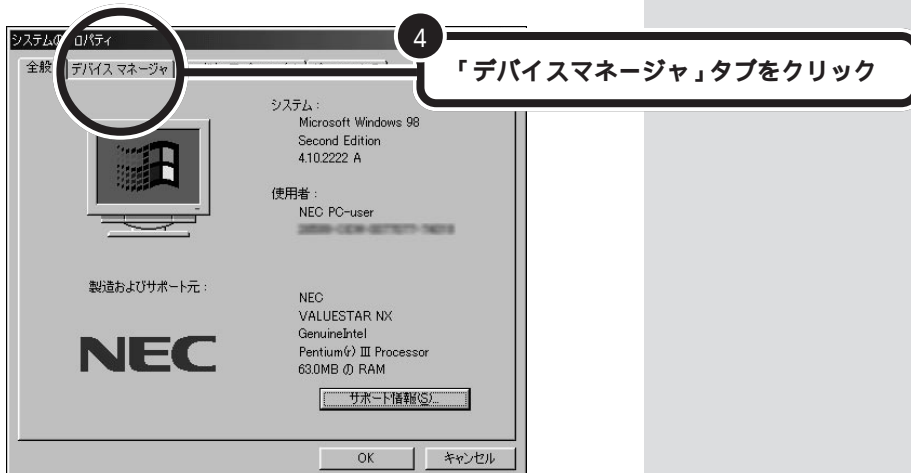
✓チェック!!

CyberTrio-NX のモードが「ベーシックモード」のとき（購入時の状態）は、デバイスマネージャの設定が行えません。「アドバンスモード」に変更してください。



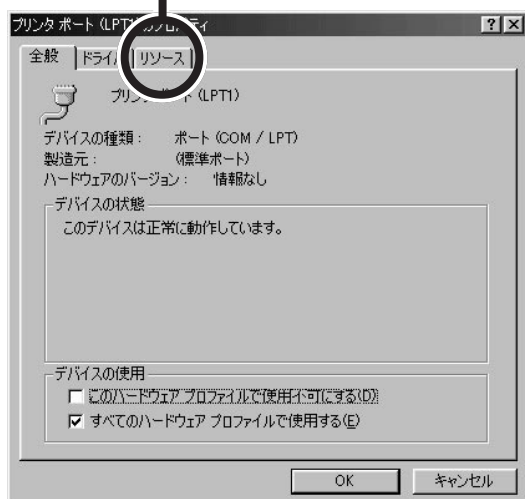
✓チェック!!

「CyberTrio-NX」のモードが「ベーシックモード」の場合は、リソース設定の変更はできません。「アドバンスドモード」に変更してください。



7

「リソース」タブをクリック



「リソース」タブのウィンドウが表示されます。

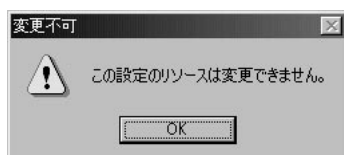
8

「自動設定を使う」のチェックを外す



「設定の変更」ボタンが有効になります。

ここで、「リソースの種類」から変更したい「I/Oの範囲」または「割り込み要求」をクリックして、「設定の変更」をクリックすると、リソースの変更ができます。ただし、次のようなメッセージが表示されたデバイスは、リソースの変更はできません。



✓チェック!

デバイスによっては、readme ファイル(「はじめにお読みください」)に変更方法が記載されていることがあります。

このパソコンが使用しているリソース

このパソコンは、次のようにリソースを使用しています(購入時の設定)。

● 割り込みレベル(IRQ)

IRQ	機能
0	システムタイマ
1	キーボード
2	割り込みコントローラ
3	(空き)
4	シリアルポート (COM1)
5	(空き)
6	フロッピーディスクコントローラ
7	パラレルポート
8	リアルタイムクロック
9	FAXモデムボード/アクセラレータ/ACPI
10	サウンド/USBインターフェイス/SMBus/CardBus
11	(空き)
12	マウス
13	数値データプロセッサ
14	IDEコントローラ (プライマリ)
15	IDEコントローラ (セカンダリ)

✓チェック!

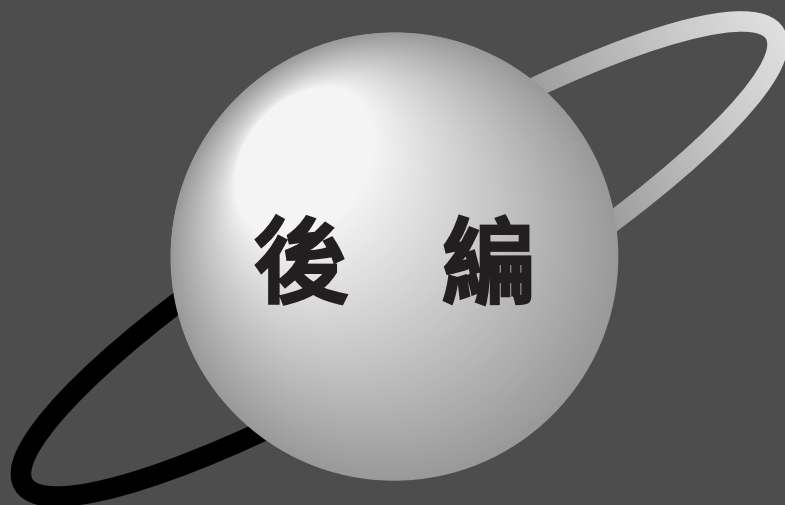
TV モデルの購入時のリソース設定 (割り込みレベルおよびDMAチャンネル)については、別冊の『TVモデルガイド』をご覧ください。

📖 参照

TV モデルのリソース設定 → 『TV モデルガイド』付録の「このパソコンが使用しているリソース」

● DMA チャンネル

DMA	機能
#0	(空き)
#1	(空き)
#2	フロッピーディスクコントローラ
#3	(空き)
#4	DMAコントローラ
#5	(空き)
#6	(空き)
#7	(空き)



活用ガイド

後編「活用ガイド」は、ハードウェアの機能の紹介やパソコンの設定の変更方法などの説明です。少し難しいところもあるかもしれませんが、よく読んでパソコンを使いこなしてください。

P A R T

10

ハードウェア

ハードウェアの機能は、自分の好みに合わせて設定することができます。本機の設定を変更したいとき、ハードウェアについて詳しく知りたいときなどには、ここをご覧ください。

- マウス
- キーボード
- ワンタッチスタートボタン
- ハードディスク
- フロッピーディスク
- ディスプレイ
- 省電力機能(スタンバイ)
- サウンド機能
- FAX モデムボード

マウス

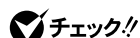
スクロールボタンを使って画面を上下左右にスクロールすることができます。「マウス プロパティ」ウィンドウでは、ダブルクリックの速さの調整、マウスポインタの形の変更や動きの調整、左ききの方のためのマウスの設定などができます。



マウスの使い方について『練習! パソコンの基本』の「PART1 マウスに慣れよう」

スクロールボタンを使う

スクロールボタンを使うと、画面を上下左右にスクロールさせたり、画面を拡大縮小させることができます。

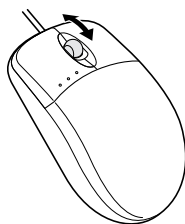


スクロールボタンの機能に対応していないアプリケーションではスクロールボタンは使えません。

画面を上下方向にスクロールする

アプリケーションの上下スクロールバーがある画面をクリックしてアクティブにします。

スクロールボタンを前方に押す。または手前に引く。

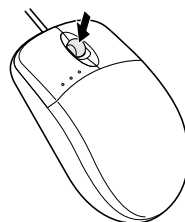


前方に押すと画面が上にスクロールし、手前に引くと画面が下にスクロールします。スクロールボタンを押しつづけると、画面が連続的にスクロールします。

画面を上下、左右方向にスクロールする

スクロールさせたい画面にマウスポインタを移動する。

スクロールボタンを真下に押す。

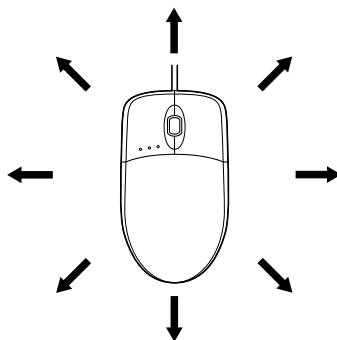


マウスポインタの形が  や  のようになります。



スクロールボタンは、真下に押し込むようにしてください。スクロールボタンを前後に動かすと、通常の上下のスクロールになります。

 や  が表示されたらスクロールしたい方向にマウスを動かす。



マウスを動かした方向に画面がスクロールしていきます。

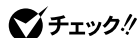
もう一度スクロールボタンを押すと、マウスポインタの形が元に戻ります。



・アプリケーションによってスクロールできる方向は異なります。

・ が表示されているときは上下にだけスクロールすることができます。

ズーム機能を使う



チェック!

アプリケーションによっては、この機能は使えません。

拡大、縮小したい画面にマウスポインタを動かす。

キーボードの【Ctrl】を押したまま、スクロールボタンを前方に押す。または手前に引く。
前方に押すと画面の表示が拡大し、手前に引くと画面の表示が縮小します。

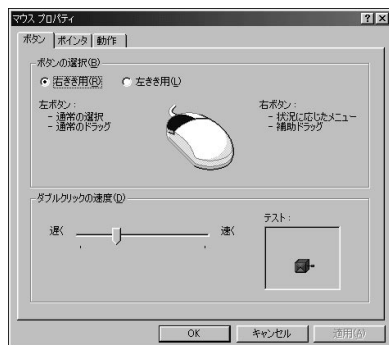
「マウス プロパティ」
ウィンドウでの設定

「コントロールパネル」を開く。
(「スタート」ボタン→「設定」→「コントロールパネル」)



この画面は機種によって異なる場合があります。

「マウス」をダブルクリック。



「マウス プロパティ」ウィンドウには、ここで表示されている「ボタン」タブのウィンドウの他に「ポインタ」「動作」タブのウィンドウがあります。タブをクリックすると、そのタブに対応するウィンドウを表示できます。各ウィンドウで行える設定は次の通りです。

「ボタン」タブのウィンドウ

■ ボタンの選択

マウスのボタンの左右の機能を交換して、右きき用 / 左きき用に設定できます。



状況に応じたメニュー

現在の本機の状態や、ポインタの位置で可能な操作の一覧が表示されているメニュー。

補助ドラッグ

ファイルやフォルダのコピー、ショートカットアイコンの作成などができるドラッグ。

■ ダブルクリックの速度

マウスのボタンを2回続けてクリックするときの、間隔(タイミング)を調整します。「遅く」にすると間隔が長く、「速く」にすると間隔が短くなります。調整したタイミングを「テスト」にあるアイコン(びっくり箱)で確認できます。調整したタイミングでアイコンをダブルクリックすると、箱が開いて中から人形が飛び出てきます。

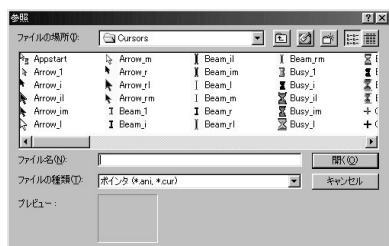
購入時状態では、遅めに設定されています。

「ポインタ」タブのウィンドウ



このウィンドウでは、マウスポインタの形を選択できます。例として、マウスポインタの形を  から十字の形に変更してみます。

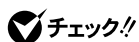
「通常の選択」が反転表示している状態で「参照」をクリック。
「参照」ウィンドウ(「Cursors」フォルダ)が表示されます。



「Cross_1」をダブルクリック。
「Cross_1」のアイコンが「ポインタ」タブのウィンドウに表示されます。



「OK」をクリック。
マウスポインタの形が十字の形になります。



マウスポインタを元に戻すには、「既定の設定」をクリックします。

「動作」タブのウィンドウ



マウスポインタが移動する速度とマウスポインタの軌跡表示を設定できます。

キーボード

各キーの名称と一般的な機能を説明します。「キーボード プロパティ」ウィンドウでは、カーソルの点滅速度の調整、日本語入力システムの選択など、いろいろな設定ができます。

参照

キーボードの使い方、日本語入力のしかた→『練習! パソコンの基本』の「PART3 キーボードで文字を打ってみよう」

キーの役割

一般的なキーの役割です。

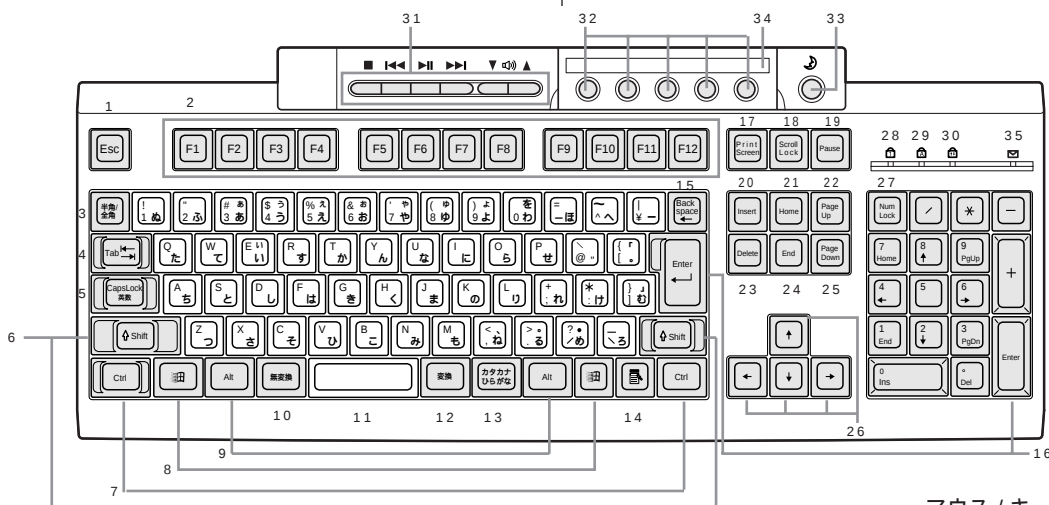
キーボードのキーは、一般的に次のように2種類に分けられます。

- ・文字を入力するキー
英数字やカタカナ、記号などの文字を入力します。下の図で白くなっている部分のキーです。
- ・コンピュータに指示を与えるためのキー
コンピュータに直接指示を与えるためのキーです。下の図でグレーの色が付いている部分のキーです。このキーの動きは、お使いになるアプリケーションによって違います。詳しくは、各アプリケーションのマニュアルをご覧ください。

キーの名称

キーボード正面

- 1 【Esc】: エスケープキー
- 2 【F1】～【F12】: ファンクションキー
- 3 【半角 / 全角 / 漢字】: 半角 / 全角 / 漢字キー
- 4 【Tab】: タブキー
- 5 【CapsLock】: キャップスロックキー
- 6 【Shift】: シフトキー
- 7 【Ctrl】: コントロールキー
- 8 【】: Windows キー
- 9 【Alt】: オルトキー
- 10 【無変換】: 無変換キー
- 11 スペースキー
- 12 【変換】: 変換キー
- 13 【カタカナ / ひらがな / ローマ字】:
カタカナ / ひらがな / ローマ字キー
- 14 【】: アプリケーションキー
- 15 【BackSpace】: バックスペースキー
- 16 【Enter】: エンターキー
- 17 【PrintScreen/SysRq】:
プリントスクリーンキー / システムリクエストキー
- 18 【ScrollLock】: スクロールロックキー
- 19 【Pause/Break】: ポーズ / ブレークキー
- 20 【Insert】: インサートキー
- 21 【Home】: ホームキー
- 22 【PageUp】: ページアップキー
- 23 【Delete】: デリートキー
- 24 【End】: エンドキー
- 25 【PageDown】: ページダウンキー
- 26 【↑】【↓】【←】【→】: カーソルキー
- 27 【NumLock】: ニューメリックロックキー



- 28 ニューメリックロックキーランプ
- 29 キャップスロックキーランプ
- 30 スクロールロックキーランプ
- 31 CD/DVD 制御ボタン
- 32 ワンタッチスタートボタン
- 33 【スリープ】: スリープボタン
- 34 ガイドラベル
- 35 メール着信ランプ

✓チェック!!

CD/DVD 制御ボタン、ワンタッチスタートボタン、メール着信ランプについての詳しい説明は、p.108の「ワンタッチスタートボタン」をご覧ください。

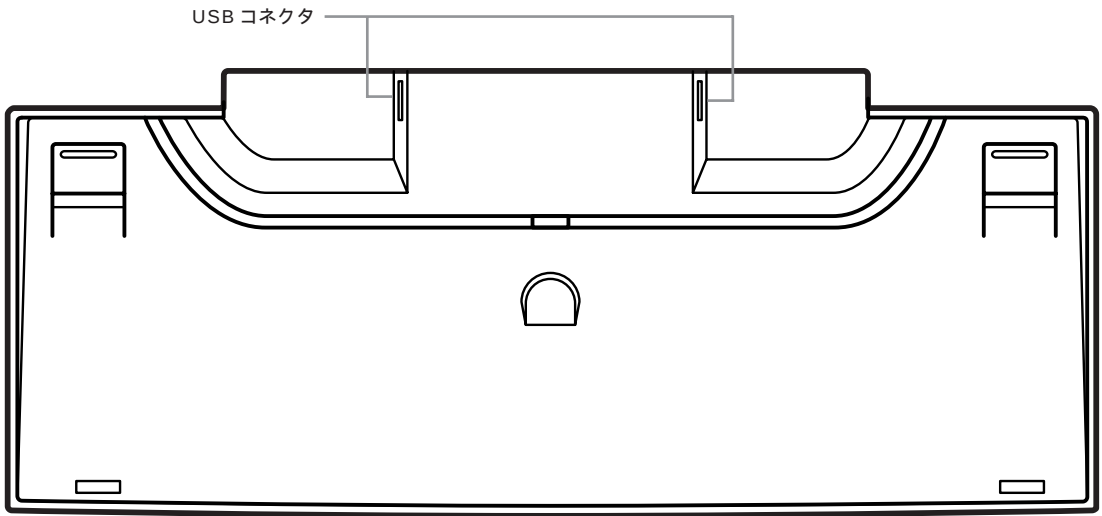
キーボード裏面

USB コネクタ

USB 対応機器を接続するコネクタ。
このコネクタには、添付のマウスをはじめとする USB 対応機器が接続できます。

✓チェック!!

この USB コネクタには、限られた機器しか接続できません。接続できる機器については、「PART3 USB 対応機器を使う」(p.33)をご覧ください、確認してください。



キーのロック

【NumLock】と【CapsLock】がロックされているかいないかでキーの機能は異なります。
ロック状態はそれぞれのキーを押すたびに切り替わります。
それぞれのキーがロックされているときにはキーボード右上のランプが点灯します。

	ロックされているとき	ロックされていないとき
【NumLock】	テンキーから数字が入力できます。	テンキーの数字の下に表示されている機能が使えます。
【CapsLock】	アルファベットが表示されているキーを押すと大文字が入力されます。	アルファベットが表示されているキーを押すと小文字が入力されます。

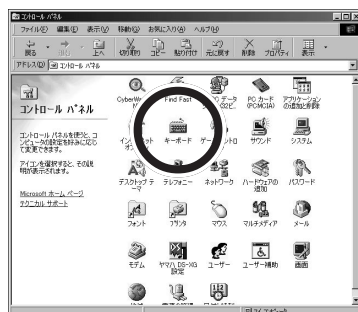
アプリケーションとWindows キーについて

アプリケーションキーとWindows キーはWindows 98 で使用できるキーです。アプリケーションによってどのように利用するかは異なりますが、標準で次のような機能が割り当てられています。

- アプリケーションキー ()
アプリケーションキーを押すと、マウスで右クリックしたときと同じ状態になります。
 - Windows キー ()
Windows キーを押すと、「スタート」メニューが表示されます。
- Windows キーを押しながら次のキーを押すと、次のような機能を利用することができます。
- 【  】 + 【 R 】 「ファイル名を指定して実行」ウィンドウを表示する
 - 【  】 + 【 M 】 現在起動しているウィンドウをすべてアイコン化する
 - 【 Shift 】 + 【  】 + 【 M 】 【  】 + 【 M 】 でアイコン化しているウィンドウを元に戻す
 - 【  】 + 【 F1 】 Windows のヘルプを起動する
 - 【  】 + 【 F 】 ファイルやフォルダを検索するウィンドウを表示する
 - 【 Ctrl 】 + 【  】 + 【 F 】 コンピュータを検索するウィンドウを表示する
 - 【  】 + 【 Tab 】 タスクバーに表示されているボタンを順番に切り替える

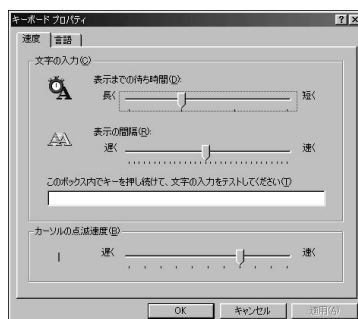
「キーボード プロパティ」ウィンドウでの設定

「コントロールパネル」を開く。
(「スタート」ボタン→「設定」→「コントロールパネル」)



この画面は機種によって異なる場合があります。

「キーボード」をダブルクリック。



「キーボード プロパティ」ウィンドウには、ここで表示されている「速度」タブのウィンドウの他に「言語」タブのウィンドウがあります。タブをクリックすると、そのタブに対応するウィンドウを表示できます。各ウィンドウで行える設定は次の通りです。

「速度」タブのウィンドウ

■ 文字の入力

「表示までの待ち時間」では、キーを押し続けたときに、入力の繰り返しが始まるまでの時間を調整します。「表示の間隔」では、キーを押し続けたときに、文字の入力が繰り返される間隔を調整します。調整後に、ボックスでテストすることができます。例えば「A」のキーを押し続けて感じをつかむことができます。

購入時の状態では、「表示の間隔」は遅めに設定されています。

- カーソルの点滅速度
カーソルの点滅する間隔を調整します。

「言語」タブのウィンドウ



チェック!

画面は一太郎モデルの場合です。Office 2000 モデルの場合は、「Microsoft IME 2000」が表示されます。

- インストールされている言語とレイアウト

言語(日本語入力システム)の選択

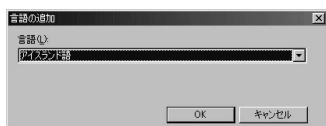
よく使う日本語入力システムを一覧から選んで(反転表示にする)「既定値として設定」をクリックすると、その日本語入力システムが「既定の言語」の欄に表示されます。

通常使う日本語入力システムを変更する場合に設定してください。

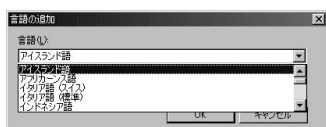
言語の追加

新たに言語を追加することができます。

「追加」をクリックすると、「言語の追加」ウィンドウが表示されます。



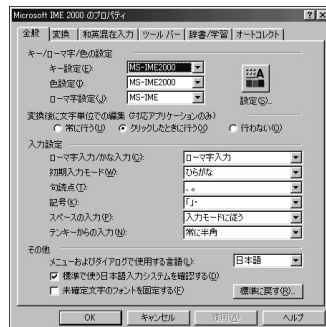
▼をクリックして、追加したい言語を選びます。



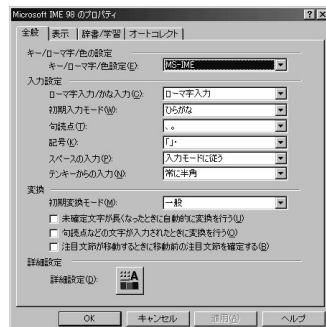
キーボードレイアウトの設定

日本語入力システムを一覧から選んで(反転表示にする)「プロパティ」をクリックすると、日本語入力システムの環境を設定するウィンドウが表示されます。

「Microsoft IME 2000」の場合



「Microsoft IME 98」の場合



「ATOK13」の場合



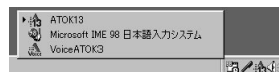
ローマ字/かな入力、入力モード/方式、句読点の種類などを設定できます。

- 言語の切り替え

言語の切り替えを行うキーの組み合わせを選びます。

- タスクバー上に状態を表示

複数のキーボード言語や日本語入力システムがインストールされているときに、多国語インジケータをタスクバーに表示します。このインジケータをクリックすると、言語や日本語入力システムを簡単に切り替えることができるメニューが表示されます。



(画面は一太郎モデルの場合です。)

PC-9800 シリーズの キーボードとのキーの違い

PC-9800シリーズに添付されているキーボードとこのパソコンのキーボードとのキーの違いは以下のとおりです。

PC-9800シリーズのキーボード	本機のキーボード	備 考
【リターン】	【Enter】	
【GRPH】	【Alt】	
【BS】	【BackSpace】	
【STOP】	【Pause】	
【CAPS】	【Shift】+【CapsLock】	大文字
【ROLL UP】	【PageDown】	
【ROLL DOWN】	【PageUp】	
【CTRL】	【Ctrl】	
【DEL】	【Delete】	
【HELP】	【End】	
【ESC】	【Esc】	
【f・1】-【f・10】	【F1】-【F10】	
【vf・1】-【vf・2】	【F11】-【F12】	
【HOME CLR】	【Home】	
【INS】	【Insert】	
【SHIFT】	【Shift】	
【COPY】	【PrintScreen】	
【TAB】	【Tab】	
【XFER】	【変換】	
【NFER】	【無変換】	
【CTRL】+【XFER】	【Alt】+【半角/全角】	日本語入力
【かな】	【Ctrl】+【英数】	

ワンタッチスタート ボタン

このパソコンには、ボタンを押すだけでアプリケーションを起動できる機能があります。

各ボタンの名前と役割

ボタンを押すだけでアプリケーションを起動することができるボタンを「ワンタッチスタートボタン」といいます。「ワンタッチスタートボタン」はキーボードの上部に並んでいます。また、「ワンタッチスタートボタン」の左側には「CD/DVD 制御ボタン」、右側には【スリープ】ボタンがあります。

1. CD/DVD 制御ボタン

音楽CDやフォトCD、カラオケCD、ビデオCD、DVD VIDEO ディスクなどの再生をコントロールしたり音量の調節ができます。

各ボタンの役割は次の通りです。

【 ■ 】: 停止	再生をコントロールできます。
【 ◀▶ 】: 前のトラック / 巻き戻し	
【 ▶▶ 】: 再生 / 一時停止	
【 ▶▶▶ 】: 次のトラック / 早送り	音量を調節できます。
【 ▼ 】: ボリュームダウン	
【 ▲ 】: ボリュームアップ	

2. ワンタッチスタートボタン

【メール】ボタン

このボタンを押すと、「Outlook Express」が起動します(ご購入時の状態では、BIGLOBEの入会案内が表示されます)。

【インターネット】ボタン

このボタンを押すとインターネットエクスプローラが起動します(ご購入時の状態では、「インターネット無料体験」がスタートします)。

【サポートセンタ】ボタン

このボタンを押すと、「サポートセンタ」が起動します。

【ランチ-NX】ボタン

このボタンを押すと、「ランチ-NX」が起動します。起動している状態で押すと最小化されます。

【ソフト終了】ボタン

このボタンを押すと、アクティブになっているソフトが終了します。

(TVモデルでは【ビットキャストブラウザ】ボタン、ビットキャストブラウザが起動します)

3. 【スリープ】ボタン

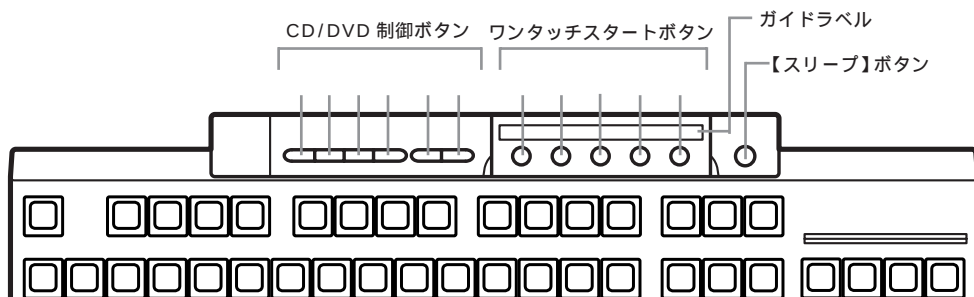
パソコン本体をスタンバイ状態にする、またはスタンバイ状態から復帰させることができます。

4. ガイドラベル

ワンタッチスタートボタンにどんなアプリケーションが割り当てられているかを示すラベルです。アプリケーションの割り当てを変えたときなどは新しいラベルを作ることもできます。使い方は、「ワンタッチスタートボタンの設定」ユーティリティのヘルプをご覧ください。

✓チェック!

- ・CD-ROM モデルでは、DVD VIDEO ディスクは再生できません。
- ・MS-DOSモードで起動した場合やWindows 98のSafeモードなど、Windows 98のキーボードドライバが動作しない状態では、CD/DVD 制御ボタン、ワンタッチスタートボタン、【スリープ】ボタンの機能は使えません。
- ・【インターネット】ボタンと【メール】ボタンは、「BIGLOBE サインアップナビ」または「BIGLOBE 電話で入会ナビ」を使ってBIGLOBEに入会したり



ワンタッチスタートボタンの設定をすると、それぞれインターネットエクスプローラとOutlook Expressが起動するようになります。

それ以外の方法でプロバイダに入会した場合に【インターネット】ボタンと【メール】ボタンでインターネットエクスプローラとOutlook Expressを起動させるには、設定が必要です。

ワンタッチスタートボタンの設定 -  「サポートセンタ」- 「パソコンを使いこなそう」- 「添付ソフトの使い方」- 「ワンタッチスタートボタンの設定」

ハードディスク

ハードディスクの取り扱いかたとドライブコンバータの使いかたについて説明します。



ハードディスクを増設する→「PART8 ハードディスクを増設する」(p.75)

概要

ハードディスクは、外部記憶装置のひとつです。正確に表現すれば、実際に磁気を利用してデータを記録する円盤(ディスク)と、ディスクを高速に回転させて、データの読み書きをするヘッドやアーム、モーターなどからなる装置全体を指し、ハードディスク装置といえます。ディスクと磁気ヘッドなどの装置は、密封された容器に収められているために、他の外部記憶装置のメディアのように、記憶媒体(ディスク)自体を単独で取り出すことはできません。しかし、ディスクを高速で回転できるために、フロッピーディスクや光磁気ディスクなどに比べて、読み書きするスピードは格段に速くなります。

ハードディスクは外部記憶装置のひとつには違いありませんが、CPUやメモリとともに、パソコンの中心的存在です。オペレーティングシステム(OS)やアプリケーションソフトなどは、すべてハードディスクに格納されます。ハードディスクのドライブ名は通常は「C」です。

取り扱いの注意

ハードディスクは、たいへん精密な機械です。取り扱いには、次のことに十分注意してください。

- ・電源が入っているときは、本体に振動や衝撃を加えたり、持ち運んだりしないでください。
- ・電源を切って本体を運ぶときでも、できるだけ慎重に扱ってください。
- ・電源を切るときは、『まずこれ! 接続と準備』で説明されている手順に従ってください。Windows 98以外のOSを使用している場合、キーボードの【Esc】を押してから電源スイッチを押してください。

- ・温度・湿度条件を守ってください。
温度 10 ~ 35、湿度 20% ~ 80%(ただし、結露しないこと)
- ・ゴミやホコリの多い場所での使用・保管は避けてください。

バックアップをこまめにとる

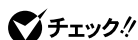
本機に内蔵されているハードディスクは、非常に精密に作られています。毎分数千回転するディスク面と情報を読み取る磁気ヘッドの間は、わずかしき空いていません。このため、データを読み書きしていることを示すハードディスクアクセスランプの点灯中には、少しの衝撃を与えても故障の原因となることがあります。ハードディスクが故障すると、大切なデータが一瞬にして消滅してしまい、復帰できない可能性があります。二度と同じものを作れないような大切なデータは、バックアップをこまめにとることをおすすめします。



バックアップ→「サポートセンタ」「パソコンを使いこなそう」「添付ソフトの使い方」「バックアップ-NX」

ドライブコンバータ(FAT32)

「ドライブコンバータ(FAT32)」を使うと、ハードディスクのファイルシステムをFAT32に変換することができます。



- ・本機の購入時の内蔵ハードディスクは、FAT32でフォーマットされています。
- ・現在のファイルシステムの状態は、次の手順で確認できます。

デスクトップの「マイコンピュータ」をダブルクリック。

情報を表示したいドライブのアイコンを右クリックし、「プロパティ」をクリック。
FAT16の場合は「ファイルシステム:」に「FAT」と表示され、FAT32の場合は「ファイルシステム:」に「FAT32」と表示されます。

■ FAT32 について

FAT(File Allocation Table)16 ファイルシステム (以降、FAT16)は、MS-DOSや従来のWindowsで使用されている基本的なファイルシステムです。

FAT32 ファイルシステム(以降、FAT32)はFAT16を拡張したファイルシステムで、次のような特長があります。

- ・従来のFAT16では、2Gバイトの容量を超える領域を扱えませんでした。FAT32では理論上2T(テラ)バイト(2,047Gバイト)の容量まで扱えます。
- ・クラスタサイズがFAT16よりも小さいため、ハードディスクをより効率よく使用できます。

▼チェック!!

- ・FAT32に対応していないアプリケーションなどは、FAT32のハードディスクでは、正しく動作しない場合があります。
- ・スキャンディスク、バックアップ、およびデフラグなど、「システムツール」グループにあるディスク管理ツールはFAT32に対応しています。ただし、「ドライブスペース」ではFAT32のドライブを圧縮できません。
- ・FAT32は、本機にインストールされているWindows 98でのみ使用できます。Windows NT 4.0では、FAT32のドライブに保存されたデータやファイルにアクセスできません。
- ・Windows NT 4.0を利用する場合は、カスタム再セットアップを利用してフォーマットしてください。

■ ドライブコンバータ(FAT32)の起動

「ドライブコンバータ(FAT32)」を起動する。
(「スタート」ボタン→「プログラム」→「アクセサリ」→「システムツール」→「ドライブコンバータ(FAT32)」)

「次へ」をクリック。

変換するドライブを選んで、「次へ」をクリック。

「OK」をクリック。

FAT32に対応していないプログラムの検出が始まります。

検出が終わると次のウィンドウが表示されます。



▼チェック!!

このウィンドウで、FAT32に対応していないプログラムが検出された場合は、「キャンセル」をクリックして、「ドライブコンバータ(FAT32)」を終了させてください。検出されたプログラムを使用する場合は、FAT32には変換できません。

「次へ」をクリック。

FAT16に戻す可能性がある場合には、「バックアップの作成」をクリックして、バックアップを作成してください。

「次へ」をクリック。

「次へ」をクリック。

変換が始まります。変換には、時間がかかります。

変換が終わると「変換が完了しました」のメッセージが表示されます。

「完了」をクリック。

フロッピーディスク

使用できるフロッピーディスクの種類、バックアップのとりかた、Windows 起動ディスクの作成方法などについて説明します。

使用できるフロッピーディスクの種類

本機では、以下のようなフロッピーディスクを使用できます。

タイプ	フォーマット(容量) ¹			
	1.44 MB	1.2 MB	720 KB	640 KB
2HD	○	²	×	×
2DD	×	×	○	×

1: MS-DOSまたはWindowsでフォーマットされたものが使えます。

2: 読み書きはできますが、1.2Mバイトでのフォーマットはできません。また、ディスクのコピーもできません。

フロッピーディスクのバックアップ

フロッピーディスクは非常にデリケートです。ホコリが入ってしまったり、折れてしまったりなど、何らかの事故によって、保存しているデータが壊れてしまうことがあります。万が一に備えて、大切なデータは、定期的にバックアップをとることをおすすめします。

バックアップをとりたいフロッピーディスク(コピー元)をフロッピーディスクドライブにセットする。

✓チェック!!

・誤って、データを消さないように、コピー元のフロッピーディスクには、あらかじめライトプロテクトしておくことをおすすめします。

・コピー先のフロッピーディスクは、コピー元のフロッピーディスクと同じ容量でフォーマットされたフロッピーディスクを使用してください(これは、「MS-DOS プロンプト」の DISKCOPY コマンドでも同じです)。

📖参照

ライトプロテクトについて → 「サポートセンタ」
「困ったときのQ&A」 「トラブル解決Q&A」 「フロッピーディスク」

「マイコンピュータ」をダブルクリック。

「3.5 インチFD」をクリック。



「ファイル」をクリック。



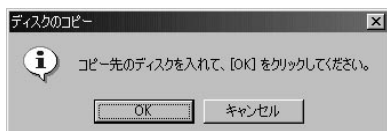
「ディスクのコピー」をクリック。



「開始」をクリック。



しばらくして次の画面が表示されます。



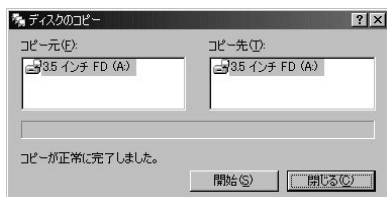
コピー元のフロッピーディスクをフロッピーディスクドライブから取り出して、コピー先のフロッピーディスクをセットする。

「OK」をクリック。

ディスクのコピーが再開します。



コピーが終了すると次の画面が表示されます。



「閉じる」をクリック。

ディスクのコピーが終了し、バックアップが作成されました。

Windows 98 起動ディスク

ハードディスクやWindows 98のシステムに大きな障害を受けると、本機の電源を入れてもWindows 98が起動しなくなってしまうことがあります。このような場合には、「Windows 98 起動ディスク」を使うと、フロッピーディスクからWindows 98のシステムを起動させることができます。万一、システムが起動しなくなったときのために、Windows 起動ディスクを作成することをおすすめします。

Windows 98 起動ディスクの作成

フロッピーディスクを2枚用意して、「Windows 98 起動ディスク 1」「Windows 98 起動ディスク 2」と書いたラベルを貼っておいてください。未フォーマットのものでかまいません。

コントロールパネルを開く。

(「スタート」ボタン→「設定」→「コントロールパネル」)



この画面は機種によって異なる場合があります。

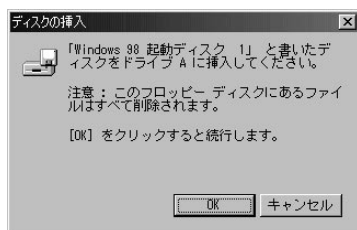
「アプリケーションの追加と削除」をダブルクリック。



「起動ディスク」をクリック。



「ディスクの作成」をクリック。
起動ディスク作成の準備が始まり、すぐに次のメッセージが表示されます。



「Windows 98 起動ディスク 1」をフロッピーディスクドライブにセットして、「OK」をクリック。
起動ディスクの作成が始まります。
しばらくすると、次のメッセージが表示されます。



「Windows 98 起動ディスク 2」をセットして、「OK」をクリック。
再び、起動ディスクの作成が始まります。

終了すると、「アプリケーションの追加と削除 プロパティ」ウィンドウに戻ります。

「OK」をクリック。
Windows 98 起動ディスクの作成が完了しました。

Windows 98 起動ディスクから本機を起動する

作成した「Windows 98 起動ディスク」を使って、起動します。

本機の電源を入れる。

すぐにフロッピーディスクドライブに「Windows 98 起動ディスク 1」をセットする。
「Microsoft Windows 98 Startup Menu」が表示されます。

CD-ROM ドライブを使う場合は「1」を、使わない場合は「2」を選んで、【Enter】を押す。
しばらくすると、「キーボードのタイプを判定します」と表示されます。

【半角 / 全角】を押す。
「106 キーボードが選択されました」と表示されます。
しばらくすると、「Windows 98 起動ディスク 2 を挿入してください。続けるにはどれかキーを押してください」と表示されます。

フロッピーディスクドライブから、「Windows 98 起動ディスク 1」を取り出し、「Windows 98 起動ディスク 2」をセットして、何かキー（【Enter】など）を押す。
しばらくするとコマンドプロンプト（「A:¥>_」）が表示されます。

これで、Windows 98 起動ディスクからの起動が完了しました。

再びハードディスクから起動したい場合は、フロッピーディスクドライブから Windows 98 起動ディスクを取り出して、電源を入れなおしてください。

Windows 98 起動ディスクのコマンドツール

Windows 98 起動ディスクで起動した場合にこれらのコマンドを使用できます。

edit	テキストファイルを編集します。
fdisk	ハードディスクの領域を確保します。
format	ディスクを初期化します。
scandisk	ディスクのエラーを検査し、修復します。
sys	起動用のシステムをドライブへ転送します。

Windows 98 のシステムに障害がある場合は、キーボードから「scandisk」と入力してハードディスクのエラーを修復してください。

ディスプレイ

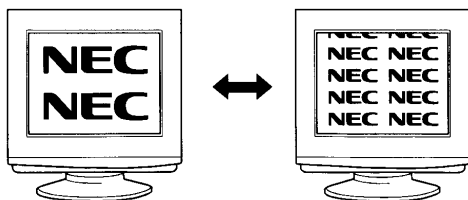
本機には、ウィンドウアクセラレータ機能が標準で搭載されています。お使いの用途に応じた解像度や、表示色に切り替えて使用できます。

概要

解像度

ディスプレイでは文字やグラフィックを、小さな点（ドット）の集まりで画面に表示しています。ディスプレイの解像度とは、ディスプレイの画面上での文字やグラフィックを表現するときの、緻密さの度合いのことです。例えば、1,024 × 768 ドットというのは、ディスプレイの横（水平）方向に1,024個のドット（点）縦（垂直）方向に768個のドットで表示できることを示しています。ドット数が増えるほど、精細な表示ができるようになります。

一度に表示できるドット数を増やすことを「高解像度にする」と表現します。高解像度になると、緻密な画像を表現できます。また、同じアプリケーションでも、高解像度時には、より広い範囲を表示することができます。ただし、解像度が高くなるにつれて、画面に表示される文字は小さくなっていきます。画面の文字が読みにくくなるときには、解像度を下げるようにしてください。



表示色

ディスプレイの個々のドットを、何種類の色で表現できるかを示す尺度を表示色といいます。本機では通常、次の表示色が表示できます。

- ・ 16,777,216 色（1,677 万色）*
- ・ 65,536 色（6 万 5 千色）
- ・ 256 色
- ・ 16 色

* 15 型（広視野角）液晶ディスプレイ以外の液晶ディスプレイの場合は、ディザリングにより 1,611 万色となります。

また、6 万 5 千色で表示することを、「High Color（ハイカラー）表示」、1,677 万色で表示することを「True Color（トゥルーカラー）表示」あるいは「Full Color（フルカラー）表示」と呼ぶこともあります。

走査周波数

CRTディスプレイでは、電子ビームを管面の蛍光体に当てて発光させ、文字やグラフィックを表示しています。電子ビームが蛍光体に当たると、発光するのは一瞬ですが、短時間（例えば 1 秒間）に何度も同じ点が発光すると、残像効果により文字あるいはグラフィックとして認識できるのです。

このとき、電子ビームが画面の左端から右端へ移動することを水平走査、画面の上端から下端へ移動することを垂直走査といい、1 秒間に走査する回数をそれぞれ水平走査周波数、垂直走査周波数と呼びます。

液晶ディスプレイには、液晶の画素 1 つ 1 つに電極があります。液晶ディスプレイは、この画素に電圧を加えると、光の反射率や透過率が変化する性質を利用して文字やグラフィックを表示しています。

画素 1 つ 1 つの電極に順次信号を与えることで、電極のスイッチをしていき、これによって走査をしています。

本機にセットのディスプレイを使う場合

本機とセットのディスプレイは、標準で次の解像度と表示色、走査周波数を表示できます。

:表示可 ×:表示不可

解像度 (ドット)	表示色	垂直走査 周波数 (Hz)	15型 CRTディスプレイ (DV15A3)	17型 CRTディスプレイ (DV17C4 DV17D1)	液晶 ディスプレイ
640 × 480	16色	60	○	○	○ ^{*3}
	256色	75	○	○	×
	High Color ^{*1} True Color ^{*2}	85	○	○	×
800 × 600	256色	60	○	○	○ ^{*3}
	High Color ^{*1}	75	○	○	×
	True Color ^{*2}	85	○	○	×
1,024 × 768	256色	60	○	○	○
	High Color ^{*1}	75	○	○	×
	True Color ^{*2}	85	○	○	×
1,280 × 1,024	256色	60	×	○	×
	High Color ^{*1} True Color ^{*2}	75	×	○ ^{*4}	×

* 1: High Colorは6万5千色です。

* 2: True Colorは、1,677万色です。15型(広視野角)液晶ディスプレイ以外の液晶ディスプレイの場合はディザリングにより1,611万色になります。

* 3: 拡大表示となります。拡大表示では、文字や線の太さが不均一になったりぼやけた感じになることがあります。

* 4: DV17D1でのみ表示可能。

上記以外の解像度、走査周波数ではディスプレイによっては、特定の表示ができなかったり、ディスプレイ側の微調整が必要な場合もありますので、上記の解像度の中から選択することをお勧めします。

リフレッシュレートの切り替えについての注意

リフレッシュレートの既定値は、本体とディスプレイの組み合わせで最も適した値に設定されています。この設定は「画面 プロパティ」で変更できる場合がありますが、ディスプレイがサポートしていないリフレッシュレートを選択すると表示が乱れたり、画面が正しく表示されない場合があります。変更するときは注意してください。

別売のディスプレイを使う場合

本機には、別売のディスプレイを接続することもできます。本機の表示機能は次の通りです。

解像度

640 × 480 ドット
800 × 600 ドット
1,024 × 768 ドット *
1,280 × 1,024 ドット

*: 購入時の設定

表示色数

16色
256色
65,536色 *
1,677万色

表示できる色数は、各解像度によって異なります。

*: 購入時の設定

走査周波数

水平走査周波数(31.5 ~ 80.0KHz)
垂直走査周波数(60 ~ 85Hz)

使用できる周波数は、各解像度、表示色数によって異なります。別売のディスプレイを使用する場合は、左の表を参考に対応した周波数を選んでください。

✓チェック!!

別売のディスプレイを使用する場合は、上記の条件を満たしていることを確認してください。

ディスプレイによっては、特定の表示ができなかったり、ディスプレイ側の微調整が必要な場合もあります。また、次の別売ディスプレイは使用できません。

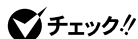
- ・PC-KM212
- ・PC-KM174

✓チェック!!

液晶ディスプレイセットモデルの場合、液晶ディスプレイのほかに別売のディスプレイをアナログRGBコネクタに接続できますが、「マルチモニタサポート機能」は使えません。

解像度と表示色の変更

必要に応じて解像度や表示色を変更できます。



「画面 プロパティ」の画面は機種によって異なりますが、基本的な操作は同じです。

解像度と表示色を変更する

コントロールパネルを開く。
(「スタート」ボタン→「設定」→「コントロールパネル」または「ランチ-NX」→「ユーティリティ」→「画面の設定」の後、手順へ進む)



画面は機種によって異なる場合があります。

「画面」をダブルクリック。



画面は機種によって異なる場合があります。

「設定」タブをクリック。



解像度を変更する。

「画面の領域」のつまみを「大」の方向にドラッグしてずらすと、高解像度になります。低解像度に設定する場合は、つまみを「小」の方向へドラッグしてずらしします。設定できる解像度は、本体やディスプレイの表示機能によって変わります。

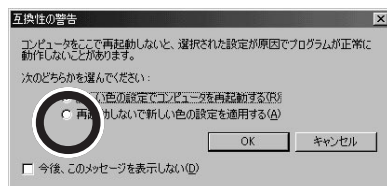
「色」の▼をクリック。



表示色を選ぶ。

(例「True Color(24ビット)」を選ぶ)

「OK」をクリック。



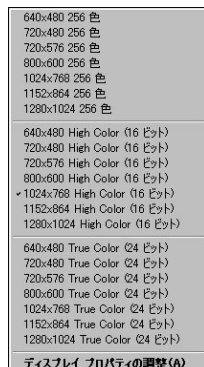
「新しい色の設定でコンピュータを再起動する」を選んで「OK」をクリック。

本機が再起動し、設定が変更されます。

解像度と表示色を変更する (簡易解像度切り替え機能)

解像度と表示色は、タスクバーから簡単に切り替えることができます。

タスクバー右隅のをクリック。



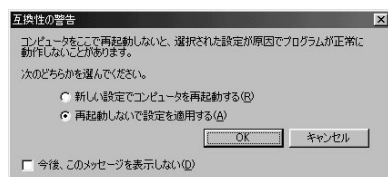
画面は機種によって異なる場合があります。

にマウスポインタを当てると、現在の設定を表示できます。



変更したい解像度と表示色の組み合わせを選んでクリック。

次のメッセージが表示された場合は、手順 、 を行ってください。



「再起動しないで設定を適用する」を選んで「OK」をクリック。

設定が変更されます。

「スタート」ボタン→「Windowsの終了」→「再起動する」を選んで、「OK」をクリック。

本機が再起動し、設定が適用されます。

解像度と表示色を変更するときの注意

- 表示色数を変更した後に、本機を再起動しなかった場合、画面が正しく表示されないことがあります。また、アプリケーションソフトによっては、色が正常に表示されないことがあります。
- その場合は、Windowsを再起動してください。

- 解像度や表示色数を変更した場合には、画面位置がずれることがあります。そのときは、ディスプレイの画面位置を調整してください。画面位置の調整方法は、ディスプレイのマニュアルをご覧ください。

ディスプレイの 省電力機能について

本機に、省電力機能を持つディスプレイを接続している場合、ディスプレイの省電力機能を使うことができます。ディスプレイセットモデルのディスプレイは、省電力機能に対応しています。

ディスプレイの省電力機能は、Windows上で設定します。コントロールパネルで設定した時間内に、まったく操作をしなかった場合、ディスプレイの画面を暗くして、消費電力を節約します。

ディスプレイの省電力機能を使う

「コントロールパネル」を開く。

(「スタート」ボタン→「設定」→「コントロールパネル」)



画面は機種によって異なる場合があります。

「電源の管理」をダブルクリック。



このウィンドウで、次の設定を行います。

- ・モニタの電源を切る

時間を設定すると、設定時間経過後にディスプレイの省電力機能が働き、画面を暗くします(セットのディスプレイの場合、ディスプレイの電源ランプがオレンジ色に点灯します)。再度、ディスプレイの画面を表示させる場合は、キーボードのキーを押すか、マウスを軽く動かしてください。

購入時の状態では「なし」に設定されています。

✓チェック!

システムスタンバイを設定した場合も、ディスプレイの画面は暗くなります。

設定が終了したら、「OK」をクリック。
ディスプレイ省電力機能が設定されました。

✓チェック!

ディスプレイ省電力機能が働くと、画面が消えますが、本体の電源が切れている状態と間違わないようにしてください。

別売のディスプレイでディスプレイの省電力機能を使用する場合の注意

別売のディスプレイで、ディスプレイの省電力機能を使って画面が暗くなった場合、再度画面を表示させる方法については、ディスプレイのマニュアルをご覧ください。

ディスプレイに合わせて設定する

別売のディスプレイを使用する場合は、ディスプレイに合わせて、本体の設定を変更する必要があります。本体が、ディスプレイに合わせて正しく設定されていないと、ディスプレイに何も表示されないことがあります。また、設定できるはずの解像度が設定できないこともあります。

別売のディスプレイを使用するときの注意

プラグ&プレイに対応していないディスプレイの場合は、必ず、次の手順を行ってください。
プラグ&プレイに対応しているディスプレイの場合は、起動時にモニタを検出したことを示すメッセージが表示されます。このメッセージで、ディスプレイが検出されたことが確認できた場合は、この手順は必要ありません。

詳しくは、ディスプレイに添付されているマニュアルをご覧ください。

ただし、プラグ&プレイに対応しているディスプレイであっても、そのディスプレイで表示できるはずの高解像度が、この項の「解像度と表示色の変更」の手順で設定できない場合があります。その場合は、「サポートセンタ」の「困ったときのQ&A」-「トラブル解決Q&A」-「画面」をご覧くださいの上、ディスプレイの設定をやり直してください。

ディスプレイが本体に正しく接続されていることを確認する。

Windows 起動後に、「コントロールパネル」を開く。
(「スタート」ボタン→「設定」→「コントロールパネル」または「ランチ-NX」→「ユーティリティ」→「画面の設定」の後、手順に進む)



この画面は機種によって異なる場合があります。

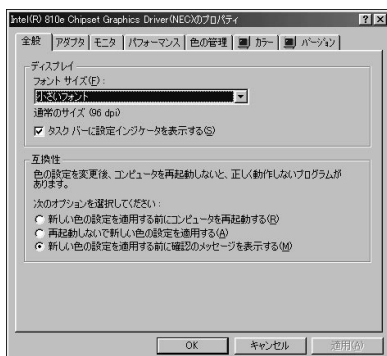
「画面」をダブルクリック。



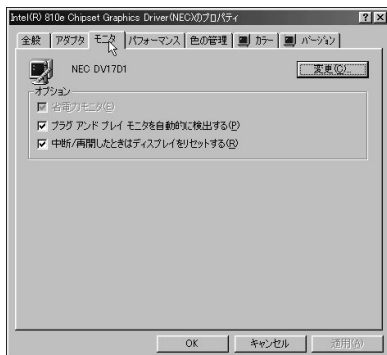
「設定」タブをクリック。



「詳細」をクリック。



「モニタ」タブをクリック。



画面は、機種により異なる場合があります。

「変更」をクリック。



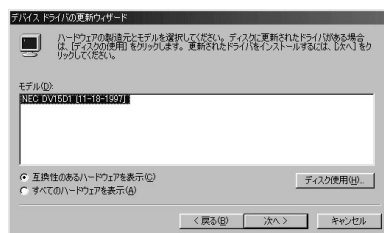
「次へ」をクリック。



「特定の場所にあるすべてのドライバの一覧を作成し、インストールするドライバを選択する」をクリック。



「次へ」をクリック。



「すべてのハードウェアを表示」をクリック。



ディスプレイのドライバファイルが見つかった場合は、「このデバイス用に選択したドライバをインストールする準備ができました。」と表示され、ドライバのある場所が表示されます。

「製造元」と「モデル」を一覧から選ぶ。
ディスプレイ一覧に接続したディスプレイの種類が表示されない場合は、「製造元」の欄で「標準モニタの種類」を選び、「モデル」の欄で接続したディスプレイがサポートしている解像度を選んでください。



「次へ」をクリック。



「次へ」をクリック。

ディスクを用意するようなメッセージが表示された場合は、メッセージに従って操作してください。



「完了」をクリック。

「モニタ」タブのウィンドウに戻ります。

「閉じる」をクリック。

「OK」をクリック。

Windowsを再起動するようというメッセージが表示された場合は、ほかのアプリケーションが終了していることを確認して、「はい」をクリックしてください。

省電力機能 (スタンバイ)

本機を使っていないときに、電源を切らなくても電力の消費を節約できる省電力機能(スタンバイ)について説明します。

概要

本機を使っていないときには、本機の電源を切っておくと、電力の節約になります。しかし、電源を切るには、作業中の状態を終了(アプリケーションを終了したり)して、Windowsを終了する必要がありますので、少しの間だけ本機を使わない場合には、つい電源を入れっぱなしにしがちです。

しかし、本機には、電源が入ったままでも電力消費を抑える機能があります。これを省電力機能(スタンバイ)といいます。この機能を使うと、本体は電源が入ったままでも、ファンを止めたり、ディスプレイの画面を暗くしたり、ハードディスクの電源を切ったりして、電力消費を抑えることができます。

このようにして電力消費を抑えている状態を「スタンバイ状態」と呼びます。スタンバイ状態のときは、作業していた内容は保持(記憶)されているので、もとの状態に復帰させると、すぐに作業が再開できます。

✓チェック!

- ・プリンタやスピーカなどの周辺機器や、通信回線などは自動的に切れないので、注意してください。
- ・ファンは使用環境、温度などによっては、スタンバイ状態になっていても、回転することがあります。
- ・アプリケーションによっては、省電力機能のことを「サスペンド」という呼び方をしている場合があります。これは、スタンバイ状態にすることと同じ意味ですので、サスペンドをスタンバイに読みかえてください。また、アプリケーションによっては、スタンバイ状態から、もとの状態に復帰することを「レジューム」と呼んでいる場合があります。

電源の状態

本機の電源の状態について説明します。

- ・電源が入っている状態
通常、本機を使っている状態です。
- ・電源が切れている状態
Windowsを終了したり、電源スイッチを押したりして、本機の使用を終了している状態です。
- ・スタンバイ状態
さまざまな省電力機能(ファンを止める、ディスプレイの表示を消す、ハードディスクの電源を切るなど)により、消費電力が抑えられている状態です。本体の電源は入ったままですが、消費電力は、節約されています。
スタンバイ状態にする前の状態へ、すぐに復帰することができます。

■ スタンバイ状態での本機

スタンバイ状態になると、本機は次のようになります。

	本体	ディスプレイ	
	電源ランプ	表示	電源ランプ
電源ON	緑色に点灯	表示される	緑色に点灯
スタンバイ	オレンジ色に点灯	表示されない	オレンジ色に点灯

別売のディスプレイの場合は、異なることがあります。

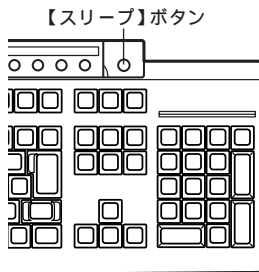
スタンバイ状態にする

スタンバイ状態にするには、次の4つの方法があります。

- ・キーボードの【スリープ】ボタンを押してスタンバイ状態にする
- ・一定時間後に自動的にスタンバイ状態にする
- ・Windows 98 終了時にスタンバイ状態にする
- ・タイマー機能で指定した時間に自動的にスタンバイ状態にする

キーボードの【スリープ】ボタンを使ってスタンバイ状態にする

キーボードの【スリープ】ボタンを押す。
スタンバイ状態になります。



一定時間後に自動的にスタンバイ状態にする

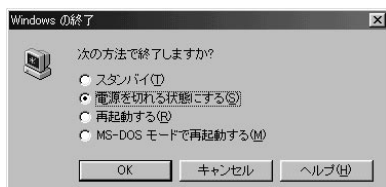
「コントロールパネル」の「電源の管理」で時間を設定しておく、マウスやキーボードからの入力およびハードディスクへのアクセスがなく、一定の時間が経つと、自動的にスタンバイ状態になります。購入時には、約 20 分間で自動的にスタンバイ状態になるように設定されています。

設定についてはこの項の「電源の管理のプロパティで設定する」をご覧ください。

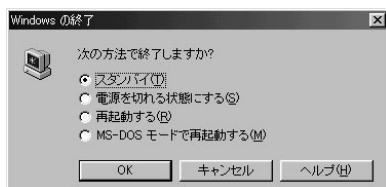
Windows 98 終了時にスタンバイ状態にする

「Windowsの終了」ウィンドウで、スタンバイ状態にする手順です。

「スタート」ボタン→「Windowsの終了」をクリック。
「Windowsの終了」ウィンドウが表示されます。



「スタンバイ」をクリック。



「OK」をクリック。
スタンバイ状態になります。

タイマー機能で指定した時間に自動的にスタンバイ状態にする

「Timer-NX」のタイマー機能を使うと、指定した時間にスタンバイ状態にすることができます。

参照

「Timer-NX」→ 「サポートセンタ」-「パソコンを使いこなそう」-「添付ソフトの使い方」-「Timer-NX」

スタンバイ状態から電源が入っている状態に復帰する

スタンバイ状態から電源が入っている状態に復帰するには、次の5つの方法があります。

- ・キーボードの【スリープ】ボタンを使って復帰する（電源ランプがオレンジ色に点灯しているとき）
- ・マウスやキーボードを操作して復帰する
- ・「Timer-NX」のタイマー機能で指定した時間に自動的に復帰する
- ・電話やFAXを受信したときに自動的に復帰する（リング機能）
- ・タスク スchedulerで指定した時間に自動的に復帰する

キーボードの【スリープ】ボタンを使って復帰する

本体の電源ランプがオレンジ色に点灯しているときに、キーボードの【スリープ】ボタンを押す。

マウスやキーボードを操作して復帰する

スタンバイ状態のときに、マウスを動かすか、キーボードのキーをどれか押す。

タイマー機能で指定した時間に自動的に復帰する

「Timer-NX」のタイマー機能を使って、指定した時刻に、自動的に電源が入っている状態に復帰します。

 参照

- ・タイマー機能 →  「サポートセンタ」-「添付ソフトの使い方」-「Timer-NX」

電話やFAXを受信したときに自動的に復帰する（リング機能）

電話やFAXを受信すると、自動的に電源が入っている状態に復帰します。

■ Timer-NX で設定

「Timer-NX」のリング機能を使用して、電話やFAXを受信したときに、自動的に電源が入っている状態に復帰します。

 参照

- 「Timer-NX」-  「サポートセンタ」-「パソコンを使いこなそう」-「添付ソフトの使い方」-「Timer-NX」

タスク スchedulerで指定した時間に自動的に復帰する

タスク スcheduler（「マイコンピュータ」-「タスク」）を使うと、指定した時刻に自動的に電源が入っている状態に復帰し、指定したアプリケーションを起動することができます。

 参照

タスク スchedulerの使い方 → Windows 98 のヘルプ

電源の管理のプロパティで設定する

「電源の管理 プロパティ」では、省電力の設定ができます。

「電源の管理 プロパティ」ウィンドウの表示方法

「コントロールパネル」を起動する。
(「スタート」ボタン→「設定」→「コントロールパネル」)



この画面は機種によって異なる場合があります。

「電源の管理」をダブルクリック。
「電源の管理 プロパティ」ウィンドウが表示されます。



「電源設定」タブのウィンドウでの設定

「電源設定」タブのウィンドウでは、スタンバイ状態になるまでの時間や、ディスプレイ、ハードディスクの電源を切るまでの時間を設定したり、電源設定を新しく作成して、保存することができます。

■ 電源の設定

次の設定ができます。設定が終了したら、「OK」をクリックしてください。

✓チェック!!

自動的にスタンバイ状態にならないようにするには、「システムスタンバイ」を「なし」に設定してください。

・システムスタンバイ

▼をクリックして、時間を設定します。

時間を設定すると、設定時間経過後に本機がスタンバイ状態になり、消費電力を節約することができます。

購入時の状態では「20 分後」に設定されています。

・モニタの電源を切る

▼をクリックして、時間を設定します。

時間を設定すると、設定時間経過後にディスプレイの省電力機能が働き、画面が暗くなります(セットのディスプレイの場合、ディスプレイの電源ランプがオレンジ色に点灯します)。

購入時の状態では「なし」に設定されています。

・ハードディスクの電源を切る

▼をクリックして、時間を設定します。

時間を設定すると、設定時間経過後にハードディスクのモータが停止します。

購入時の状態では「30 分後」に設定されています。

✓チェック!!

10分未満に設定した場合、設定した時間になっても、ハードディスクのモータが停止しないことがあります。

■ 設定するときの注意

ACPI モード時に、「システムスタンバイ」の設定時間を「モニタの電源を切る」の設定時間よりも長くした場合、「システムスタンバイ」は「モニタの電源を切る」が実行されてからの時間となります。

下記のような設定がされている場合、実際にシステムスタンバイが実行されるのは「モニタの電源を切る」の20 分後である35 分後となります。

システムスタンバイ：20 分後

モニタの電源を切る：15 分後

20 分後にシステムスタンバイするように設定する場合は、下記の例のように設定してください。

例 1:

システムスタンバイ: 15 分後

モニタの電源を切る: 5 分後

例 2:

システムスタンバイ: 20 分後

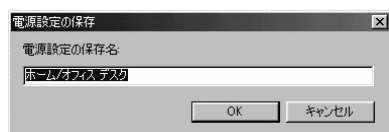
モニタの電源を切る: なし

■ 新しい電源設定の作成

次の手順で、新しい電源設定を作成することができます。

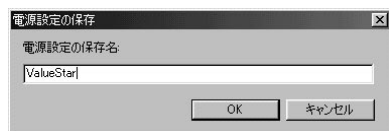
「電源設定」タブのウィンドウで「名前を付けて保存」をクリック。

次のウィンドウが表示されます。



新しい名前を付ける。

(例「ValueStar」)



「OK」をクリック。

新しい電源設定が作成されます。



必要に応じて、各電源の設定を行う。

設定が終了したら「OK」をクリック。

✓チェック!!

購入時の状態では、「ホーム / オフィスデスク」に設定されています。この設定では、キーボードやマウスに触れない状態が 20 分以上続くと、スタンバイ状態になり、電源ランプがオレンジ色に点灯します。

スタンバイ状態にするときの注意

スタンバイ状態にするときには、次のような注意が必要です。これを怠ると、スタンバイ状態にする前の内容が失われたり、スタンバイ状態にする前の内容が復元できないこともあります。

■ スタンバイ状態にできないとき

使用するアプリケーションソフトによっては、スタンバイ状態からの復帰ができなかったり、アプリケーションソフトが正常に動作しないことがあります。このようなアプリケーションの使用時には、スタンバイ状態にしないでください。また、使用する周辺機器によっては、スタンバイ状態から復帰できないことがあります。

■ スタンバイ状態にする前の内容が失われるとき

スタンバイ状態にするときに次のことが起きると、電源が切れた状態になるため、スタンバイ状態にする前の内容は失われます。

- ・電源ケーブルが本体や AC コンセントからはずれたとき
- ・停電が起きたとき
- ・電源スイッチを約 4 秒以上押し続けて、強制的に電源を切ったとき

このような場合は、次に電源を入れたときに、「Windows が正しく終了されませんでした...」と表示され、スキャンディスクが実行されます。画面の指示にしたがってください。

■ スタンバイ状態にする前の内容の復元が保証されない場合

次のような場合は、スタンバイ状態にする前の内容は保証されません。

- ・スタンバイ状態にする前の内容の記憶中、または復元中にフロッピーディスクを入れ替えたとき
- ・スタンバイ状態にする前の内容の記憶中、または復元中に CD-ROM や、DVD-ROM を入れ替えたとき
- ・スタンバイ状態にする前の内容の記憶中、または復元中に本機の環境を変更したとき
- ・スタンバイ状態のときに本機の機器構成を変更したとき

また、次のような状態でスタンバイ状態にしても、スタンバイ状態から復帰後の内容は保証されません。

- ・プリンタへ出力中のとき
- ・モデムなどを使って通信中のとき
- ・サウンド機能により音声を再生しているとき
- ・フロッピーディスク、ハードディスクを読み書き中のとき
- ・CD-ROM や DVD-ROM を読み取り中のとき
- ・スタンバイに対応していない周辺機器、拡張ボードを取り付けたとき

■ スタンバイ状態からの復帰が正しく実行されない場合
 次のような場合には、スタンバイ状態からの復帰が正しく実行されなかったことを表しています。

- ・アプリケーションソフトが動作しない
- ・キーボードの【スリープ】ボタンを押すまたは、キーボードやマウスを操作しても、スタンバイ状態から復帰しない

このような状態になるアプリケーションソフトを使用中には、スタンバイ状態にしないでください。万一、キーボードの【スリープ】ボタンを押したり、キーボードやマウスを操作してもスタンバイ状態から復帰できなかったときには、電源スイッチを約 4 秒以上、押し続けてください。電源ランプが消え、電源が強制的に切れます。この場合、BIOS セットアップメニューの内容が、ご購入時の状態に戻っていることがあります。必要な場合は、再設定してください。

■ その他の注意

- ・画面が暗くなっても本体の電源ランプがオレンジ色に点灯していないときは、キーボードの【スリープ】ボタンを押しても復帰しません。
- ・通信ソフトを使用中の場合は、必ず通信を終了させてから、スタンバイ状態にしてください。通信状態のままスタンバイ状態にすると、回線が接続されたままになり、電話料金が加算される場合があります。
- ・CD-ROM ドライブにフォト CD が入っているときにスタンバイ状態にした場合は、復帰に多少の時間がかかることがあります。
- ・CDの再生中にスタンバイ状態にした場合、CDは再生され続ける場合があります。スタンバイ状態にする前に CD の再生を止めてください。

・「デバイスマネージャ」でドライバなどの設定をしているときや、「プリンタウィザード」や「ハードウェアウィザード」、「モデムウィザード」実行中は、スタンバイ状態にしないでください。これらの画面を表示しているときに、スタンバイ状態になると、復帰した後、キーボードとマウスを使用することができなくなります。

・「Windows Media Player」でビデオ CD や MPEG データを再生しているときは、スタンバイ状態にできない場合があります。

・「SmartVoice」起動中は、スタンバイ状態にすることはできません。

サウンド機能

本機は、PCM録音/再生機能、MIDI音源機能を備えています。

概要

PCM 録音 / 再生機能

PCM録音/再生機能は、マイクロホンから入力した音声などのアナログ信号をデジタル信号に変換しているような処理を加える機能です。人の音声などを、原音に近い音で再現できます。

インストールされているWindowsのサウンド機能を使えば、ソフトに含まれる音声データを再生したり、入力した音声を編集したり、文書などに貼り付けたりできます。

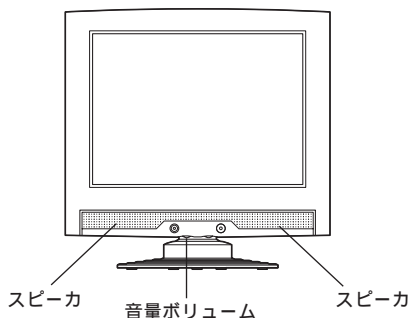
MIDI

MIDIは、Musical Instruments Digital Interfaceの頭文字をとったもので、楽器同士を接続して、演奏情報や音色情報をやり取りするための規格です。

MIDIでは、音程や音色などの演奏に関する情報のほか、設定を切り替えるための情報、テンポをコントロールするための情報などのさまざまな情報をやり取りできるので、表現力豊かな演奏ができます。

スピーカ

液晶ディスプレイセットモデルの場合は、液晶ディスプレイにスピーカが内蔵されています。



音量ボリュームは右に回すと小さくなり、左に回すと大きくなります。

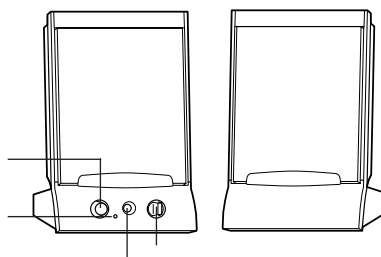
CRTディスプレイセットモデルには外付けスピーカが添付されています。

本機の音量を調節する場合は、外付けスピーカのボリュームつまみを使います。右に回すと大きく、左にまわすと小さくなります。

外付けスピーカの各部の名称

前面

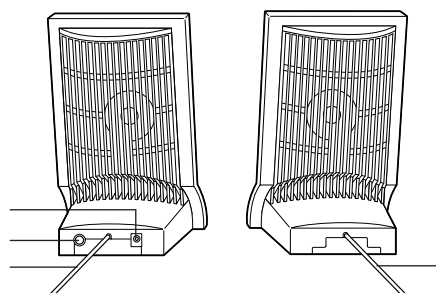
スピーカ(L) スピーカ(R)



電源スイッチやボリュームがついている方がスピーカ(L)です。

背面

スピーカ(L) スピーカ(R)



電源スイッチ (ⓘ)

スピーカの電源を入れたり切ったりするスイッチです。1回押すと電源が入り、もう1回押すと電源が切れます。

音量ボリューム (🔊)

スピーカの音量を調節します。右に回すと大きくなり、左に回すと小さくなります。

電源ランプ

スピーカの電源が入っているときは緑色に点灯します。

ヘッドホン端子(ステレオ) ()

市販のオーディオ用ヘッドホンなどを接続するためのミニジャック端子。ヘッドホンプラグの形状によっては、使用できないものがありますので注意してください。

スピーカケーブル

本体とスピーカを接続するためのケーブルです。

出力コネクタ()

左右のスピーカを接続するためのコネクタです。

電源コネクタ(DC 9V)

添付の AC アダプタを接続するためのコネクタです。

スピーカケーブル

左右のスピーカを接続するためのケーブルです。スピーカ(L)の出力コネクタ()に接続します。

マイクロホン

マイクロホン端子にマイクロホンを接続すると、本機に音声を取り込むことができます。取り込んだサウンドは、ファイルとして保存できます。

本機にはヘッドセットマイクが添付されています。

ボリュームコントロール

「ボリュームコントロール」ウィンドウは、内蔵音源を通じて再生される音声の量や、内蔵音源を通じて録音するときの入力レベルをコントロールすることができます。

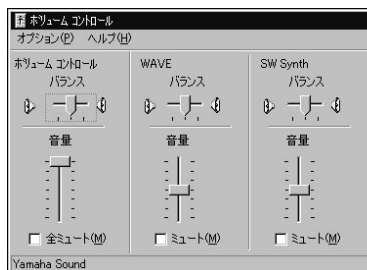
各音源の音量が小さい場合や、音量が大き過ぎて音切れ(音が途切れる現象)があるときに調整してください。

「ボリュームコントロール」ウィンドウの表示方法

「ボリュームコントロール」ウィンドウの表示方法は次の通りです。

「スタート」ボタン→「プログラム」→「アクセサリ」→「エンターテインメント」→「ボリュームコントロール」をクリック。

「ボリュームコントロール」ウィンドウが表示されます。



「プロパティ」ウィンドウ

「ボリュームコントロール」ウィンドウのメニューバーから「オプション」→「プロパティ」をクリックすると、「プロパティ」ウィンドウが表示されます。



「プロパティ」ウィンドウでは、「音量の調整」欄で、「再生」「録音」「その他」のどれが選ばれているかにより、表示される項目を切り替えることができます。表示できる項目と、各項目の説明を一覧で示すと次のようになります。

< VC600J/1、VC550J/1、VC500J/1、VE500J/1、VT500J/1 >

項目名	音量調節の種類		説明
	再生	録音	
ボリュームコントロール			スピーカから出力される全ての音量を調整します。
WAVE			WAVEなどのPCM音源のボリュームを調整します。
SW Synth			MIDIデバイスとして"Microsoft GS Wavetable SW Synth"を選択した場合のMIDIのボリュームを調整します。
テレフォン			本機では使用できません。
マイクロフォン			マイクロホン端子から入力される音声をスピーカから出力するとき、または録音するときのボリュームを調整します。
ライン			Line inに接続している機器から入力される音をスピーカから出力するとき、または録音するときのボリュームを調整します。
CD オーディオ			CD-ROMで再生した音楽CDを再生、または録音する時のボリュームを調整します。
XG Synth			MIDIデバイスとして"YAMAHA XG"を選択した場合のMIDIのボリュームを調整します。
モノアウト			本機では使用できません。
3Dワイド			3Dワイドステレオの効果の広がりを設定します。
ステレオアウト			Line Outへ出力する音声をループバックさせて録音する時のボリュームを調整します。
マイクロフォン (Ext)			本機では使用できません。

< VC46H/1、VE46H/1 >

項目名	音量調節の種類		説明
	再生	録音	
Volume Control			スピーカから出力される全ての音量を調整します。
WAVE			WAVEなどのPCM音源のボリュームを調整します。
SW Synth			MIDIデバイスとして"Microsoft GS Wavetable SW Synth"を選択した場合のMIDIのボリュームを調整します。
3D Wide			"3Dエンハンスメントの効果を調整します。3Dエンハンスメントはステレオ音声に対して効果がかけられます。"
CD Audio			CD-ROMで再生した音楽CDを再生、または録音する時のボリュームを調整します。
Line In			Line inに接続している機器から入力される音をスピーカから出力するとき、または録音するときのボリュームを調整します。
Microphone			マイクロホン端子から入力される音声をスピーカから出力するとき、または録音するときのボリュームを調整します。
Telephony			本機では使用できません。
XG Synth			MIDIデバイスとして"YAMAHA AC-XG WDM XG Synth"を選択した場合のMIDIのボリュームを調整します。
Mono Out			本機では使用できません。
Stereo Mix			Line Outへ出力する音声をループバックさせて録音する時のボリュームを調整します。ステレオのまま録音されます。

CD/DVD 制御ボタンでの音量調整

キーボードのCD/DVD 制御ボタンの「ボリュームアップボタン」、「ボリュームダウンボタン」を使っても、音量が調整できます。【▲】を押すと音量が大きくなり、【▼】を押すと小さくなります。



チェック!

外付けスピーカのボリュームつまみが最小になっていると、【▲】を押しても音量が大きくなりません。

参照

CD/DVD 制御ボタン→このPARTの「ワンタッチスタートボタン」

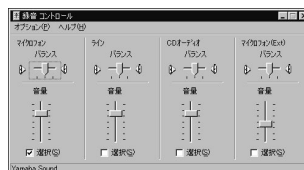
マイクロホンの音量調整

別売のマイクロホンを接続したときは、次のように、音量を調節します。

「音量の調整」欄の「録音」をクリックして●にする。
「表示するコントロール」欄の項目も変わります。



「OK」をクリック。



「マイク」の音量つまみの部分をドラッグしてボリュームを調節する。

調節が終わったら、[X] をクリックして、このウィンドウを閉じる。

ハウリング抑止

接続するマイクロホンによっては、マイクロホンのボリュームを最小にしてもハウリングを起こすことがあります。このようなときは、次の手順でマイクロホンのボリュームを調整してください。

「スタート」ボタン→「プログラム」→「アクセサリ」→「エンターテインメント」→「ボリュームコントロール」をクリック。

「ボリュームコントロール」ウィンドウが表示されます。メニューバーの「オプション」→「プロパティ」をクリック。

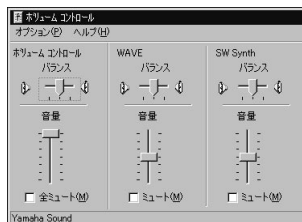


「再生」をクリックして にする。

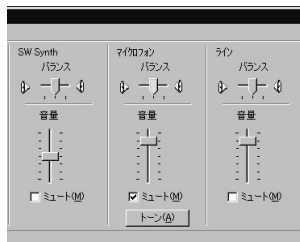
「マイクロフォン」のチェックボックスをチェックする。



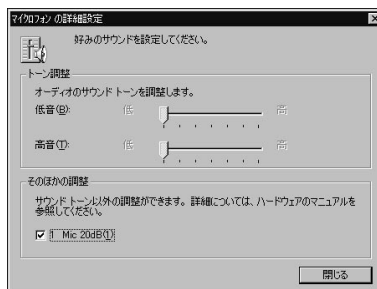
「OK」をクリック。



「オプション」→「トーン調整」をクリック。
「トーン」ボタンが追加表示されます。



「トーン」をクリック。



「その他の調整」の「Mic 20dB 有効」のチェックボックスのチェックを外す。

なお、本機では「トーン調整」は使えません。

設定が終わったら、「閉じる」をクリック。

「ボリュームコントロール」ウィンドウの画面に戻ります。

をクリックして、ウィンドウを閉じる。
トーン調整が完了です。

ヤマハ DS-XG 設定

シンセサイザーや3Dサウンドの設定をすることができます。

コントロールパネルを開く。

(「スタート」ボタン→「設定」→「コントロールパネル」)

「ヤマハ DS-XG 設定」アイコンをダブルクリック。



詳しい使い方は、ヘルプを参照してください。

サウンド全般についての注意

ボリュームコントロールを使用するときの注意

・ディスプレイの解像度が640×480ドットなどの低解像度の場合、「ボリュームコントロール」ですべての音源コントロールが表示されない、または右端の音源コントロールの表示が一部欠ける場合があります。

この場合には、ディスプレイの解像度を変更するか、「プロパティ」ウィンドウの「表示するコントロール」欄で、使用しない音源の選択を解除し、必要なコントロールが表示されるよう変更してください。

なお、「ボリュームコントロール」の表示が一部欠けた状態で解像度の切り替えを行っても、「ボリュームコントロール」の表示は変更されません。一度、「ボリュームコントロール」を終了し、もう一度「ボリュームコントロール」を起動してください。

・CDまたはTVの音を録音し、そのデータを再生したとき、音が小さく感じられる場合があります。これはCD/TVの録音の音量は、CD/TVの出力ボリュームの大きさに依存するためです。したがって、CDまたはTVの録音を行うときにはあらかじめ「ボリュームコントロール」を使用し、CD/TVの音量を大きくしておいてください。

サウンド機能を使用するときの注意

本機では、本体内置のサウンド機能や周辺機器を増設して、Windows 98上でマルチメディア機能を利用することができます。

利用できるマルチメディアの各機能については次の通りです。

ウェーブフォームデータの録音・再生	MIDIデータの演奏	MIDIデータの記録
-------------------	------------	------------

×

○：本体内置のサウンド機能で利用することができます。

FAX モデムボード

本機に標準で内蔵されている FAX モデムボードには、ファクシミリ通信機能、データ通信機能などがあります。また市販の電話機を接続するためのコネクタがついています。

参照

AT コマンドについて → 「サポートセンタ」-「パソコンを使いこなそう」-「ハードウェア情報」-「AT コマンド」

概要

ここでは、FAX モデムボードの機能を説明します。

データ通信機能

本機にセットアップ / 添付されているソフトウェアで、インターネットやパソコン通信などのデータ通信を行うことができます。

その他のソフトウェアでは正常に動作しない可能性があります。

FAX 通信機能

本機で作成したワープロ文書などのデータをダイレクトに FAX に送信できます。また、本機で FAX を受信でき、効率的に FAX 送受信をサポートします。FAX モデムボードの FAX 通信機能は、本機にインストールされている次の FAX ソフトウェアでの動作を保証しています。

・FAX-NX

その他の FAX ソフトウェアでは正常に動作しない可能性があります。

FAX テスト交信サービス

「FAX-NX」を使用して、FAX の送受信のテストができます。

参照

FAX-NX の使い方 → 「サポートセンタ」-「パソコンを使いこなそう」-「添付ソフトの使い方」-「FAX-NX」

最高 56,000bps までの各種通信

電話回線を利用して最高 56,000bps の全二重データ通信と最高 14,400bps の半二重 FAX 通信ができます。

送受信: 300/1,200/2,400/4,800/7,200
9,600/12,000/14,400/16,800
19,200/21,600/24,000/26,400
28,800/31,200/33,600bps

受信のみ: 28,000/29,333/30,667/32,000
33,333/34,000/34,667/36,000
37,333/38,000/38,667/40,000
41,333/42,000/42,667/44,000
45,333/46,000/46,667/48,000
49,333/50,000/50,667/52,000
53,333/54,000/54,667
56,000bps

FAX: 300/2,400/4,800/7,200/9,600
/12,000/14,400bps

リング機能

本機がスタンバイ状態のときに、電話や FAX を受信すると、自動的に本機をスタンバイ状態から復帰させる機能があります。

リング機能を使うには「Timer-NX」での設定または「FAX-NX」での自動受信の設定が必要です。

参照

Timer-NX の使い方 → 「サポートセンタ」-「パソコンを使いこなそう」-「添付ソフトの使い方」-「Timer-NX」

参照

FAX-NX の使い方 → 「サポートセンタ」-「パソコンを使いこなそう」-「添付ソフトの使い方」-「FAX-NX」

FAX モデムボードを 使用する時の注意

✓チェック!

標準で取り付けられている FAX モデムボードは、ご購入時に取り付けられていたスロットで使用してください。

適合電話回線について

FAXモデムボードは、加入電話回線に適合するように設計されています。加入電話回線以外と接続すると、FAX モデムボードやパソコン本体等を破損する場合があります。

送信レベルについての注意

通常の電話回線を使用する場合、送信レベルは購入時の設定から変更する必要はありません。ただし、回線状態が悪く、うまく接続できない場合は送信レベルの調整が必要な場合があります。送信レベルの調整は、認定された工事担当者以外が行うことは法律で禁じられていますので、送信レベルの調整については、当社指定のサービス窓口にお問い合わせください。

当社指定のサービス窓口の電話番号、受付時間については、『NEC PC あんしんサポートガイド』をご覧ください。

通信するときの注意

- ・通信中は、電話機用モジュラーコネクタに接続した電話機の手話器を外さないようにしてください。受話器が外れると、通信が中断されることがあります。
- ・電話機用モジュラーコネクタには、他のモデムを接続しないでください。他の外付けモデムなどが、電話機用モジュラーコネクタに接続されている場合は取り外してください。
- ・キャッチホンサービスを受けている場合、モデムで通信中に電話がかかってくると、モデムによる通信が切れる場合があります。キャッチホンのサービスを利用すれば、通信が切れることはありません。キャッチホン についてはNTTにご相談ください。
- ・FAXモデムボードのダイヤル信号は、ご使用になる加入電話回線のダイヤル信号に合わせた調整が必要です。加入電話回線のダイヤル方法がトーンかパルスかわからないときは、NTTに確認してください。
- ・コードレスホンや親子電話、構内回線など、公衆回線以外の回線をご使用の場合は、正常なデータの送受信ができない場合があります。
- ・FAX モデムボードはFAX 通信網には対応していません。
- ・FAX モデムボードに接続できる回線は 2 線式のみです。
- ・本体にアース線を接続していない場合や、回線の状態によっては、希望の通信速度で通信できないことや、接続しにくい場合があります。
- ・FAX モデムボードに接続できる電話機は 2 線式の回線用のみです。電話機の種類によっては動作しない機種がありますので注意してください。また、電話機用モジュラーコネクタに接続されている外付け電話機をパソコン本体から離れたところに設置している場合は、送信 / 受信の際に外付け電話機が使用されていないことを確認してください。
- ・データ通信を行う場合、フロー制御はハードウェア (RTS/CTS X 購入時の設定) に設定してください。それ以外に設定するとデータ抜けが生じる可能性があります。
- ・FAX を送信する相手が音声応答機能付きのFAX の場合、相手からの音声の内容によってはFAXの送信ができなくなることがあります。この場合は、外付け電話機で相手からの音声が終わったのを確認してから送信を始めてください。
- ・回線の状態によっては希望の通信速度で通信できない場合があります。
- ・K56flex およびITU-T V.90 の最大受信速度 56,000bps は、理論値であり、加入電話回線での通信速度とは異なります。
- ・電話局の交換機の種類によっては、14,400bps でFAXの通信ができないことがあります。この場合は通信速度を 9,600bps 以下にしてください。
- ・海外と直接接続した場合、伝送路の特性のため正常に通信できない可能性があります。

■ ポート番号を変更する

購入時の状態では、内蔵 FAX モデムボードのポート番号は COM2 になっています。
ポート番号を変更するときは次の手順で変更してください。

チェック!!

「CyberTrio-NX」のモードが「ベーシックモード」の場合は、「アドバンスモード」→「スタート」ボタン→「プログラム」→「Cyber Trio-NX」→「Go to アドバンスモード」をクリック)に変更してから次の手順を行ってください。

起動している通信アプリケーションをすべて終了する。

「コントロールパネル」を開く。
(「スタート」ボタン→「設定」→「コントロールパネル」)

「システム」をダブルクリック。
「システムのプロパティ」ウィンドウが表示されます。

「デバイスマネージャ」タブをクリック。
「デバイスマネージャ」タブのウィンドウが表示されます。

「モデム」をダブルクリックし、表示された「NEC Fax Modem 56K Data+Fax(DJP)」をクリック(反転表示)。

「プロパティ」をクリック。
「NEC Fax Modem 56K Data+Fax(DJP)」のプロパティウィンドウが表示されます。

「リソース」タブをクリック。

「自動設定を使う」のチェックボックスのチェックをはずす。

「基にする設定」の値を変更し、「リソースの種類」にある「I/O 範囲」の値を設定する。

COM1 の場合	: 03F8-03FF
COM2 の場合	: 02F8-02FF
COM3 の場合	: 03E8-03EF
COM4 の場合	: 02E8-02EF

リソースが競合していないことを確認してください。
競合している場合、そのポートへの変更はできません。

「OK」をクリック。
「NEC Fax Modem 56K Data+Fax(DJP)」のプロパティウィンドウに戻ります。

「OK」をクリック。

「変更不可の環境設定の作成」ウィンドウが表示されません。

「はい」をクリック。
しばらくすると、「システムのプロパティ」ウィンドウに戻ります。

「閉じる」をクリック。

Windows を再起動する。
コンピュータの再起動が始まります。
以上で、ポート番号の変更は終了です。

P A R T

11

本機の設定を変更する

ここでは、本機の使用環境を設定する BIOS セットアップメニューと、省電力機能を使うための電源管理モードについて説明しています。通常は、これらの設定を変更する必要はありません。

- BIOS セットアップメニュー
- 電源管理モードについて

BIOS セットアップメニュー

「BIOS セットアップメニュー」ではハードウェア環境の確認と変更、セキュリティ、省電力など本機の使用環境を設定することができます。

✓チェック!!

BIOS セットアップメニューは画面上では「Phoenix BIOSセットアップユーティリティ」と表示されます。

BIOS セットアップメニューを使ってできること

次のような設定ができます。

- ・現在の日付と時間の設定
- ・BIOS セットアップメニューで使用する言語の選択
- ・ハードウェア環境の確認と変更
- ・セキュリティの設定
- ・省電力管理の設定
- ・起動の設定

BIOS セットアップメニューを使う

BIOS セットアップメニューの起動とメイン画面

電源を入れ、「NEC」ロゴの画面で「< F2 > キーを押すと、BIOS セットアップメニューを起動します。」と表示されたら、すぐに【F2】を押す。「セットアップを起動しています...」と表示された後、BIOS セットアップメニューが起動します。

✓チェック!!

Windows が起動した場合は、Windows を終了して電源を切り、もう一度手順 からやり直してください。

Phoenix BIOS セットアップユーティリティ			
メイン	詳細	セキュリティ	省電力管理 起動 終了
システム時刻: システム日付: 言語: フロッピーディスクA:	[XX:XX:XX] [XXXX/XX/XX] [日本語 (JP)] [1.44/1.25Mb 3.5"]	項目ヘルプ <Tab>キー、<Shift-Tab>キー、<Enter>キーは、項目を選択します。	
▶ プライマリマスタ ▶ プライマリスレーブ ▶ セカンダリマスタ ▶ セカンダリスレーブ	[XXXXMB] [なし] [CD-ROM] [なし]		
▶ キーボード機能 起動時の自己診断画面	[使用しない]		
システムメモリ: 拡張メモリ: BIOS リビジョン	640KB × × KB XXXX		
F1 ヘルプ Esc 終了	F2 項目の選択 → メニューの選択	F4 値の変更 Enter サブメニューの選択	F9 デフォルトの設定 F10 保存して終了

メニューバー

パラメータ

キーステータスバー

BIOS セットアップメニューの終了

■ 変更した設定を有効にして終了する場合

【F10】を押す。
「セットアップ確認」ウィンドウが表示されます。

「はい」を選んで【Enter】を押す。
設定値が保存され、BIOS セットアップメニューが終了します。また、メニューバーの「終了」でも BIOS セットアップメニューを終了することができます。

■ 起動前の設定のまま終了する場合

【←】【→】でメニューバーの「終了」を選ぶ。

【↓】を押して「変更を保存せずに終了する」にカーソルを合わせ【Enter】を押す。

✓チェック!!

ここで「設定が保存されていません！保存してから終了しますか？」と表示された場合は、【→】を押して「いいえ」にカーソルを合わせ【Enter】を押してください。

BIOS セットアップメニューを起動する前の設定のまま（設定の変更を行った場合はすべて無効にして）BIOS セットアップメニューが終了します。

デフォルト値の設定

【F9】を押す。
「セットアップ確認」ウィンドウが表示されます。

【←】【→】で「はい」を選んで【Enter】を押す。
すべての設定値をデフォルト値（初期値）に戻します。また、メニューバーの「終了」でもデフォルト値の設定ができます。

次にメニューバーで選択された各画面について説明します。

BIOS セットアップメニューの基本操作

- ・操作はキーボードで行います。
- ・【←】、【→】でメニューバーのカーソルを選択し、【↑】、【↓】で設定項目を選択します。
- ・設定内容(例: システム時計の時、分、秒)のカーソル移動は【Tab】で選択します。設定内容の値は【+】、【-】で変更します。
- ・▶印がついた設定項目は【Enter】でサブメニューを表示し、【Esc】で元の画面に戻ります。

メインの設定

- システム時刻
現在の時刻を「時 / 分 / 秒」で入力します。時間については 24 時間形式で入力します。
- システム日付
日付を「年 / 月 / 日」で入力します。ただし、言語を英語に設定しているときは、「月 / 日 / 年」で入力します。
- 言語
BIOS で使用する言語を設定します。日本語または英語を選べます。

- フロッピーディスク A
フロッピーディスクドライブのモードを選びます。

表中の  は購入時の設定です。

設 定 項 目	設 定 内 容
フロッピーディスク A	使用しない
	360Kb 5.25 "
	1.2Mb 5.25 "
	720Kb 3.5 "
	1.44/1.25Mb 3.5 "
	2.88Mb 3.5 "

- プライマリマスタ
現在接続されている IDE デバイスが表示されます。この項目にカーソルを合わせ【Enter】を押すとサブメニューの設定画面になります。
【Esc】を押すと元の画面に戻ります。

表中の  は購入時の設定です。

設 定 項 目	設 定 内 容	説 明
タイプ	自動	BIOS が自動的にシリンダ、ヘッド、セクタを設定します。
	/なし/CD-ROM/ 取外し可能IDE/ 取外し可能ATAPI/ Other ATAPI/ユーザ	
32ビットI/O	使用しない/使用する	32ビットIDEデータ転送を使用するかどうかを設定します。

- プライマリスレーブ
プライマリマスタの設定と同様です。
- セカンダリマスタ
プライマリマスタの設定と同様です。
- セカンダリスレーブ
プライマリマスタの設定と同様です。

✓チェック!!

本機に搭載されているハードディスクの容量を確認したい場合は BIOS セットアップメニューの「メイン」→「プライマリスタ」のサブメニューを開き、詳細表示を行い「LBAフォーマット」の「最大容量」を参照してください。

- キーボード機能
キーボード機能を設定します。この項目にカーソルを合わせ【Enter】を押すとサブメニュー設定画面になります。
【Esc】を押すと元の画面に戻ります。

表中の  は購入時の設定です。

設 定 項 目	設 定 内 容	説 明
Num lock	自動/オン/オフ	システム起動時にNum Lockをオンにするかどうかを設定します。
キークリック	使用しない/使用する	キークリック音を使用するかどうかを設定します。
キーボード自動リビート間隔	30/秒、26.7/秒、21.8/秒 18.5/秒、13.3/秒、10/秒 6/秒、2/秒	キーリビート間隔を設定します。
キーボード自動リビート待ち時間	1/4秒、1/2秒、3/4秒 1秒	キーリビートが開始されるまでの待ち時間を設定します。
USBレガシー機能	使用しない/使用する	「使用する」を選択するとUSBレガシー機能を有効にします。

- 起動時の自己診断画面
起動時に自己診断画面を表示するかどうかを設定します。「使用する」にすると NEC のロゴを表示せずに自己診断画面を表示します。購入時は「使用しない」に設定されています。
- システムメモリ
搭載されているシステムメモリ容量を表示します。
- 拡張メモリ
搭載されている拡張メモリを表示します。

- BIOS リビジョン
BIOS のリビジョンを表示します。
- Processor Serial Number (VC600J/1、VC550J/1、VC500J/1、VE500J/1、VT500J/1)
プロセッサシリアルナンバの読みとりを可能にするかどうかを設定します。

購入時は、「使用しない」に設定されています。この設定では、プロセッサシリアルナンバの読みとりはできません。

✓チェック!

プロセッサシリアルナンバは、Pentium® プロセッサの新機能で、プロセッサの識別子です。プロセッサごとに固有になっているので、ホームページやアプリケーションを利用する際に、システムを識別するためのより詳細な情報として使われることがあります。ホームページやアプリケーションを利用する際に、プロセッサシリアルナンバの読みとりが必要になった場合には、この項目の設定を「使用する」にしてください。

詳細の設定

■ プラグ&プレイ O/S

プラグ&プレイ対応のオペレーティングシステムを使用している場合には、「はい」(購入時)を選びます。

■ 設定値の初期化

システムの設定値を初期化したい場合には、「する」を選びます。購入時には「しない」に設定されています。

■ PCI 設定

各 PCI デバイスの割り込み番号 (IRQ) を設定します。この項目にカーソルを合わせ【Enter】を押すとサブメニューの設定画面になります。

表中の  は購入時の設定です。

設 定 項 目	設 定 内 容	説 明
PCI IRQ line 1	使用しない/自動選択 /3/4/5/7/9/10/ 11/12/14/15	PCI IRQ line 1 で使用する IRQ 番号を設定します。
PCI IRQ line 2	使用しない/自動選択 /3/4/5/7/9/10/ 11/12/14/15	PCI IRQ line 2 で使用する IRQ 番号を設定します。
PCI IRQ line 3	使用しない/自動選択 /3/4/5/7/9/10/ 11/12/14/15	PCI IRQ line 3 で使用する IRQ 番号を設定します。
PCI IRQ line 4	使用しない/自動選択 /3/4/5/7/9/10/ 11/12/14/15	PCI IRQ line 4 で使用する IRQ 番号を設定します。

PCI デバイスは ISA デバイスが使用している割り込み番号を使用することはできません。割り込み番号が重複しないように設定する必要があります。通常は、「自動選択」に設定してください。

■ キャッシュメモリ

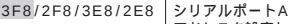
この項目の設定は変更しないでください。

■ 周辺機器設定

各種周辺機器の設定を行います。この項目にカーソルを合わせ【Enter】を押すとサブメニューの設定画面になります。

コンパクトタイプには、「シリアルポート B」の項目はありません。

表中の  は購入時の設定です。

設 定 項 目	設 定 内 容	説 明
シリアルポート A	使用しない	シリアルポート A は使用できません。
	 使用する	ユーザが I/O ベースアドレスと割り込み番号を設定することができます。
	自動	BIOS が I/O ベースアドレスと割り込み番号を自動的に設定します。
I/O ベースアドレス	 3F8/2F8/3E8/2E8	シリアルポート A に I/O ベースアドレスを設定します。
割り込み	IRQ3/  IRQ4	シリアルポート A に割り込み番号を設定します。
パラレルポート	使用しない	パラレルポートは使用できません。
	 使用する	ユーザがパラレルポートのモード、I/O ベースアドレス、割り込み番号を設定することができます。
	自動	BIOS が自動的にパラレルポートの設定を行います。
モード	出力のみ/双方向/  ECP	パラレルポートにモードを設定します。
I/O ベースアドレス	 378/278/3BC	パラレルポートに I/O ベースアドレスを設定します。
割り込み	IRQ5/  IRQ7	パラレルポートに割り込み番号を設定します。
フロッピーコントローラ	使用しない/  使用する/自動	オプションのフロッピーディスクを使用する場合は「使用する」に設定します。
I/O ベースアドレス	 プライマリ/セカンダリ	オプションのフロッピーディスクの I/O ベースアドレスを設定します。

■ 大容量ディスクアクセスモード

この項目の設定は変更しないでください。

■ ローカルバス IDE アダプタ

内蔵の IDE アダプタを使用するかどうかを設定します。購入時には「両方」に設定されています。

■ クイックブート

「使用する」(購入時)に設定した場合、システム起動時の一部のテストをスキップします。システム起動時間が短縮されます。

■ DMI イベントログ

起動時に起きたシステムのイベントログを参照できます。

セキュリティの設定

セキュリティに関する各種設定を行います。

■ スーパーバイザパスワード

スーパーバイザパスワードの設定状態を表示します。購入時の状態ではパスワードが設定されていないため、「クリア」と表示されます。

表中の  は購入時の設定です。

設定項目	設定内容	説明
スーパーバイザパスワード	クリア	スーパーバイザパスワードが設定されていません。
	設定	スーパーバイザパスワードが設定されています。

■ ユーザパスワード

ユーザパスワードの設定状態を表示します。購入時の状態ではパスワードが設定されていないため、「クリア」と表示されます。

表中の  は購入時の設定です。

設定項目	設定内容	説明
ユーザパスワード	クリア	ユーザパスワードが設定されていません。
	設定	ユーザパスワードが設定されています。

✓ チェック!!

スーパーバイザパスワードとユーザパスワードの設定や入力のしかたについては後述の「パスワードの設定と入力」をご覧ください。

■ スーパーバイザパスワード設定

スーパーバイザパスワードの設定を行います。設定方法については、後述の「パスワードの設定と入力」をご覧ください。

■ ユーザパスワード設定

ユーザパスワードの設定を行います。設定方法については、後述の「パスワードの設定と入力」をご覧ください。

■ 起動時のパスワード

システム起動時にスーパーバイザパスワードやユーザパスワードの入力を行うかどうかの設定を行います。購入時には「使用しない」に設定されています。

■ ハードディスク起動セクタ

ハードディスク起動セクタを書き込み禁止にするかどうかの設定を行います。書き込み禁止にすると起動セクタをウイルスから保護します。購入時には「通常動作」に設定されています。

■ フロッピーアクセス

「スーパーバイザ」に設定するとスーパーバイザ以外フロッピーディスクドライブに対してアクセスできなくなります。購入時には「スーパーバイザ」に設定されています。

■ ウィルスチェック警告

起動時に警告メッセージを表示します。表示するタイミングは「使用しない」,「毎日」,「毎週(月曜日)」,「毎月(1日)」の中から選びます。購入時には「使用しない」に設定されています。

■ システムのバックアップ警告

起動時に警告メッセージを表示します。表示するタイミングは「使用しない」,「毎日」,「毎週(月曜日)」,「毎月(1日)」の中から選びます。購入時には「使用しない」に設定されています。

省電力管理の設定

システムの省電力管理設定を行います。

■ 省電力

パワーマネジメントモードを選びます。モードを選ぶことによってシステムのパワーマネジメント設定を変更します。

✓チェック!!

Windows 98 では、ACPI モード時は、この設定は無効です。

表中の  は購入時の設定です。

設定項目	設定内容	説明
省電力	使用しない	パワーマネジメント機能を停止します。
	カスタマイズ	各種タイムアウト時間をユーザ自身で選べます。
	最大省電力	消費電力を最小限におさえることができます。このときのタイムアウト時間は以下のとおりです。 自動サスペンドタイムアウト：5分 ハードディスクタイムアウト：1分
	性能優先	電力をより多く消費しますが、性能は最大限に発揮します。このときのタイムアウト時間は以下のとおりです。 自動サスペンドタイムアウト：60分 ハードディスクタイムアウト：15分

■ 自動サスペンドタイムアウト

システムが自動的にサスペンドするまでの時間を設定します。購入時には「20分」に設定されています。

✓チェック!!

Windows 98 では、この設定は無効です。

■ ハードディスクタイムアウト

ハードディスクのモータが停止するまでの、ハードディスクの非アクティブ状態の時間を設定します。購入時には「使用しない」に設定されています。

✓チェック!!

・「ハードディスクタイムアウト」の設定は、Windows 98 の「コントロールパネル」-「電源の管理」の「ハードディスクの電源を切る」でも設定できますが、これらの設定は、設定時間の短いほうが有効になります。通常は、BIOS セットアップメニューの「ハードディスクタイムアウト」は「使用しない」に設定し、Windows 98 側で設定するようにしてください。

・10 分未満に設定した場合、設定した時間になっても、ハードディスクのモータが停止しないことがあります。

■ システムスイッチ

本体の電源スイッチの機能を設定します。

「パワーボタン」に設定すると、電源のオン / オフができます。「スリープボタン」に設定すると、サスペンド / レジュームすることができます。購入時には、「パワーボタン」に設定されています。

✓チェック!!

Windows 98 では、ACPI モード時は、この設定は無効です。ACPI モードのときに Windows 98 で電源スイッチを使ってサスペンド / レジュームを行うには、「コントロールパネル」→「電源の管理」→「詳細」タブで「コンピュータの電源ボタンを押したとき」の設定を「スタンバイ」にしてください。

■ モデムリングによるレジューム

「オン」に設定すると、モデムが呼出し信号を受信したときに、システムをサスペンド状態から復帰します。購入時には「オフ」に設定されています。

✓チェック!!

Windows 98 では、この設定は無効です。

■ 時刻指定によるレジューム

「オン」に設定すると、レジューム時刻の設定時間でシステムをサスペンド状態から復帰します。購入時には「オフ」に設定されています。

✓チェック!!

Windows 98 では、ACPI モード時は、この設定は無効です。

■ レジューム時刻

「時刻指定によるレジューム」で「オン」に設定した場合、システムを復帰する時刻を設定します。

✓チェック!!

Windows 98 では、ACPI モード時は、この設定は無効です。

起動の設定

■ AC 投入時の電源状態

AC電源が失われ、再投入されたとき、どの状態に復旧するかを設定します。購入時には「自動」に設定されています。なお、この項目の設定は変更しないでください。

■ PCI デバイスによる電源オン

PCIデバイスによる電源オンおよびレジュームを有効にします。購入時には「しない」に設定されています。

起動するデバイスを優先順にしたがってリスト表示します。番号が小さいデバイスからオペレーティングシステムを起動します。オペレーティングシステムが存在しないなど起動に失敗した場合は、次のデバイスから起動します。

起動するデバイスを変更するには【↑】【↓】を使用して変更したいデバイスにカーソルを合わせます。【+】を押すとリストの上側に移動し、【-】を押すとリストの下側に移動します。

■ ハードディスク

複数のデバイスが存在するため、さらにこの中で起動する優先順位を設定することができます。

■ 取り外し可能なデバイス

複数のデバイスが存在するため、さらにこの中で起動する優先順位を設定することができます。

■ 取り外し可能なフォーマット

取り外し可能なドライブに挿入されているメディアのフォーマットを設定します。

● **チェック!**

この項目は、スーパーディスクなどの取り外し可能なデバイスが接続された場合に表示されます。

■ セットアップ情報画面

「使用する」に設定すると起動時にシステム設定状況を表示します。購入時には「使用しない」に設定されています。

終了

BIOSセットアップメニューの終了とシステム設定の読み込み / 保存を行います。

■ 変更を保存して終了する

システムの設定を終了して、変更を保存します。

■ 変更を保存せずに終了する

設定値を保存せずにBIOSセットアップメニューを終了します。

■ デフォルト値をロードする

すべての設定値にデフォルト値を書き込みます。

■ 変更を取り消す

すべての設定項目に対して変更前の値に戻します。

■ 変更を保存する

設定値を保存します。

パスワードの設定と入力

パスワード(スーパーバイザパスワード、ユーザパスワード)を設定すると、BIOS セットアップメニュー起動時に設定したパスワードを入力しないとBIOS セットアップメニューを起動できなくなります。

パスワードの設定

パスワードには、スーパーバイザパスワードとユーザパスワードがあります。

これらのパスワードを設定することにより、BIOS セットアップメニューで設定できる項目が制限されます。BIOS セットアップメニュー起動時に、スーパーバイザパスワードを入力すると全項目が設定可能ですが、ユーザパスワードを入力すると設定できる項目が制限されます。

■ パスワードに使用できる文字と記号

半角英数字のみがパスワードとして使用でき、7文字以内でなければなりません。大文字 / 小文字の区別はありません。

■ スーパーバイザパスワードの設定

BIOS セットアップメニューで次の設定を行います。

【←】【→】でメニューバーの「セキュリティ」を選ぶ。

【↑】【↓】で「スーパーバイザパスワード設定」を選ぶ。

【Enter】を押す。

「新しいパスワードを入力して下さい。」と表示されます。

パスワードを入力し、【Enter】を押す。

もう一度同じパスワードを入力し、【Enter】を押す。「変更が保存されました。」と表示されます。

【Enter】を押す。

これでスーパーバイザパスワードが設定されました。

■ ユーザパスワードの設定

BIOS セットアップメニューで次の設定を行います。

チェック!!

ユーザパスワードは、スーパーバイザパスワードを設定しないと設定できません。

【←】【→】でメニューバーの「セキュリティ」を選ぶ。

【↑】、【↓】で「ユーザパスワード設定」を選ぶ。

【Enter】を押す。
「新しいパスワードを入力して下さい。」と表示されます。

パスワードを入力し、【Enter】を押す。

もう一度同じパスワードを入力し、【Enter】を押す。
「変更が保存されました。」と表示されます。

【Enter】を押す。
これでユーザパスワードが設定されました。

パスワードの変更

チェック!!

パスワードが設定されている状態をクリアして、次回 BIOS セットアップメニュー起動時からパスワード入力を行わないようにするには、手順 1 でパスワードを入力しないで【Enter】を押してください。

■ スーパーバイザパスワードの変更

すでにスーパーバイザパスワードが設定されている場合は、次の手順によりパスワードを変更することができます。

【←】【→】でメニューバーの「セキュリティ」を選ぶ。

【↑】、【↓】で「スーパーバイザパスワード設定」を選ぶ。

【Enter】を押す。
「現在のパスワードを入力して下さい。」と表示されます。

今まで設定していたパスワードを入力し、【Enter】を押す。

新しいパスワードを入力し、【Enter】を押す。

もう一度、手順 1 と同じパスワードを入力し、【Enter】を押す。
「変更が保存されました。」と表示されます。

【Enter】を押す。
これでスーパーバイザパスワードが変更されました。

■ ユーザパスワードの変更

すでにユーザパスワードが設定されている場合は、次の手順によりパスワードを変更することができます。

【←】【→】でメニューバーの「セキュリティ」を選ぶ。

【↑】、【↓】で「ユーザパスワード設定」を選ぶ。

【Enter】を押す。
「現在のパスワードを入力して下さい。」と表示されます。

今まで設定していたパスワードを入力し、【Enter】を押す。

新しいパスワードを入力し、【Enter】を押す。

もう一度、手順 1 と同じパスワードを入力し、【Enter】を押す。
「変更が保存されました。」と表示されます。

【Enter】を押す。
これでユーザパスワードが変更されました。

BIOS セットアップメニュー起動時のパスワード入力

パスワードを設定すると、次回 BIOS セットアップメニュー起動時に、「パスワードを入力して下さい。」と表示されます。

・スーパーバイザパスワードのみを設定している場合

スーパーバイザパスワードを入力して【Enter】を押すと、BIOS セットアップメニューが起動します。

・スーパーバイザパスワードとユーザパスワードの両方を設定している場合

スーパーバイザパスワード、またはユーザパスワードを入力して【Enter】を押すと、BIOS セットアップメニューが起動します。

ただし、ユーザパスワードで BIOS セットアップメニューを起動すると、以下の項目が設定できなくなります。

・「メイン」メニュー

フロッピーディスク A

プライマリマスタ

プライマリスレーブ

セカンダリマスタ

セカンダリスレーブ

キーボード機能

起動時の自己診断画面

Processor Serial Number

・「詳細」メニュー

各項目

・「セキュリティ」メニュー

ユーザパスワード設定以外の項目

・「起動」メニュー

AC 投入時の電源状態

セットアップ情報画面

・【F9】などによるデフォルトの設定

✓チェック!

・パスワードの入力を間違えると、「パスワードが正しくありません。」と表示されますので、【Enter】を押してもう一度パスワードを入力してください。

・パスワードを忘れてしまうと本機を起動できなくなります。この場合は、後述の「パスワードの解除」にしたがって、本体内部のストラップスイッチを取り外さなければなりません。パスワードは忘れないようにしてください。

パスワードの解除

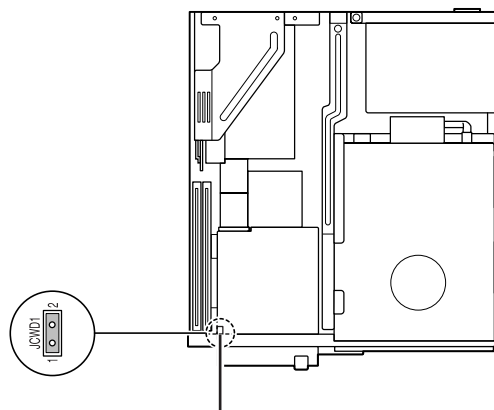
本機では、ユーザパスワードとスーパーバイザパスワードを設定できます。これらのパスワードを忘れると、本機を起動できなくなります。パスワードを忘れた場合は、本体内部のストラップスイッチを使ってパスワードを解除します。

ストラップスイッチ

本体内部には、次の図のようなストラップスイッチがあります。このスイッチを取りはずすことでパスワードの解除ができます。

✓チェック!

お使いの機種によって、本体内部の形状が異なります。



ストラップスイッチ
(ストラップスイッチは、フロッピーディスクドライブの下にあります)

パスワードの解除のしかた

⚠注意



指が注意

本体内部に手を入れるときは、指をはさんだり、ぶつかけたり、切ったりしないように注意してください。



高温注意

このパソコンの使用直後は、CPU や CPU の周辺に触れないでください。

CPU が高温になっていますので、手を触れるとやけどをするおそれがあります。電源を切ったあと、30分以上たってから行うことをおすすめします。

本機の電源を切り、電源ケーブルや背面に接続されたケーブルをすべて抜く。

正しい手順でルーフカバーを外す。



ルーフカバーの開け方 → PART 2 の「本体の開け方と閉め方」(p.26)

本体に取り付けられている RAM サブボードをすべて外す。



RAM サブボードの外し方 → PART 6 の「増設 RAM サブボードの取り付けと取り外し」(p.61)

ストラップスイッチを上引き抜く。
ストラップスイッチを引き抜くには、ピンセットなど
を使ってください。

チェック!

抜いたストラップスイッチはなくさないようにしてく
ださい。

手順 で外したRAMサブボードを元通りに取りつけ
る。

参照

RAM サブボードの取り付け方 → PART 6 の「増設
RAM サブボードの取り付けと取り外し」(p. 61)

正しい順序でルーフカバーを取り付ける。

参照

・ルーフカバーの閉め方 → PART 2 の「本体の開け方
と閉め方」(p. 26)

本体背面から外したケーブルをもとどおり接続して、
本機の電源を入れる。
Windows が起動します。

Windows を終了し、本機の電源を切り、電源ケー
ブルや背面に接続されたケーブルをすべて抜く。

手順 で引き抜いたストラップスイッチを元通りに差
し込む。

手順 と同じようにRAM サブボードをすべて外し、
ピンセットなどを使ってストラップスイッチを元通り
に取り付け、手順 と同じようにRAM サブボードを
取り付けます。

正しい手順でルーフカバーを取り付ける。

外したケーブルをもとどおり接続する。

電源管理モードについて

本機の電源管理のモードである ACPI モードと APM モードについて説明します。

✓チェック!!

TVモデルをお使いの場合は、『TVモデルガイド』をご覧ください。

ACPI モードと APM モード

本機には、省電力機能を使うための電源管理のモードとして、ACPI モードと APM モードの 2 つのモードが使用できます。
ご購入時には ACPI モードに設定されています。

✓チェック!!

TV モデルは、APM モードに設定されています。

ACPI モード

ACPI (Advanced Configuration and Power Interface) を使って、電源管理を行うモードです。ACPI とは、パソコンや周辺機器の電源管理を、本機の OS である Windows 98 で行うためのしくみです。

APM モード

APM (Advanced Power Management) を使って、電源管理を行うモードです。

APM とは、パソコンや周辺機器の電源管理を、BIOS で行うためのしくみです。

次のような場合には、APM モードを使用します。

- ・「Timer-NX」を使って、電源が切れている状態から、時間を指定して電源を入れる場合

モードの確認

本機がどちらのモードで動作しているかは、「Microsoft システム情報」または「デバイスマネージャ」で確認できます。

- Microsoft システム情報で確認する
次の手順で確認します。

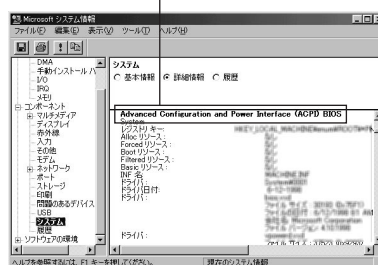
「Microsoft システム情報」を起動する。
(「スタート」ボタン→「プログラム」→「アクセサリ」→「システムツール」→「システム情報」)

「コンポーネント」をダブルクリックして、「システム」をクリック。
システムデバイスが表示されます。

表示されたデバイスリストをスクロールして、次のデバイスがあることを確認します。

- ・ ACPI モードのとき

「Advanced Configuration and Power Interface (ACPI) BIOS」と表示される



- ・ APM モードのとき

「アドバンスド パワー マネジメント サポート」と表示される



- デバイスマネージャで確認する

✓チェック!!

「デバイスマネージャ」は、「CyberTrio-NX」のモードが「アドバンスドモード」のときに使用できます。「アドバンスドモード」に変更してから、確認の手順を行ってください。

次の手順でモードを確認します。

「コントロールパネル」を起動する。
(「スタート」ボタン→「設定」→「コントロールパネル」)
「コントロールパネル」が起動します。

「システム」をダブルクリック。
「システムのプロパティ」ウィンドウが表示されます。

「デバイスマネージャ」タブをクリック。
「デバイスマネージャ」タブのウィンドウが表示されます。

「システムデバイス」をダブルクリック。
「システムデバイス」フォルダの内容が表示されます。
このフォルダに次のデバイスがあることを確認します。

- ・ACPIモードのとき
「ACPI × × ×」など

- ・APMモードのとき
「アドバンスド パワーマネジメント サポート」

モードの切り替え

✓チェック!

TVモデルのモードの切り替え方については、『TVモデルガイド』をご覧ください。

モードの切り替え時の注意

- ・ACPIモードでは、電源管理用に割り込み要求(IRQ)を1つ使用します。
- ・モードの切り替えは、購入時のセットアップ直後か、再セットアップ直後のみできます。
- ・ACPIモード(購入時)からAPMモードに切り替えた後、APMモードからACPIモードに戻すには再セットアップが必要です。

📖 参照

再セットアップ→『困ったときのQ&A』の「PART2 再セットアップするには」

- ・モードの切り替え時にドライバを要求された場合は、画面の指示にしたがって、C: ¥Windows¥Options ¥Cabs よりドライバを組み込んでください。

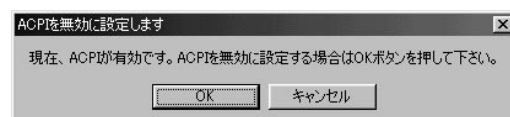
ACPI モードから APM モードに切り替える

「APMモードに必要なデバイスを組み込む」
「ソフトウェアパワーオフ機能を有効にする」
「ディスプレイの表示の設定を元に戻す」の順に設定をしてください。

■ APM モードに必要なデバイスを組み込む

「C:¥Modechg」フォルダを開く。
(「マイコンピュータ」→「Windows 98(C:)」→「Modechg」)

「acpi_apm」をダブルクリック。
次の画面が表示されます。



「OK」をクリック。
次の画面が表示されます。



「OK」をクリック。

「ハードウェアの追加」を起動する。
(「スタート」ボタン→「設定」→「コントロールパネル」→「ハードウェアの追加」)
「新しいハードウェアの追加ウィザード」ウィンドウが表示されます。

「次へ」をクリック。

「次へ」をクリック。

「デバイスは一覧にない」を選んで、「次へ」をクリック。

「はい」が選ばれていることを確認して、「次へ」をクリック。

「次へ」をクリック。
ハードウェアの検出が始まります。しばらくお待ちください。

「完了」をクリック。

「今すぐ再起動しますか?」と表示されたら「はい」をクリック。
本機が再起動します。

640 × 480 ドット、16 色画面となり、「ソフトウェアパワーオフ機能は無効です。」と表示されたら「OK」をクリック。

デバイスの組み込みが終了した後、「今すぐ再起動しますか?」と表示されたら「はい」をクリック。
本機が再起動します。

「ソフトウェアパワーオフ機能は無効です。」と表示されたら「OK」をクリック。

✓チェック!

「OK」をクリックできない場合は、キーボードの【Enter】を押してください。

■ ソフトウェアパワーオフ機能を有効にする

「ハードウェアの追加」を起動する。
(「スタート」ボタン→「設定」→「コントロールパネル」→「ハードウェアの追加」)
「新しいハードウェアの追加ウィザード」ウィンドウが表示されます。

「次へ」をクリック。

「次へ」をクリック。

「デバイスは一覧にない」を選んで、「次へ」をクリック。

「はい」が選ばれていることを確認して、「次へ」をクリック。

「次へ」をクリック。

ハードウェアの検出が始まります。しばらくお待ちください。

「完了」をクリック。

本機を再起動する。

(「スタート」ボタン→「Windows の終了」→「再起動する」→「OK」)

「C:\Modechg」フォルダを開く。

(「マイコンピュータ」→「Windows 98 (C:)」→「Modechg」)

「Acpiioff2」をダブルクリック。

「C:\MODECHG\ACPIOFF2.REG」の情報をレジストリに追加しますか?」と表示されたら「はい」をクリック。

「C:\MODECHG\ACPIOFF2.REG」の情報が、レジストリに正しく入力されました。」と表示されたら「OK」をクリック。

本機を再起動する。

(「スタート」ボタン→「Windows の終了」→「再起動する」→「OK」)

切り替えた後の注意

- ・APMモードからACPIモードに切り替えるには、再セットアップが必要です。



再セットアップ→『困ったときのQ&A』の「PART2 再セットアップするには」

- ・「今後、待機状態にならないようにしますか？」のメッセージが表示された場合は「いいえ」を選んでください。
- ・ACPIモードからAPMモードに切り替えると「Sound Blaster Pro or Compatible/ゲームポートジョイスティック」が追加されることがあります。「コントロールパネル」→「システム」→「デバイスマネージャ」→「サウンド、ビデオ、およびゲームのコントローラ」を開いて削除してください。
- ・別売の98配列USBキーボードをご利用の場合、ACPI/APMのモードの切り替えを実行すると、キーボードの設定が「106日本語(A01)」に変わってしまいます。切り替え完了後、98配列USBキーボードドライバを再設定してください。設定方法は、「スタート」ボタン→「プログラム」→「追加情報」の「Q: 別売の98配列USBキーボード(PK-KB011)を使いたい」をご覧ください。

APMモードでタイマー機能を利用する場合の注意

APMモードを使用すると、タイマー機能(「Timer-NX」)を使って、電源が切れている状態から時刻を指定して電源を入れることができます。

Timer-NX を利用するときの注意

- ・電源を切る時刻を指定しない場合は、自動的に電源が入っても、自動的に電源を切るできません。
- ・ネットワークの設定をしたり、「コントロールパネル」の「パスワード」や「ユーザー」の設定をしてWindows 98を起動するときに、パスワードやユーザー名を入力する画面が表示されるように設定していると、「Timer-NX」を使用して本機の電源を入れても、ユーザ名、パスワードの入力待ちの状態のままです。

- ・BIOSセットアップメニューで、「ユーザパスワード」「スーパーバイザパスワード」を設定していると、「Timer-NX」を使用して本機の電源を入れても、パスワード入力待ち状態で止まってしまいます。「Timer-NX」で自動的に本機の電源を入れる場合は、BIOSセットアップメニューで、「起動時のパスワード」を「使用しない」に設定してください。

- ・「Timer-NX」で自動的に本機の電源を入れる場合は、フロッピーディスクドライブにフロッピーディスクをセットしないようにしてください。

- ・タイマプログラムで指定した時刻とほぼ同じ時刻に手動で電源を入れた場合は、タイマーで起動したものと判断される場合があります(2～3分の誤差があります)。

- ・タイマプログラムを複数の曜日に設定している場合は、Windowsの終了時に次回起動予定の曜日が保存されます。このため、手動で電源を入れ、「Timer-NX」を起動すると、次回起動予定の曜日が初期値として表示されます。

- ・設定後に電源を切った状態で、本機の電源ケーブルを抜いたり、停電になったりした場合は、設定が無効になります。この場合、もう一度電源を入れ、Windowsが起動すると再設定されます。

ホームページスクラップブックで、Timer-NXと連携してオートパイロットするときの注意

- ・APMモードを使用すると「Timer-NX」と連携して、オートパイロットの開始時間に電源を入れ、オートパイロット終了後に電源を切ることができます。

- ・「Timer-NX」と連携してオートパイロットを行う場合は「オートパイロット終了と同時に」で設定されている内容とは関係なくオートパイロット終了後に回線を切断し、電源を切ります。

その他の注意

電源スイッチで、電源を切るときの動作

電源スイッチを押して、電源を切るときの動作は、APMモードの場合とACPIモードの場合で異なります。

APM モードの場合(*1)	終了確認のメッセージが表示されます。
ACPI モードの場合(*2)	終了確認のメッセージは表示されず、シャットダウン処理を行い、そのまま電源が切れます。 アプリケーションを使用中の場合は、アプリケーションの終了確認のメッセージ(「保存しますか?」など)が表示されることがあります。

- (*1): BIOS セットアップメニューの「省電力」-「システムスイッチ」で「パワーボタン」に設定されている場合。
- (*2): 「コントロールパネル」の「電源の管理」-「詳細」タブ-「コンピュータの電源ボタンを押したとき」で「シャットダウン」に設定されている場合。

付 録

- Windows NT 4.0 の利用
- 本体の各部の名称
- 機能仕様
- FAX モデムボード機能仕様

Windows NT 4.0 の利用

本機で別売の Windows NT Workstation 4.0 (以下、Windows NT 4.0) を利用する場合のセットアップ手順およびアップグレード手順について説明します。

✓チェック!!

Windows NT 4.0 の 2000 年問題対応について Windows NT 4.0 をご使用になる場合には、2000 年問題対応が必要になります。NEC のインターネットのホームページ「98Information」でコンピュータの 2000 年問題対応について、情報を提供していますので、必ず次のアドレスにアクセスし、Windows NT 4.0 の 2000 年問題対応の情報および修正プログラムを入手して適用してください。

<http://www.nec.co.jp/98/>

📖 参照

コンピュータの 2000 年問題 → 「サポートセンタ」-「困ったときの Q&A」-「トラブル解決 Q&A」-「よくある質問」

ここでの説明では次のようなドライブ構成を想定しています。これと異なるドライブ構成で利用する場合は読み替えてください。

Windows 98 がインストールされているドライブおよび Windows NT 4.0 をインストールするドライブ : C ドライブ
フロッピーディスクドライブ : A ドライブ
CD-ROM ドライブ : E ドライブ

Windows NT 4.0 を セットアップする前に

まず、「セットアップする前の準備」を行ってください。

✓チェック!!

Windows NT Server 4.0 は使用できません。

■ セットアップする前の準備

セットアップを開始する前に、次のことを確認してください。

■ フロッピーディスクの用意

あらかじめ、フロッピーディスクを 2 枚用意してください。

- ・ 1.44M バイトでフォーマットしておくこと
- ・ フォーマット時にシステムの転送は行わないこと
- ・ 「Windows NT 4.0 アップデートディスク」「システム修復ディスク」と書いたラベルを貼っておくこと

■ 「Service Pack5」CD-ROM の入手

セットアップの途中で「Service Pack5」をインストールする手順がありますので、「Service Pack5」CD-ROM を入手してください。

入手方法は以下のホームページを参照してください。

<http://www.microsoft.com/japan/products/ntupdate/NT4SP5/default.htm>

■ README.TXT を読む

「アプリケーション CD-ROM Vol.1」の「NT40」フォルダ内にある「README.TXT」には、マニュアルに記載されていない補足事項が書かれています。セットアップを行う前に必ずお読みください。

■ ドライバのインストール

ドライバのインストールを行う場合は、アドミニストレータの権限を持ったユーザーが行ってください。

■ 本体内蔵ハードディスクのフォーマット

本体内蔵のハードディスクは、FAT32 形式でフォーマットされているため、そのままでは Windows NT 4.0 はセットアップできません。Windows NT 4.0 セットアップ時に再フォーマットしてください。

■ Windows NT 4.0 を利用するための手順

必ず、ここに書いてある手順通りにセットアップ、アップグレードを行ってください。

1. アップデートディスクの作成
2. システム設定の変更
3. Windows NT 4.0 のセットアップ
4. ドライバのコピー
5. USB 接続のキーボードドライバのセットアップ
6. ドライバのアップデート

7. Windows NT 4.0 アップデートサービス Service Pack 5 のセットアップ
8. 内蔵アクセラレータ対応ドライバのセットアップ
9. 内蔵サウンド対応ドライバのセットアップ
10. 内蔵 FAX モデムボード対応ドライバのセットアップ
11. FAX モデムカードの利用について

Windows NT 4.0 の セットアップとアップグレード

次の手順で、本機に Windows NT 4.0 をセットアップし、アップグレードを行います。

1. アップデートディスクの作成

内蔵ハードディスクから Windows 98 を起動する。

MS-DOS プロンプトを起動する。

「スタート」ボタン→「プログラム」→「MS-DOS プロンプト」

「アプリケーション CD-ROM Vol.1」を CD-ROM ドライブに、「Windows NT 4.0 アップデートディスク」をフロッピーディスクドライブにセットする。

次のように入力する

E:【Enter】

CD ¥NT40【Enter】

CDNTUP A【Enter】

チェック!!

CDNTUP の後のフロッピーディスクドライブ名には、コロン「:」を付けないでください。

後は画面の指示にしたがって「Windows NT 4.0 アップデートディスク」の作成を行ってください。

「Windows NT 4.0 アップデートディスク」の作成が完了しました。...」と表示されたらドライブよりフロッピーディスク、CD-ROM を取り出す。

「Service Pack5」を CD-ROM ドライブに、「Windows NT 4.0 アップデートディスク」をフロッピーディスクドライブにセットする。

「スタート」ボタン→「プログラム」→「MS-DOS プロンプト」をクリック。

次のように入力する

E:【Enter】

CD ¥I386【Enter】

COPY HAL.DLL A:【Enter】

以上で、「アップデートディスクの作成」は終了です。

2. システム設定の変更

BIOS セットアップメニューで、次のようにシステム設定を変更してください。

チェック!!

この操作は、Windows NT 4.0 を利用する場合のみ行ってください。

本機の電源を入れる。

「NEC」のロゴ画面で、「< F2 > キーを押すと、BIOS セットアップメニューを起動します。」と表示されたら、【F2】を押す。

「セットアップを起動しています。...」と表示された後、BIOS セットアップメニューが起動します。

Advanced メニューで、次のように設定する。

・Plug & Play O/S : No

「Exit Saving Changes」で BIOS セットアップメニューを終了させて、本機の電源を切る。

チェック!!

Windows NT 4.0 で PC カードを使用する場合は、以下の手順でシステム設定を変更してください。

本体の電源を入れる。

「NEC」のロゴ画面で、「Press < F2 > -To Enter BIOS Setup」と表示されたら【F2】を押す。

「セットアップを起動しています。...」と表示された後、BIOS セットアップメニューが起動します。

詳細メニューで、次のように設定する。

・PCI Configuration

PCI IRQ line 1 :[5]

PCI IRQ line 2 :[10]

PCI IRQ line 3 :[5]

PCI IRQ line 4 :[10]

「変更を保存して終了する」で BIOS セットアップメニューを終了させて、本体の電源を切る。

3. Windows NT 4.0 のセットアップ

Windows NT 4.0 添付のマニュアルをご覧ください、次の手順でセットアップを行ってください。
ただし、次のことに注意してください。

- ・Windows NT 4.0 のセットアップが正常に終了したら、USB接続キーボードをお使いのかたは「USB 接続キーボードドライバのセットアップ」に、それ以外のかたは、「ドライバのコピー」の手順に進むこと。
- ・Windows NT 4.0 のセットアップ中に「ディスプレイの設定」ウィンドウが表示され、「Vga 互換ディスプレイアダプタ」が検出されました。」と表示されたら、そのまま「OK」をクリックして、処理を続行すること。

「Windows NT 4.0 Setup Disk 1」を、フロッピーディスクドライブにセットして本機の電源を入れる。

画面の指示にしたがってセットアップを行う。
セットアップの途中で、「キーボードの種類の選択」ウィンドウが表示されます。

106 日本語キーボードを選択する(【半角 / 全角】を押す)。

✓チェック!

ここでは接続しているキーボードの種類にかかわらず、「106 日本語キーボード」を選択してください。

「コンピュータには、次のハードウェアとソフトウェアがあります。」の画面で【↑】を押して「コンピュータ: 標準PC」にあわせ、【Enter】を押す。

「インストールするコンピュータの種類を変更します。」の画面で、「その他(ハードウェアメーカー提供のディスクが必要)」を選択し、【Enter】を押す。

「Windows NT 4.0 アップデートディスク」をフロッピーディスクドライブにセットし、【Enter】を押す。

「ハードウェアメーカーから提供されたディスク…」の画面で、「PC98-NX ValueStar NX」を選択し、【Enter】を押す。

「コンピュータには、次のハードウェアとソフトウェアがあります。」の画面で、「コンピュータ: PC98-NX ValueStar NX」が表示されていることを確認して、【Enter】を押す。

Windows NT をインストールするパーティション、ファイルシステム、ディレクトリを設定を行なう。ファイルシステムの選択画面では、「FAT ファイルシステムを使用してパーティションをフォーマット」を選択してください。

NTFS ファイルシステムをご使用になる場合には、FAT ファイルシステムで Windows NT 4.0 のセットアップを行なった後、ディスクアドミニストレータ、もしくはコマンドプロンプトから convert コマンドを使用して NTFS ファイルシステムに変換してください。FAT ファイルシステムと NTFS ファイルシステムの選択基準は『Windows NT 4.0 Workstation ファーストステップガイド』をご覧ください

画面の指示にしたがってセットアップを行う。

ファイルのコピー終了後、画面の指示にしたがいドライブよりフロッピーディスク、CD-ROM を取り出して、本機を再起動する。

これで Windows NT 4.0 のテキストセットアップは終了しました。

再起動すると、CD-ROM の挿入要求のメッセージが表示されます。

「Windows NT Workstation CD-ROM Disc 1」を CD-ROM ドライブにセットして「OK」をクリック。後は画面の指示にしたがってセットアップを行ってください。

4. ドライバのコピー

コマンドプロンプトを起動する。

(「スタート」ボタン→「プログラム」→「コマンドプロンプト」)

「アプリケーション CD-ROM Vol.1」を CD-ROM ドライブにセットする。

次のように入力する。

E: 【Enter】

CD ¥NT40 【Enter】

VC600J/1、VC550J/1、VC500J/1、

VE500J/1、VT500J/1 の場合

DRVCOPY.BAT 【Enter】

VC46H/1、VE46H/1 の場合

DRVCOPY2.BAT 【Enter】

画面の指示に従って、コピーする。

コピーが終了したら、CD-ROM ドライブから「アプリケーション CD-ROM」を取り出す。

5. USB 接続のキーボードドライバのセットアップ

本機に添付のキーボードおよび別売の USB109 キーボード、USB 小型キーボード、USB98 配列キーボードをお使いになるための各 USB キーボードドライバ

が「アップデートディスク」に格納されています。ここでは、USB 接続のキーボードドライバのセットアップの手順について説明します。

コントロールパネルを起動する。
(「スタート」ボタン→「設定」→「コントロールパネル」)

「キーボード」をダブルクリック。

「全般」タブをクリック。

「変更」をクリック。

「ディスク使用」をクリック。

「フロッピーディスクからインストール」画面で次のように入力して、「OK」ボタンをクリック。

C:¥NT40¥USB

「デバイスの選択」ウィンドウが表示されます。

「USB109日本語キーボード (JIS配列)」を選択して「OK」をクリック。

✓チェック!

USB98 配列キーボードの場合は「USB PC-9800 配列キーボード」を選択してください。

「閉じる」をクリック。

「新しい設定を有効にするには、コンピュータを再起動する必要があります。今すぐ再起動しますか?」と表示されます。

「はい」をクリック。

6. ドライバのアップデート

本機の機能を有効に使うために、次の手順で Windows NT 4.0 のドライバをアップデートします。

コマンドプロンプトを起動する。
(「スタート」ボタン→「プログラム」→「コマンドプロンプト」)

アップデートを実行する。
コマンドプロンプトから次のように入力します。

```
C:【Enter】
CD ¥NT40【Enter】
UPDATE【Enter】
```

次のウィンドウの内容をよく読んで「OK」をクリック。
ファイルのコピーが開始されます。



次のウィンドウが表示されたら、「Windows NTに戻る」をクリック。



Windows NT 4.0 を再起動する。

設定は、本機の再起動後に有効になります。

7. Windows NT 4.0 アップデートサービス Service Pack 5 のセットアップ

本機で Microsoft Windows NT 4.0 アップデートサービス「Service Pack 5」(以下 Service Pack 5)を利用する場合は、必ず次の手順を行ってください。

Service Pack 5 の「README.TXT」を読む。

Service Pack 5 のセットアップを行う。

✓チェック!

ファイルのコピーの途中で、「コピー先には、コピー元より新しいファイルが存在します。上書きしますか?」のメッセージが表示された場合は、「すべて上書きしない」を選んでください。

「Authenticode(tm) Security Technology」の画面が表示されたら、「Yes」ボタンをクリックしてセットアップを続行してください。

・本機で新しいコンポーネント(ドライバ等)を追加または変更した場合は、再度 Service Pack 5 をインストールする必要があります。

例)「コントロールパネル」の「ネットワーク」を使用してネットワークにインストールを行った場合

・本機に添付されていないアプリケーションやオプションボード等を追加される場合は、Service Pack 5 への対応状況をご確認の上でお使い下さい。

Window NT 4.0 を再起動する。

設定は、本機の再起動後に有効になります。

次に、「8. 内蔵アクセラレータ対応ドライバのセットアップ」に進んでください。

8. 内蔵アクセラレータ対応ドライバのセットアップ

本機内蔵アクセラレータを利用するため、次の手順でドライバをセットアップします。

コントロールパネルを起動する。
(「スタート」ボタン→「設定」→「コントロールパネル」)

「画面」をダブルクリック。

「ディスプレイの設定」タブをクリック。

「ディスプレイの種類」をクリック。

「変更」をクリック。

「ディスク使用」をクリック。
ドライバの入ったフロッピーディスクをセットするよう指示されます。

「フロッピーディスクからインストール」ウィンドウで次のように入力して、「OK」をクリック。

C:\NT40\I810GRPH

「ディスプレイ」のリストから次のものを選び、「OK」をクリック。

「Intel Corporation 810 Graphics Controller Hub」

ドライバ組み込み確認のメッセージが表示されるので「はい」をクリック。

ドライバ組み込み結果が表示されるので「OK」をクリック。

「閉じる」をクリック。

「閉じる」をクリック。

再起動を促すメッセージが表示されたら、「はい」をクリック。

自動的に Windows NT 4.0 が再起動されます。

9. 内蔵サウンド対応ドライバのセットアップ

本体内蔵サウンド機能を利用するため、次の手順でドライバをセットアップします。

VC600J/1、VC550J/1、VC500J/1、
VE500J/1、VT500J/1 の場合

コントロールパネルを起動する。
(「スタート」ボタン→「設定」→「コントロールパネル」をクリック)

「マルチメディア」をダブルクリック。

「デバイス」タブをクリック。

「追加」をクリック。

ドライバの一覧から「一覧にない、または更新されたドライバ」をクリックして、「OK」をクリック。

「ドライバのインストール」ウィンドウが表示されたら、ドライバ名と次のディレクトリを指定して「OK」をクリック。

C:\NT40\YMF740

ドライバの一覧で次のドライバを選択し、「OK」をクリック。

YAMAHA DS-XG AudioDriver (Japanese)

「YAMAHA DS-XG オーディオドライバ」ウィンドウが表示されるので、「OK」をクリック。

再起動を促すメッセージが表示されたら、「再起動する」をクリック。

自動的に Windows NT 4.0 が再起動されます。

VC46H/1、VE46H/1 の場合

本体内蔵のサウンド機能を利用するため、次の手順でドライバをセットアップします。

Windows NT 4.0 が起動したら Administrator の権限を持つユーザでログオンする。

「スタート」ボタン→「ファイル名を指定して実行」をクリック。

次のように入力する。

C:\NT40\YMF752\SETUP.EXE

「次へ」をクリック。

「OK」をクリック。

再起動を促すメッセージが表示されたら、「はい、直ちにコンピュータを再起動します。」を選択して「OK」をクリック。

Windows NT 4.0 が再起動されます。

Windows NT 4.0 が起動したら、Administrator の権限を持つユーザでログオンする。

「スタート」ボタン→「ファイル名を指定して実行」をクリック。

次のように入力する。

C:\NT40\Y752MIDI\DISK1\SETUP.EXE

「次へ」をクリック。

「はい」をクリック。

「次へ」をクリック。

「OK」をクリック。

再起動を促すメッセージが表示されたら、「はい、直ちにコンピュータを再起動します。」を選択して「OK」をクリック。

Windows NT 4.0が再起動されます。

10. 内蔵 FAX モデムボード対応ドライバのセットアップ

「スタート」ボタン→「ファイル名を指定して実行」をクリック。

次のように入力する。

C:\¥NT40¥MODEM¥SETUP.EXE

「次へ」をクリック。

「NEC Fax Modem 56K Data+Fax(DJP)」が表示されていることを確認し、「次へ」をクリック。

「完了」をクリック。

Windows NT を再起動する。

以上で内蔵 FAX モデムボードのセットアップは完了しました。

11. FAX モデムカードの利用について

FAXモデムカードを利用する場合は、次のような設定が必要な場合があります。

・FAX モデムカードの認識確認

次の手順でFAXモデムカードがWindows NTで正しく認識されていることを確認してください。

PC カードスロットにFAX モデムカードを入れる。

本機を起動する。

コントロールパネルを起動する。

(「スタート」ボタン→「設定」→「コントロールパネル」をクリック)

「PC カード(PCMCIA)」をダブルクリック。

「ソケットの状態」タブをクリック。

目的のFAX モデムカードを選択する。

✓チェック!!

目的のFAX モデムカードの名前が見つからない場合は、PC カードが正しく挿入されていない可能性があります。シャットダウン後、本機の電源を切って、FAX モデムカードを差し込み直してください。

「プロパティ」ボタンをクリック。

「カード情報」タブをクリック。

FAXモデムカードがWindows NTで正しく認識されている場合には、「デバイスマップ」の画面が表示され、使用するFAXモデムカードのCOM番号が表示されます。このCOM番号はモデムのセットアップやリソース(IRQ)の変更時に使用しますので、控えておいてください。

✓チェック!!

「利用不可」と表示された場合は、FAX モデムカードのリソース(IRQ)が他のデバイスと競合している可能性があります。FAXモデムカードのリソース(IRQ)を変更してください。

・モデムのセットアップ

FAXモデムカードをダイヤルアップネットワークなどで使用する場合には、モデムのセットアップが必要です。

次の手順で行ってください。

コントロールパネルを起動する。

(「スタート」ボタン→「設定」→「コントロールパネル」をクリック)

「モデム」をダブルクリック。

初めてのモデムをセットアップする場合は、自動的に「新しいモデムのインストール」の画面が表示されます。既にモデムがセットアップされている場合は、「モデムのプロパティ」が表示されます。「追加」ボタンをクリックすると「新しいモデムのインストール」の画面が表示されます。

「次へ」ボタンをクリック。

✓チェック!!

・モデムが検出されなかった場合、FAXモデムカードに割り当てられているリソース(IRQ)が妥当でない可能性があります。「FAX モデムカードのリソース(IRQ)の変更」をご覧になり、FAXモデムカードのリソース(IRQ)を変更してからモデムのセットアップをしてください。

・使用する FAX モデムカードに Windows NT 用の .inf ファイルが添付されている場合は、次の手順で .inf ファイルをインストールしてください。

.inf ファイルの入ったフロッピーディスクをフロッピーディスクドライブにセットする。

「変更」ボタンをクリック。

「ディスク使用」ボタンをクリック。
コピー元にフロッピーディスクドライブのドライブ名を入力し、「OK」ボタンをクリック。

使用する FAX モデムカードの名称をクリックし、「OK」ボタンをクリック。

使用する FAX モデムカードの COM 番号上のモデム名が変更されたことを確認し、「次へ」ボタンをクリック。

「所在地情報」画面が表示された場合、所在地情報を入力し、「次へ」ボタンをクリック。

「完了」ボタンをクリック。

✓チェック!!

Windows NT 用の .inf ファイルがない場合には、Windows 98 用の .inf ファイルで代用できることもあります。ただし、Windows 98 用の .inf ファイルすべてが Windows NT で正しく動作するわけではありません。上記の手順のあとに進むか、または FAX モデムカードの通信速度に合った「(標準のモデムドライバ)」に変更してください。

・モデムのセットアップ確認
次の手順でモデムが正しくセットアップされているかを確認します。

ハイパーターミナルを起動する。
「スタート」ボタン→「プログラム」→「アクセサリ」の「ハイパーターミナル」をクリック。
「新しい接続」ウィザードが表示されます。

「キャンセル」ボタンをクリック。

「ファイル」メニューの「プロパティ」をクリック。

「接続方法」リストから使用するモデム名をクリック。

「モデムの設定」ボタンをクリックして「ポート」に正しい COM 番号が表示されているか確認し、「OK」ボタンをクリック。

「OK」ボタンをクリック。

ハイパーターミナルのウィンドウ内に「AT」と入力。

【Enter】を押す。

モデムのセットアップが正しく行われている場合には、「OK」のメッセージが表示されます。ハイパーターミナルの画面に「AT」と表示されず、「OK」のメッセージも表示されない場合は、Windows NT で FAX モデムカードが認識されていないか、モデムのセットアップが正常に終了していない可能性があります。「モデムのセットアップ」をご覧になり、FAX モデムカードが正しくセットアップされているか確認してください。

・FAX モデムカードのリソース(IRQ)の変更

FAX モデムカードが Windows NT で正しく認識されなかったり、正しく動作しない場合はリソース(IRQ)が他のデバイスと競合している可能性があります。この場合は、次の手順でリソース(IRQ)を変更してください。

✓チェック!!

次の手順では FAX モデムカードレジストリ設定ツールを使用してレジストリを操作するため、使用方法を誤ると重大な障害が発生する可能性があります。使用に際しては、十分注意してください。またレジストリのバックアップをとっておくことをおすすめします。

本機で利用可能なリソース(IRQ)を、このマニュアルの前編『拡張ガイド』で確認する。

Windows NT 診断プログラムを起動する。
('スタート'ボタン→「プログラム」→「管理ツール」→「Windows NT 診断プログラム」をクリック)

「リソース」タブをクリック。

現在のリソース(IRQ)の設定状況が表示されるので、空いているリソース(IRQ)を確認してください。Windows NT では、FAX モデムカードは本機内蔵のシリアルポートと同じ「Serial」というデバイス名で表示されます。IRQ 4 の「Serial」は本機内蔵のシリアルポート、IRQ 4 以外の「Serial」が FAX モデムカードを表しています。

コントロールパネルを起動する。

('スタート'ボタン→「設定」→「コントロールパネル」をクリック)

「シリアルポート」をダブルクリック。

✓チェック!!

「コントロールパネル」の「PC カード(PCMCIA)」で、デバイスマップが「利用不可」と表示されている場合は、ここでポートを追加する必要があります。次の手順で COM ポートを追加してください。

1. 「追加」ボタンをクリック。
2. 「OK」ボタンをクリック。
3. 再起動を促すメッセージが表示されたら、「再起動しない」をクリック。

「FAX モデムカードの利用について」で確認したポート、または手順 の注意で追加したポートをクリック。

「設定」ボタンをクリック。

「詳細」ボタンをクリック。

「I/Oポートアドレス」リストで「既定値」をクリック。

「割り込み番号 (IRQ)」リストから、現在空いているリソース (IRQ) をクリック。

「OK」ボタンをクリック。

再起動を促すメッセージが表示されたら、「再起動しない」ボタンをクリック。

「閉じる」ボタンをクリック。

「スタート」ボタン→「ファイル名を指定して実行」をクリック。

「名前」の部分に「C:\NT40\DRIVERS\REG」と入力し、「OK」ボタンをクリック。
FAX モデムカードレジストリ設定ツールが起動し、「Serial*」表示されます。

「Serial*」の * の部分をFAXモデムカードのCOM番号から「1」を引いた値になるように設定する。

例 COM1 の場合 → 「Serial0」
COM2 の場合 → 「Serial1」

手順 の注意の手順でCOMポートを追加した場合には、追加した順番に Serial10000、Serial10001 となります。

「OK」ボタンをクリック。

レジストリが書き換えられ、FAXモデムカードレジストリ設定ツールが終了します。

本機を再起動する。

以上で、リソース (IRQ) の変更は終了です。

本機で Windows NT 4.0 を利用するときの注意

- ・本機に添付されている Windows NT 4.0 のドライバは、本機専用です。他機種では使用しないでください。

・リモートアクセスサービスを設定する場合は、「内蔵 FAX モデムボードのセットアップ」の手順で FAX モデムボードをセットアップした後、「コントロールパネル」の「ネットワーク」を起動して行ってください。リモートアクセスサービスの設定については、Windows NT 4.0 のマニュアルやオンラインヘルプをご覧ください。

・Windows NT 4.0 は、NEC 製のキーボード、マウス、USB ハブ内蔵液晶ディスプレイ以外の USB 機器をサポートしていません。

・Windows NT 4.0 を利用する場合は、添付のキーボードにある CD/DVD 制御ボタン、ワンタッチスタートボタン、【スリープ】ボタンの機能は使えません。

・スタンバイ状態のときは、USB 接続のキーボード、マウスの抜き差しを絶対行わないでください。誤って行ってしまった場合には、スタンバイ状態からの復帰後は USB 接続のキーボード、マウスが使用できなくなります。このようなときは、電源スイッチを 4 秒以上押し続けて強制的に電源を切ってください。この方法で強制的に電源を切った場合、保存していないデータは消えてしまいます。

・省電力機能 (スタンバイ) で問題が発生する場合は、省電力機能 (スタンバイ) を無効にしてください。「コントロールパネル」の「電源の管理」で次のように設定します。

システムスタンバイ：なし

モニタの電源を切る：なし

ハードディスクの電源を切る：なし

また、BIOS セットアップメニューでは、「省電力管理」を次のように設定します。

システムスイッチ：パワーボタン

・TV モデルで、Windows NT 4.0 を利用する場合、地上波 TV & データ放送ボードおよび「ビットキャストブラウザ」「ADAMS ナビ」「モジモジ-NX」は使用できません。

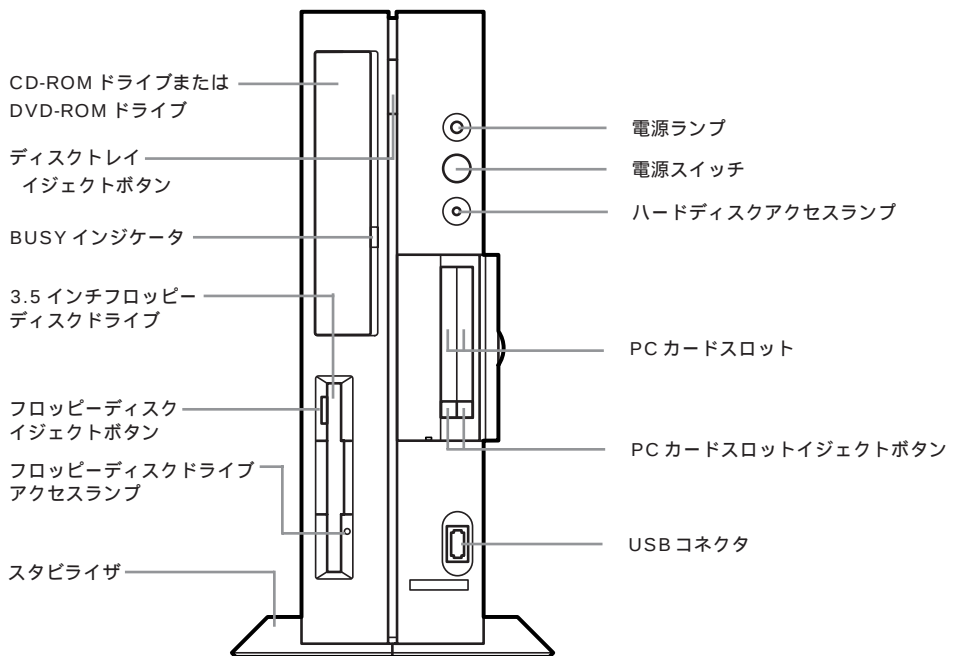
・Windows NT 4.0 では、音声または動画を再生中にスタンバイ状態にしないでください。

・ディスプレイは、リフレッシュレート 60 Hz 以外の周波数をサポートしていません。

本体の各部の名称

本体の各部の名称とその役割について説明しています。
TV モデルについては、『TV モデルガイド』をご覧ください。

本体前面



電源スイッチ ()

電源を入れるスイッチ。電源を切るときは、Windows 98 の「スタート」メニューで「Windows の終了」をクリックして「電源を切れる状態にする」を選んで「OK」をクリックします。電源スイッチを切る / 入れる操作はコンピュータに負担をかけるので、少なくとも 5 秒以上の間隔をあけてください。

チェック!!

ソフトウェアが明らかに停止している状態になった場合は、電源スイッチを約 4 秒以上押し続けることで、強制的に電源を切ることができます。なお、この場合、作成中のデータなどは消えてしまいます。

停電や、電源ケーブルを抜いているために本体に電源が供給されていないときは、電源スイッチを押しても電源を入れることはできません。

電源ランプ

電源の入 / 切状態を表示するランプ。電源を入れると緑色に、スタンバイ状態ではオレンジ色に点灯します。

ハードディスクアクセスランプ ()

ハードディスクの動作中に点灯するランプ。

チェック!!

点灯中は電源スイッチを押さないでください。ハードディスクの内容が壊れることがあります。

PC カードスロット

PC カードを取り付けるスロット。2 スロットあります。PC カードには、メモリカードやモデムカード、SCSI インターフェイス対応機器とつなげるための SCSI カードなどいろいろな種類があります。

PC カードスロットイジェクトボタン

PC カードを PC カードスロットから取り出すときに使うボタン。

USB コネクタ ()

USB 対応機器を接続するためのコネクタ。

Windows 98でのみ使用可能。USBコネクタに接続する周辺機器が本機で使えるかどうかは、周辺機器の製造元または発売元にご確認ください。

チェック!!

添付のキーボードとマウスは、Windows NT 4.0 でも使用できます。

CD-ROM ドライブまたはDVD-ROM ドライブ

・CD-ROM モデル

CD-ROM や音楽 CD を入れるところ。

・DVD-ROM モデル

DVD-ROM やCD-ROM、音楽CDを入れるところ。

ディスクトレイジェクトボタン

ディスクをセットするディスクトレイを出し入れするためのボタン。

BUSY インジケータ

CD-ROM ドライブからデータを読み出しているときに点灯します。

チェック!!

点灯中は電源を切ったり、CD-ROM を取り出したりしないでください。CD-ROM ドライブの故障の原因となります。

3.5 インチフロッピーディスクドライブ

3.5 インチサイズのフロッピーディスクを入れるところ。

フロッピーディスクジェクトボタン

フロッピーディスクをフロッピーディスクドライブから取り出すときに使うボタン。

フロッピーディスクドライブアクセスランプ

フロッピーディスクドライブの動作中に点灯するランプ。

スタビライザ

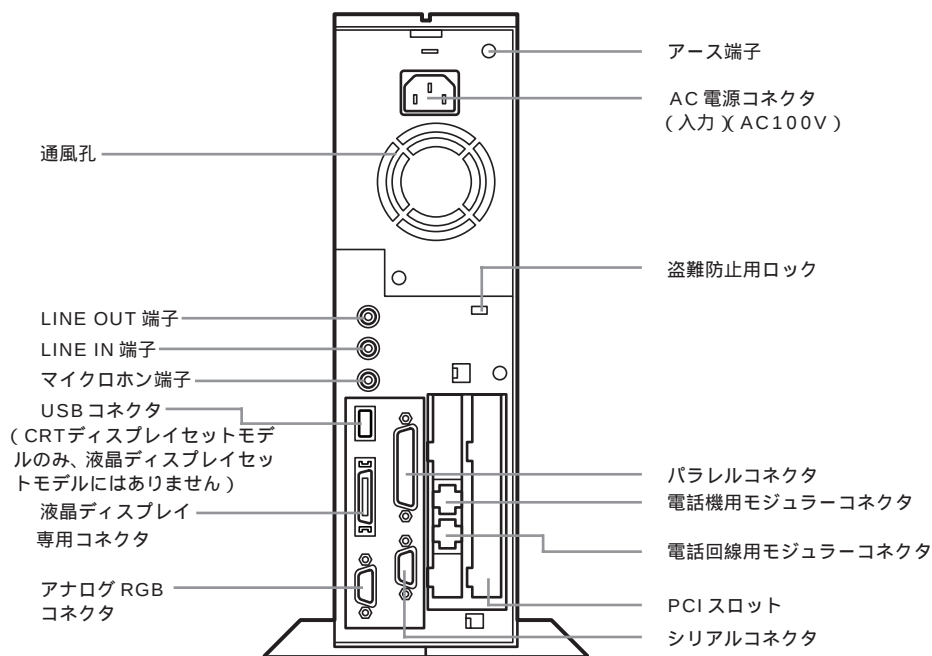
本体を安定して設置するための脚。

チェック!!

スタビライザは必ず付属のネジで本体に固定してください。また、本体を横置きにする場合は、ネジとスタビライザをなくさないよう大切に保管してください。

本体背面

各アイコンの向きは、下の説明と異なることがあります。



AC 電源コネクタ(入力 X AC100V)
ACコンセントから本体に電源を供給するためのコネクタ。添付の電源ケーブルを接続します。
本体添付の電源ケーブルは、AC コンセント側が普通の 2 ピン、本体側が特殊な 3 ピンになっています。

アース端子()
アース線を接続するための端子。

盗難防止用ロック()
市販の盗難防止用ケーブル(Kensington 社製など)
を接続できます。
盗難防止用ロックを使用することで、ルーファカバーが
ロックされるため、本体内部のハードディスクや
RAM サブボードなどの盗難を予防できます。

✓チェック!!

盗難防止用ロックは、Kensington 社製のマイクロー
サーパーセキュリティシステムに対応しています。日
本国内総販売代理店の連絡先は、次の通りです。
(1999 年 9 月現在)

日本ポラロイド株式会社
電子映像事業部

〒105-8456 東京都港区虎ノ門3丁目2番2号
第30森ビル

Tel : 03-3438-8879

Fax : 03-5473-1630

シリアルコネクタ()

周辺機器を接続するためのコネクタ。
通信を行うときに必要な通信機器や、イメージスキャ
ナなどの周辺機器を接続します。

✓チェック!!

- ・PC-9800 シリーズ用の機器を接続する場合は、別
売のRS-232C変換アダプタ(PK-CA102)が必要
です。PK-CA102 は別売のプリンタインタフェ
ース変換アダプタ(PK-CA101)と同時に取り付ける
ことはできません。
- ・周辺機器によっては、変換アダプタを使用すると動
作しないことがあります。

電話機用モジュラーコネクタ()
電話機を接続するためのコネクタ。

電話回線用モジュラーコネクタ()
電話回線を接続するためのコネクタ。

PCI スロット

本機の機能を強化したり拡張したりするための各種ボードを、挿入するためのスロット。高速なデータ転送ができる PCI バスに対応。

通風孔

本体内部の熱を逃がすための孔です。壁などでふさがないように注意してください。

LINE IN 端子(ステレオ)()

市販のオーディオ機器などから、音声信号(ステレオ)を本体に入力するためのミニジャック端子。

LINE OUT 端子(ステレオ)()

添付の外付けスピーカや市販のオーディオ機器などに、音声信号(ステレオ)を出力するためのミニジャック端子。

マイクロホン端子(モノラル)()

マイクロホンを接続するためのミニジャック端子。

パラレルコネクタ()

プリンタなどを接続するためのコネクタ。

✓チェック!!

PC-9800シリーズ用のプリンタケーブルを接続する場合は、別売のプリンタインタフェース変換アダプタ(PK-CA101)が必要です。PK-CA101は、別売のRS-232C変換アダプタ(PK-CA102)と同時に取り付けることはできません。

USB コネクタ()

(CRTディスプレイセットモデルのみ)

USB 対応機器を接続するためのコネクタ。

Windows 98でのみ使用可能。USBコネクタに接続する周辺機器が本機で使用できるかどうかは、周辺機器の製造元または発売元にご確認ください。

✓チェック!!

添付のキーボードとマウスは、Windows NT 4.0 でも使用できます。

液晶ディスプレイ専用コネクタ()

液晶ディスプレイセットモデルにセットの液晶ディスプレイを接続するためのコネクタです。セットの液晶ディスプレイ以外は接続できません。

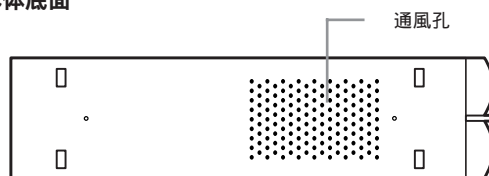
アナログRGB コネクタ()

アナログRGB対応ディスプレイを接続するためのコネクタ。

✓チェック!!

液晶ディスプレイセットモデルの場合、このコネクタに別売のディスプレイを接続して2台のディスプレイを接続してもマルチモニタサポート機能は使えません。

本体底面



通風孔

本体内部の熱を逃がすための孔。

底面にスタビライザを取り付けることで、通風孔をふさがない状態になります。

✓チェック!!

パソコン本体を横置きにする場合は、通風孔をふさがないようにしてください。

機能仕様

TV モデルは、『TV モデルガイド』をご覧ください。

VC600J/1、VC550J/1、VC500J/1、VE500J/1

モデル		VC600J/1	VC550J/1	VC500J/1	VE500J/1
CPU		Pentium® プロセッサ(600MHz)	Pentium® プロセッサ(550MHz)	Pentium® プロセッサ (500MHz)	
		キャッシュメモリ 32Kバイト セカンドキャッシュメモリ 512Kバイト (CPUに内蔵)			
メモ リ	BIOS ROM		512Kバイト、プラグ&プレイ対応		
	RAM 1	メインRAM	128Mバイト 2 ユーザーズメモリ 127.6Mバイト		64Mバイト 2 ユーザーズメモリ 63.6Mバイト
			DIMMスロット×2 (うち1スロットに128Mバイトメモリを取り付け済) 最大256Mバイト		DIMMスロット×2 (うち1スロットに64Mバイトメモリを取り付け済) 最大256Mバイト
		ディスプレイキャッシュ	4Mバイト (SDRAM)		
		ビデオRAM	8～11Mバイト 2		
表示 機能	グラフィックアクセラレータ		Intel®810e Chipset内蔵		
	グラフィック表示	640×480ドット		16色/256色/65,536色/1,677万色 4	
		800×600ドット		256色/65,536色/1,677万色 4	
		1,024×768ドット		256色/65,536色/1,677万色 4	
		1,280×1,024ドット 3		256色/65,536色/1,677万色 4	
入 力 装 置	キーボード	USBコネクタに接続、セパレートタイプ、JIS標準配列 (英数、かな)、109キーレイアウト、CD/DVD制御ボタン、スリープボタン、ワンタッチスタートボタン、テンキー・12ファンクションキー・Windowsキー・アプリケーションキー付、USBバスパスワードハブ (2ポート) 付き			
	マウス	スクロール機能付きマウス標準装備 (添付のキーボードに接続)			
補 助 記 憶 装 置	フロッピーディスクドライブ	3.5型フロッピーディスクドライブ1台内蔵 720Kバイト、1.2Mバイト、1.44Mバイトフロッピーディスク使用可能			
	ハードディスク	約17Gバイト	約13Gバイト		
		Microsoft Windows 98 Second Editionをインストール済			
	DVD-ROM	DVD-ROMドライブ : 標準搭載 DVD-ROM読み込み : 最大6倍速 CD-ROM読み込み : 最大32倍速			
	5型ベイ	1スロット (DVD-ROMで1スロット占有済) [空きスロット 0]			
	内蔵3.5型ベイ	1スロット (ハードディスクで1スロット占有済) [空きスロット 0]			
PCIスロット		1スロット			
PCカードスロット		Type ×2 (Type ×1スロットとしても使用可) PC Card Standard準拠 Card Bus対応			
サ ウ ン ド 機 能 5	サウンドチップ	YAMAHA製 YMF740			
	音源	FM音源32音 PCM録音/再生機能 PCM 8/16ビット 5～48KHz ウェーブテーブルシンセサイザー機能搭載 (XG、GM演奏モード対応)			
	サラウンド	エンハンスドステレオ対応			
	スピーカ	液晶ディスプレイに内蔵			ステレオスピーカ添付
通信機能	モデム	データ転送速度 最大送信33.6Kbps / 最大受信56Kbps、V.90、K56flex、V.34、V.32bis、V.32、V.22bis、V.22、V.21 エラー訂正V.42/MNP4、データ圧縮V.42bis/MNP5			
	FAX	データ転送速度 最大14.4Kbps (V.17)、FAX制御 CLASS 1			

VC600J/1、VC550J/1、VC500J/1、VE500J/1

モデル		VC600J/1	VC550J/1	VC500J/1	VE500J/1
インターフェイス	ディスプレイ	アナログRGBセパレート信号出力(75Ωアナログインターフェイス、カラー、ミニD-Sub 15ピン)、液晶ディスプレイ専用(専用30ピン) 6			
	オーディオ	入力	マイク入力(モノラル) 入力インピーダンス 10KΩ 入力レベル最大100mVrms ゲイン20dB ライン入力(ステレオ) 入力インピーダンス 10KΩ 入力レベル最大2Vrms ゲイン - 6dB		
		出力	ライン出力(ステレオ) 出力レベル最大1Vrms(負荷インピーダンス47kΩ)		
	プリンタ	パラレルインターフェイス(D-Sub25ピン)			
	シリアル	最大115,200bps(D-Sub 9 ピン)			
	USB 7	本体	1ポート内蔵		2ポート内蔵
		キーボード	2ポート内蔵		
カレンダー・時計		電池によるバックアップ			
電源		AC 100V±10%、50/60Hz			
温湿度条件		10～35 、20～80% 8(ただし結露しないこと)			
外形寸法	本体	86(W)×320(D)×305(H)mm (ゴム足、突起部除く) 155(W)×320(D)×316(H)mm (スタビライザ取り付け時)			
	キーボード	454(W)×186(D)×41(H)mm			
質量	本体	約7.4kg			
	キーボード	約1.2kg			
消費電力 9	標準構成時	約66W	約56W	約54W	約31W
	内蔵オプション 最大接続時	107W	97W	95W	60W
	スタンバイモード時	約25W	約24W	約23W	約20W

- 1 利用 OS により、使用可能なメモリ容量は異なります。
- 2 ビデオ RAM は、メイン RAM を使用します。
- 3 本機にセットの液晶ディスプレイでは表示できません。
- 4 VC550J/1 および VC500J/1 にセットの液晶ディスプレイでは、ディザリングにより 1,611 万色となります。
- 5 サウンド機能を利用したアプリケーションソフトのうちハードウェアを直接制御しているものは、一部使用できないものがあります。
アプリケーションソフト購入に際しては、発売元に確認してください。
- 6 液晶ディスプレイセットモデルにセットの液晶ディスプレイを接続する専用ポートです。セットの液晶ディスプレイ以外は接続できません。
- 7 Windows 98 でのみサポート。接続する周辺機器の使用可否については、周辺機器の製造元または発売元にご確認ください。
- 8 18～28、45～75%での使用を推奨します。
- 9 液晶のディスプレイセットモデルの場合、セットの液晶ディスプレイの消費電力を含みます。

VC46H/1、VE46H/1

モデル		VC46H/1	VE46H/1
CPU		Intel® Celeron™ プロセッサ (466MHz) キャッシュメモリ32Kバイト セカンドキャッシュメモリ128Kバイト (CPUに内蔵)	
メモ リ	BIOS ROM	512Kバイト、プラグ&プレイ対応	
	メインRAM	64Mバイト 2 ユーザーズメモリ 63.6 Mバイト	
	RAM 1	DIMMスロット×2 (うち1スロットに64Mバイトメモリを取り付け済) 最大256Mバイト	
	ディスプレイキャッシュ	—	
	ビデオRAM	10～13Mバイト 2	
表 示 機 能	グラフィックアクセラレータ	Intel®810 Chipset内蔵	
	グラフィック表示	640×480ドット 16色/256色/65,536色/1,677万色 4 800×600ドット 256色/65,536色/1,677万色 4 1,024×768ドット 256色/65,536色/1,677万色 4 1,280×1,024ドット 3 256色/65,536色/1,677万色 4	
	キーボード	USBコネクタに接続、セパレートタイプ、JIS標準配列 (英数、かな)、109キーレイアウト、CD/DVD制御ボタン、スリープボタン、ワンタッチスタートボタン、テンキー・12ファンクションキー・Windowsキー・アプリケーションキー付、USBバスパスワードハブ (2ポート) 付き	
	マウス	スクロール機能付きマウス標準装備 (添付のキーボードに接続)	
	補助記憶装置	フロッピーディスクドライブ 3.5型フロッピーディスクドライブ1台内蔵 720Kバイト、1.2Mバイト、1.44Mバイトフロッピーディスク使用可能	
補 助 記 憶 装 置	ハードディスク	約13Gバイト Microsoft Windows 98 Second Editionをインストール済	
	CD-ROM	最大40倍速、CD-ROMドライブ標準搭載	
	5型ベイ	1スロット (CD-ROMで1スロット占有済) [空きスロット0]	
	内蔵3.5型ベイ	1スロット (ハードディスクで1スロット占有済) [空きスロット0]	
	PCIスロット	1スロット	
PCカードスロット		TYPE ×2スロット (TYPE ×1も可) PC Card Standard準拠 Card Bus対応	
サ ウ ン ド 機 能	サウンドチップ	Intel®810 Chipset内蔵	
	音源	PCM録音/再生機能 PCM 8/16ビット 8～48KHz	
	サラウンド	エンハンスドステレオ対応	
	5 スピーカ	液晶ディスプレイに内蔵	ステレオスピーカ添付
通信機能	モデム	データ転送速度 最大送信33.6Kbps / 最大受信56Kbps、V.90、K56flex、V.34、V.32bis、V.32、V.22bis、V.22、V.21 エラー訂正V.42/MNP4、データ圧縮V.42bis/MNP5	
	FAX	データ転送速度 最大14.4Kbps (V.17)、FAX制御 CLASS 1	

VC46H/1、VE46H/1

モデル		VC46H/1	VE46H/1	
インターフェイス	ディスプレイ	アナログRGBセパレート信号出力(75Ωアナログインターフェイス、カラー、ミニD-Sub 15ピン)、液晶ディスプレイ専用(専用30ピン) 6		
	オーディオ	入力	マイク入力(モノラル) 入力インピーダンス 10KΩ 入力レベル最大100mVrms ゲイン20dB ライン入力(ステレオ) 入力インピーダンス 10KΩ 入力レベル最大2Vrms ゲイン - 6dB	
		出力	ライン出力(ステレオ) 出力レベル最大1Vrms(負荷インピーダンス47kΩ)	
	プリンタ	パラレルインターフェイス(D-Sub25ピン)		
	シリアル	最大115,200bps(D-Sub 9 ピン)		
	USB 7	本体	1ポート内蔵	2ポート内蔵
		キーボード	2ポート内蔵	
カレンダー時計		電池によるバックアップ		
電源		AC 100V±10%、50/60Hz		
温湿度条件		10～35℃、20～80% RH(ただし結露しないこと)		
外形寸法	本体	86(W)×320(D)×305(H)mm (ゴム足、突起部除く) 155(W)×320(D)×316(H)mm (スタビライザ取り付け時)		
	キーボード	454(W)×186(D)×41(H)mm		
質量	本体	約7.3kg		
	キーボード	約1.2kg		
消費電力 9	標準構成時	約46W(14型液晶ディスプレイセットモデル) 約51W(15型液晶ディスプレイセットモデル)	約29W	
		内蔵オプション 最大接続時	87W(14型液晶ディスプレイセットモデル) 92W(15型液晶ディスプレイセットモデル)	58W
	スタンバイモード時	約22W	約19W	

- 1 利用 OS により、使用可能なメモリ容量は異なります。
- 2 ビデオ RAM は、メイン RAM を使用します。
- 3 本機にセットの 15 型 CRT ディスプレイおよび液晶ディスプレイでは表示できません。
- 4 セットの液晶ディスプレイは、ディザリングにより 1611 万色表示となります。
- 5 サウンド機能を利用したアプリケーションソフトのうちハードウェアを直接制御しているものは、一部使用できないものがあります。
アプリケーションソフト購入に際しては、発売元に確認してください。
- 6 液晶ディスプレイセットモデルにセットの液晶ディスプレイを接続する専用ポートです。セットの液晶ディスプレイ以外は接続できません。
- 7 Windows 98 でのみサポート。接続する周辺機器の使用可否については、周辺機器の製造元または発売元にご確認ください。
- 8 18～28℃、45～75% RHでの使用を推奨します。
- 9 液晶ディスプレイセットモデルの場合、セットの液晶ディスプレイの消費電力を含みます。

セットのスピーカの機能仕様(CRT ディスプレイセットモデルのみ)

	フラットパネルスピーカ
最大定格出力	1.2W + 1.2W
ヘッドホン出力	5mW + 5mW
外形寸法	約108(W)×72(D)×178.7(H)mm (片側)
重量	約727g (ケーブル、ACアダプタ含む)

FAX モデムボード機能仕様

■ 機能概要

CPU I/F	PCIローカルバスインターフェイス
NCU部	・ダイヤルパルス送出機能 ・リング検出機能
モデムチップセット部	・115.2Kbpsまでのデータ・モデム・スループット - V.90 - K5.6flex - V.34 - V.32bis - V.32、V.22bis、V.22、V.21 - V.42LAPMおよびMNP4エラー訂正 - V.42bisおよびMNP5データ圧縮 ・最高14.4Kbpsのファックス・モデム送受信速度 - V.17、V.29、V.27ter、V.21チャンネル2 ・HayesATコマンドセット - AT - Sレジスタ ・回線品質モニタリングおよびオートリトレイン ・受信ライン信号品質に基づく自動ライン・スピード選択 ・フロー制御およびスピード・バッファリング ・パラレル非同期データ ・自動ダイヤルおよび自動アンサー ・トーンおよびパルスダイヤリング(DTMFトーン、ダイヤルパルス制御)

■ FAX 機能

項目	規格
交信可能ファクシミリ装置	ITU-T G3ファクシミリ装置
適用回線	加入電話回線
同期方式	半二重調歩同期方式
通信速度	14,400/12,000/9,600/7,200/4,800/2,400/300bps 注
通信方式	ITU-T V.17/V.29/V.27ter/V.21ch2
変調方式	QAM : 14,400/12,000/9,600/7,200bps DPSK : 4,800/2,400bps FSK : 300bps
送信レベル	-10 ~ -15dBm(出荷時 -15dBm)
受信レベル	-10 ~ -40dBm
制御コマンド	EIA-578拡張ATコマンド(CLASS 1)

注 回線状態によって通信速度が変わる場合があります。

■ データモデム 機能

項 目	規 格
適用回線	加入電話回線
同期方式	全二重調歩同期方式
通信速度	送 受 信: 33,600/31,200/28,800/26,400/24,000/21,600/19,200/16,800/14,400/12,000/9,600 7,200/4,800/2,400/1,200/300bps 注 受信のみ: 56,000/54,667/54,000/53,333/52,000/50,667/50,000/49,333/48,000/46,667/46,000 45,333/44,000/42,667/42,000/41,333/40,000/38,667/38,000/37,333/36,000/34,667 34,000/33,333/32,000/30,667/29,333/28,000bps 注
通信規格	K56flex ITU-T V.90/V.34/V.32/V.32bis/V.22/V.22bis/V.21
変調方式	TCM: 56,000/54,667/54,000/53,333/52,000/50,667/50,000/49,333/48,000/46,667/46,000 45,333/44,000/42,667/42,000/41,333/40,000/38,667/38,000/37,333/36,000/34,667 34,000/33,600/33,333/32,000/31,200/30,667/29,333/28,800/28,000/26,400/24,000 21,600/19,200/16,800/14,400/12,000/9,600/7,200bps QAM: 9,600/7,200bps DPSK: 4,800/2,400/1,200bps FSK: 1,200/300bps
エラー訂正	ITU-T V.42(LAPM) MNP class4
データ圧縮	ITU-T V.42bis MNP class5
送信レベル	-10 ~ -15dBm(出荷時 -15dBm)
受信レベル	-10 ~ -40dBm
制御コマンド	HayseATコマンド準拠

注 回線状態によって通信速度が変わる場合があります。

■ NCU 機能

項 目	規 格
適用回線	加入電話回線
ダイヤル方式	パルスダイヤル(10/20PPS) トーンダイヤル(DTMF)
NCU形式	AA(自動発信 / 自動着信型) MA(手動発信 / 自動着信型) MM(手動発信 / 手動着信型) AM(自動発信 / 手動着信型)
制御コマンド	HayesATコマンド準拠 EIA-578拡張ATコマンド(CLASS 1)

AT コマンド * については、このパソコンの電子マニュアル「サポートセンタ」の「パソコンを使いこなそう」-「ハードウェア情報」-「AT コマンド一覧」, あるいは「スタート」ボタン→「サポートセンタ」→「AT コマンド一覧」をご覧ください。

* : 米国 Hayes 社が開発したコマンド体系。DTE(パソコンなどの端末機器)から電話回線に対してこのコマンドを送ることで自動発着信を行なうことができる

索 引

数字

3.5インチフロッピーディスクドライブ	112、163
3Dアクセラレータボード	18、52

A ~ N

ACPIモード	147
AC電源コネクタ (AC100V)	164
APMモード	147
AV機器	11
BIOSセットアップメニュー	138
BUSYインジケータ	163
CardBus	44
CD/DVD制御ボタン	104、108
CD-RWドライブ	16、69
DIMM	59
DMAチャンネル	91、96
DSU	13
FAXモデムボード	134
FAXモデムボード機能仕様	170
IRQ	95
ISDN	13
ISDNターミナルアダプタ	13、14
LAN (ネットワーク) カード	18
LAN (ネットワーク) ボード	18、52
LINE IN端子	12、165
LINE OUT端子	12、165
MIDI	129
MOディスクドライブ	16、69
PC9800シリーズのキーボード	107
PC Card Standard	44
PCカードスロット	44
PCIスロット	52、165
PCIボード	18、52
PCM	129
RAMサブボード	52
SCSI	18、69
SCSI ID	70
SCSI-2	70
SCSIインターフェイス	69
SCSIインターフェイスボード	52、71、77
SCSI機器接続ケーブル	71

Ultra SCSI	70
Ultra Wide SCSI	70
USB	34
USBコネクタ	35、37、163、165
USBハブ	35、41
USBリンクケーブル	17
Windows NT 4.0の利用	154
Windows 98起動ディスク	113

ア行

アース端子	164
アナログRGBコネクタ	165
インクジェットプリンタ	9
【インターネット】ボタン	108
インターフェイス	34
衛星インターネットボード	18
液晶ディスプレイ専用コネクタ	165

カ行

解像度	116、118
簡易解像度切り替え機能	119
キーの名称	103
キーの役割	103
キーボード	103
キーボード プロパティ	105
コンパクトフラッシュ	15

サ行

再生/一時停止	108
サウンド機能	129
【サポートセンタ】ボタン	108
終端BOX	69、71
省電力機能 (スタンバイ)	123
シリアルコネクタ	164
スーパーバイザパスワード	141、144
スクロールボタン	100
スタビライザ	163
スタンバイ状態	123
スピーカ	129
スマートメディア	15
【スリープ】ボタン	104、108、124
赤外線通信インタフェースユニット	19
セキュリティの設定	141

走査周波数	116
増設RAMサブボード	58、59
【ソフト終了】ボタン	108
外付け用ハードディスク	16、77

タ行

ターミナルアダプタ	13
ターミネータ	69、71
タイマー機能	123、124
ダブルクリックの速度	101
通信速度	134、170
通風孔	165
次のトラック/早送り	108
ディスクトレイエジェクトボタン	163
ディスプレイ	116
デジチェーン	69
停止	108
デジタルカメラ	15
デバイスマネージャ	92
電源管理モード	147
電源スイッチ	162
電源の管理	119
電源ランプ	162
電話回線用モジュラーコネクタ	165
電話機用モジュラーコネクタ	165
盗難防止用ロック	164
ドットインパクトプリンタ	9
ドライバ	22、23
ドライビングホイール	19
ドライブ名	81

ハ行

ハードディスク	16、76
ハードディスクアクセスランプ	162
ハーフサイズのPCIボード	52
ハイパワーデバイス	41
ハウリング	11
パスワード	143
パスワードの解除	145
パラレルコネクタ	165
左きき用（マウス）	101
【ビットキャストブラウザ】ボタン	108
表示色	116、118

フォーマット	87
プラグ&プレイ	25
フラッシュメモリ	15
プリンタ	9
ブレイスティック	19
プレイパッド	19
フロッピーディスク	112
フロッピーディスクエジェクトボタン	163
フロッピーディスクの種類	112
フロッピーディスクドライブアクセスランプ	163
ページプリンタ	9
ヘッドホン端子	12、130
ボリュームアップ	108
ボリュームコントロール	130
ボリュームダウン	108
本体各部の名称	162

マ行

マイクロホン端子	11、130、165
マウス	100
マウス プロパティ	101
前のトラック/巻き戻し	108
右きき用（マウス）	101
【メール】ボタン	108
メモリ	58、59、60
モード	147、148

ヤ・ラ・ワ行

ヤマハDS-XG設定	133
ユーザパスワード	141、144
【ランチ-NX】ボタン	108
リソース	91
リソースの競合	91
領域	82、84
ルーフカバー	26
レーザープリンタ	9
割り込みレベル（IRQ）	91、95
ワンタッチスタートボタン	104、108

やりたいこと別マニュアルガイド

あなたのやりたいことがどのマニュアルに書いてあるか、このガイドを参考に探してください。

パソコンの接続とセットアップをしたい	まずこれ! 接続と準備
フロッピーディスクを使いたい	まずこれ! 接続と準備
CD-ROM や DVD-ROM (DVD モデルのみ) を使いたい	まずこれ! 接続と準備
サポートセンタについて知りたい	まずこれ! 接続と準備
インターネットでできることが知りたい	たのしもう! インターネット
インターネットを利用したい	たのしもう! インターネット
電子メールを使いたい	たのしもう! インターネット
BIGLOBE に入会したい	たのしもう! インターネット
マウスの使い方を知りたい	練習! パソコンの基本
キーボードで文字を打ってみたい / ワープロを使いたい	練習! パソコンの基本
パソコンのお手入れをしたい	練習! パソコンの基本
音声でパソコンを操作したい	練習! パソコンの基本
バックアップを取りたい	練習! パソコンの基本、困ったときの Q&A
どんなアプリケーションが入っているか知りたい	練習! パソコンの基本、サポートセンタ
パソコンが思うように動かない	困ったときの Q&A、サポートセンタ
再セットアップしたい	困ったときの Q&A
マニュアル総索引を使いたい	困ったときの Q&A
プリンタを使いたい	拡張!活用! バリュースター
PC カードを使いたい	拡張!活用! バリュースター
周辺機器を取り付けたい	拡張!活用! バリュースター
このパソコンの拡張性について知りたい	拡張!活用! バリュースター
このパソコンの機能について詳しく知りたい	拡張!活用! バリュースター
パソコン用語の意味を知りたい	サポートセンタ
アプリケーションの使い方が知りたい	サポートセンタ
アプリケーションを追加 / 削除したい	サポートセンタ
年賀状やあいさつ状を作りたい	サポートセンタ
受けられるサポートについて知りたい	サポートセンタ
デジタルカメラやインターネットの画像を加工したい	サポートセンタ
FAX を送受信したい	サポートセンタ
テレビや地上波データ放送を見たい (TV モデルのみ)	TV モデルガイド

わかる、できる、役に立つ!! ⑤

拡張！活用！ビジネスター



PC98-**NX** SERIES

VALUESTAR NX

初版 1999年10月

NEC

P

808-884475-008-A

このマニュアルはエコマーク認定の再生紙
(古紙率:表紙 50%、本文 100%)を使用しています。

